

鑄鉄管類規格の変遷

JDPA T 50



一般社団法人
日本ダクタイル鉄管協会

1. はじめに

わが国において鑄鉄管が使用されるようになったのは、明治初期のことであり、当時ヨーロッパより輸入された鑄鉄管が使用されていました。その後、明治中期になってわが国において鑄鉄管の製造が始まるとともに全国に普及しました。

大正3年、わが国最初の鑄鉄管規格が制定され、以後、材質、継手の構造、製造方法などの技術革新により、さまざまな規格が制定、改正及び廃止され現在に至っています。

本書は、年代順に水道、下水道、工業用水道及び農業用水用鑄鉄管類の規格をまとめたものです。

2. 鑄鉄管の材質及び製造方法

近代工業の発展に伴い、わが国の鑄鉄管の材質は、普通鑄鉄、高級鑄鉄からダクタイル鑄鉄に変わり、製造方法（直管）は、置注鑄造法から遠心力鑄造法に変わりました。

材質の移り変わり及び製造方法の開発の歴史を下表に示します。

鑄鉄管の材質の変遷

年次	材質
1890年頃～1940年頃 (明治中期～昭和10年代中頃)	普通鑄鉄 (抗張力20 kgf/mm ² 未満)
1930年頃～1970年頃 (昭和5年頃～昭和40年代中頃)	高級鑄鉄 (抗張力20 kgf/mm ² 以上)
1954年以降 (昭和29年以降)	ダクタイル鑄鉄 (球状黒鉛鑄鉄)

鑄鉄管(直管)の製造方法の開発の歴史

年次	鑄造法
1893年(明治26年)	※置注鑄造法(合わせ型横込め鑄造法)
1900年(明治33年)	※置注鑄造法(立吹鑄造法)
1908年(明治41年)	※置注鑄造法(回転盤式立吹鑄造法)
1940年(昭和15年)	※砂型遠心力鑄造法
1950年(昭和25年)	金型遠心力鑄造法
1957年(昭和32年)	サンドレジ型遠心力鑄造法

備考 ※の製造方法は、現在実施されていません。

3. 鋳鉄管の各種規格の名称

鋳鉄管の各種規格名称の移り変わりを下表に示します。

鋳鉄管の各種規格名称の移り変わり

年次	国家規格	各種規格		
		(公社)日本水道協会規格	(公社)日本下水道協会規格	(一社)日本ダクタイル鉄管協会規格
1904年 (明治37年)	——	【上水協議会設立】	——	——
1914年 (大正3年)	——	上水協議会規格	——	——
1928年 (昭和3年)	日本標準規格 (JES)	——	——	——
1932年 (昭和7年)	——	【(社)水道協会】	——	——
1939年 (昭和14年)	臨時日本標準規格 (臨JES)	——	——	——
1947年 (昭和22年)	——	——	——	【鋳鉄管倶楽部設立】
1948年 (昭和23年)	——	——	——	【鋳鉄管協会】
1951年 (昭和26年)	——	(社)水道協会規格 (JWSA)	——	——
1953年 (昭和28年)	日本工業規格 (JIS)	——	——	——
1956年 (昭和31年)	——	【(社)日本水道協会】 (社)日本水道協会規格 (JWSA)	——	——
1957年 (昭和32年)	——	——	——	鋳鉄管協会標準仕様書
1959年 (昭和34年)	——	——	——	鋳鉄管協会仕様書
1964年 (昭和39年)	——	——	【(社)日本下水道協会設立】	——
1965年 (昭和40年)	——	(社)日本水道協会規格 (JWWA)	——	【日本鋳鉄管協会】 日本鋳鉄管協会規格
1967年 (昭和42年)	——	——	——	日本鋳鉄管協会(標準)
1968年 (昭和43年)	——	——	——	日本鋳鉄管協会規格 (JCPA)
1977年 (昭和52年)	——	——	——	【日本ダクタイル鉄管協会】 日本ダクタイル鉄管協会規格 (JDP A)
1984年 (昭和59年)	——	——	(社)日本下水道協会規格 (JSWAS)	——
2012年 (平成24年)	——	——	【(公社)日本下水道協会】 (公社)日本下水道協会規格 (JSWAS)	【(一社)日本ダクタイル鉄管協会】 (一社)日本ダクタイル鉄管協会規格 (JDP A)
2013年 (平成25年)	——	【(公社)日本水道協会】 (公社)日本水道協会規格 (JWWA)	——	——
2019年 (令和元年)	日本産業規格 (JIS)	——	——	——

4. 鑄鉄管類の規格の変遷

(1) 規格年表

- ・ 鑄鉄管の規格年表を4～9頁に示します。
- ・ 塗覆装、表示などの規格年表を10～13頁に示します。

(2) 規格の変遷

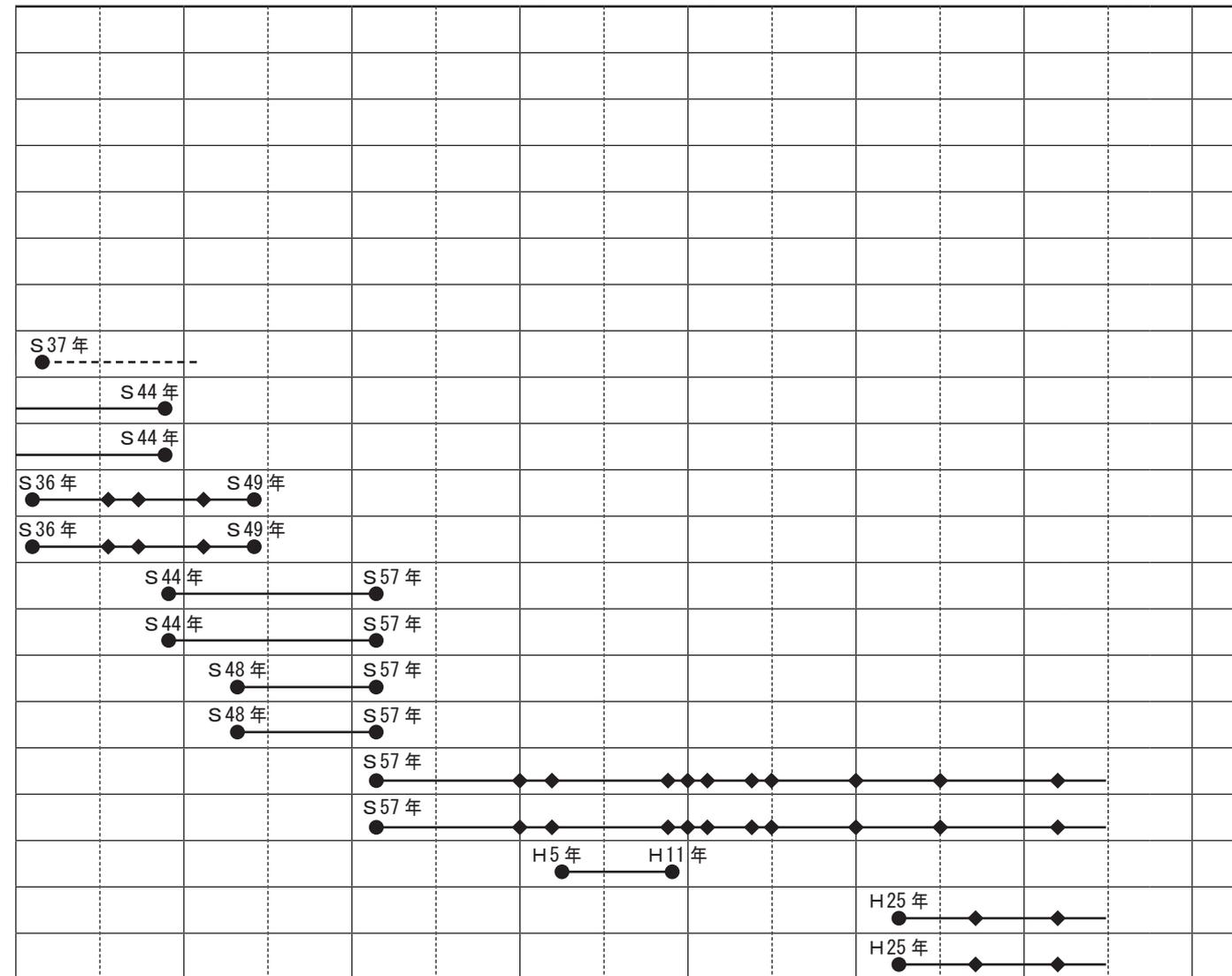
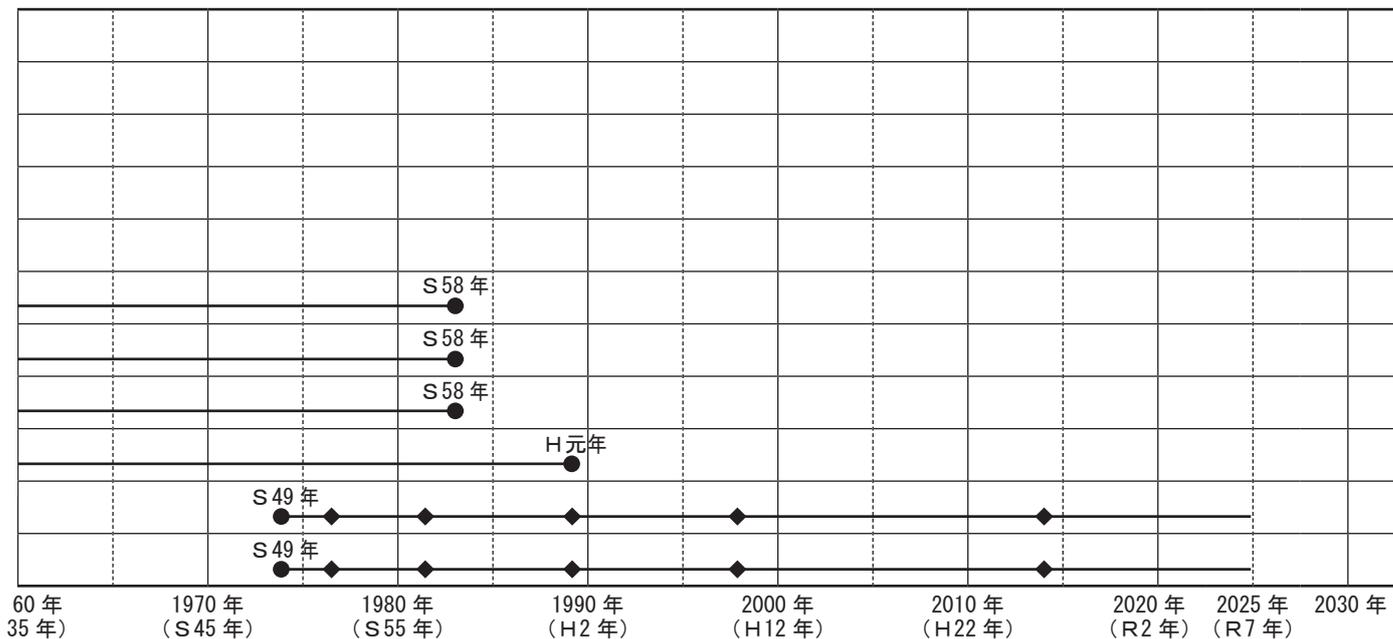
鑄鉄管類の規格の変遷を14～69頁に示します。

鑄鉄管の規格年表 (1 / 3)

年 号	1920年 (T9年)	1930年 (S5年)	1940年 (S15年)	1950年 (S25年)	19 (S)
日本産業規格類					
JES 第 80 号類別 G21 水道用鑄鉄管規格		S3年	S12年		
JES 第 272 号類別 G36 水道用高級鑄鉄管規格		S9年		S29年	
臨 JES 第 11 号類別 G 水道用高級鑄鉄薄手管規格			S14年	S29年	
臨 JES 第 328 号類別 G 水道用遠心力砂型鑄鉄管臨時規格			S17年	S29年	
土木工事戦時規格			S18年		
JIS G 5521 水道用立型鑄鉄管				S29年	
JIS G 5522 水道用遠心力砂型鑄鉄管				S29年	
JIS G 5523 水道用遠心力金型鑄鉄管				S29年	
JIS G 5524 水道用鑄鉄異形管				S29年	
JIS G 5526 ダクタイル鑄鉄管					
JIS G 5527 ダクタイル鑄鉄異形管					
(公社) 日本水道協会規格類					
水道用鑄鉄管仕様書標準	T3年		S12年		
水道用鑄鉄管規格		T14年 S3年			
水道用高級鑄鉄管規格		S8年		S29年	
水道用高級鑄鉄薄手管規格			S13年 S14年		
水道用高級鑄鉄管臨時規格			S15年		
水道用砂型遠心力鑄鉄管臨時規格			S17年		
水道用遠心力金型鑄鉄管				S25年 S29年	
水道用鑄鉄異形管実用管種表 (厚生省監修)					
JWSA G 102 水道用メカニカルジョイント形鑄鉄直管					S34年
JWSA G 103 水道用メカニカルジョイント形鑄鉄異形管					S34年
JWSA G 105 水道用遠心力ダクタイル鑄鉄管					
JWSA G 106 水道用ダクタイル鑄鉄異形管					
JWWA G 108 水道用遠心力鑄鉄管					
JWWA G 109 水道用鑄鉄異形管					
JWWA G 110 水道用 T 形遠心力ダクタイル鑄鉄管					
JWWA G 111 水道用 T 形ダクタイル鑄鉄異形管					
JWWA G 113 水道用ダクタイル鑄鉄管					
JWWA G 114 水道用ダクタイル鑄鉄異形管					
JWWA G 114-2 水道用うず巻式ダクタイル鑄鉄フランジ付き T 字管 (消火栓用)					
JWWA G 120 水道用 G X 形ダクタイル鑄鉄管					
JWWA G 121 水道用 G X 形ダクタイル鑄鉄異形管					

備考 1. ●— は制定、◆— は改正、●— は廃止を示す。 2. 規格名称は、最新のものを記載した。

60年 (S35年) 1970年 (S45年) 1980年 (S55年) 1990年 (H2年) 2000年 (H12年) 2010年 (H22年) 2020年 (R2年) 2025年 (R7年) 2030年



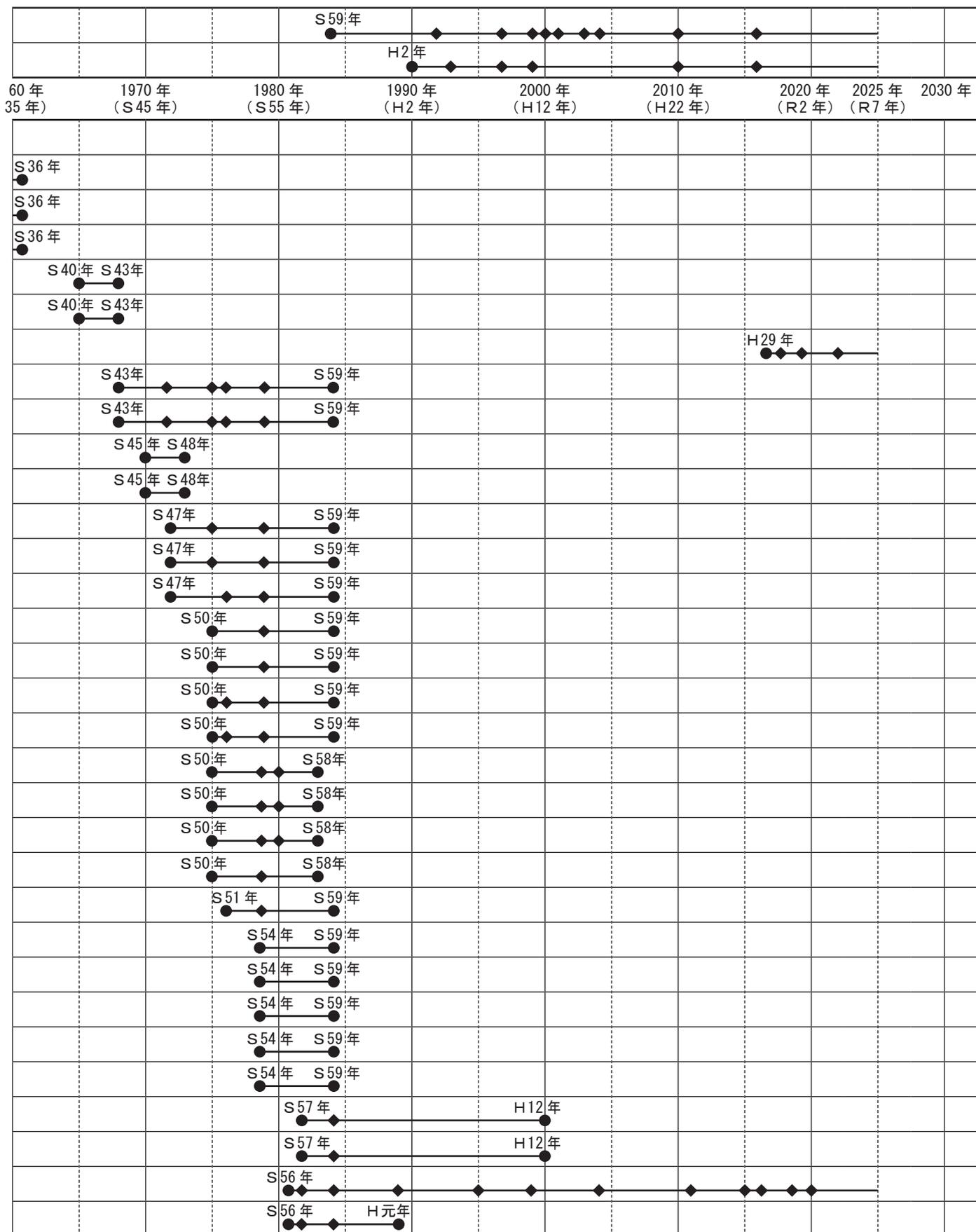
(T = 大正 S = 昭和 H = 平成 R = 令和)

鑄鉄管の規格年表 (2 / 3)

年 号	1920年 (T9年)	1930年 (S5年)	1940年 (S15年)	1950年 (S25年)	19 (S)
(公社) 日本下水道協会規格					
JSWAS G-1 下水道用ダクタイトイル鑄鉄管					
JSWAS G-2 下水道推進工法用ダクタイトイル鑄鉄管					
(一社) 日本ダクタイトイル鉄管協会規格					
水道用メカニカルジョイント型鑄鉄直管、鑄鉄異形管及び付属品					S32年 S34年 ●—●
メカニカル型水道用遠心力砂型ダクタイトイル鑄鉄直管					S34年 ●
メカニカル型水道用立型ダクタイトイル鑄鉄直管					S34年 ●
メカニカル型水道用ダクタイトイル鑄鉄異形管					S34年 ●
K形遠心力ダクタイトイル鑄鉄管					
K形ダクタイトイル鑄鉄異形管					
JDPA A 3000 ダクタイトイル鑄鉄管、異形管及び接合部品—共通仕様—					
JDPA G 1001 K形遠心力ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1002 K形ダクタイトイル鑄鉄異形管					
JCPA G 1003 タイトン形水道用遠心力ダクタイトイル鑄鉄管					
JCPA G 1004 タイトン形水道用ダクタイトイル鑄鉄異形管					
JDPA G 1007 U形遠心力ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1008 U形ダクタイトイル鑄鉄異形管					
JDPA G 1009 フランジ形ダクタイトイル鑄鉄長管					
JDPA G 1010 U F形遠心力ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1011 U F形ダクタイトイル鑄鉄異形管					
JDPA G 1012 K F形遠心力ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1013 K F形ダクタイトイル鑄鉄異形管					
JDPA G 1014 U形推進工法用遠心力ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1015 U F形推進工法用遠心力ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1016 T形推進工法用遠心力ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1017 T C形推進工法用遠心力ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1018 K形ダクタイトイル鑄鉄管用F N形継手					
JDPA G 1019 S形遠心力ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1020 S形ダクタイトイル鑄鉄異形管					
JDPA G 1021 S II形遠心力ダクタイトイル鑄鉄管					
JCPA G 1022 S II形ダクタイトイル鑄鉄異形管					
JDPA G 1024 T形遠心力ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1025 下水道用ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1026 下水道用ダクタイトイル鑄鉄管継手					
JDPA G 1027 農業用水用ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1028 農業用水用ダクタイトイル鑄鉄管継手					

備考 1. ●—は制定、◆は改正、●は廃止を示す。 2. 規格名称は、最新のものを記載した。

60年 (S35年) 1970年 (S45年) 1980年 (S55年) 1990年 (H2年) 2000年 (H12年) 2010年 (H22年) 2020年 (R2年) 2025年 (R7年) 2030年



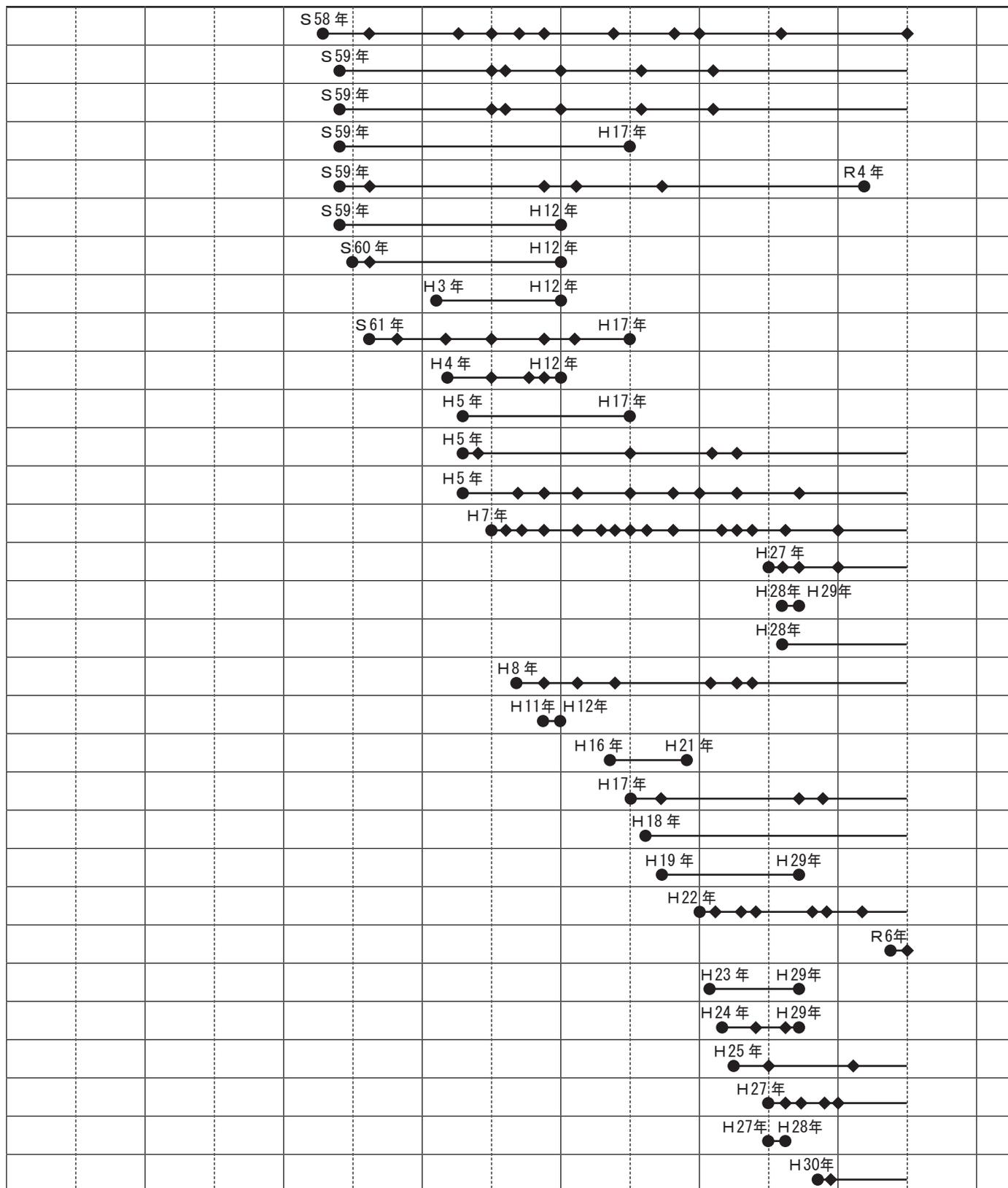
(T = 大正 S = 昭和 H = 平成 R = 令和)

鑄鉄管の規格年表 (3 / 3)

年 号	1920 年 (T9 年)	1930 年 (S5 年)	1940 年 (S15 年)	1950 年 (S25 年)	19 (S)
(一社)日本ダクタイトイル鉄管協会規格					
JDPA G 1029 推進工法用ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1030 ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1031 ダクタイトイル鑄鉄異形管					
JDPA G 1032 フランジ形ダクタイトイル鑄鉄直管					
JDPA G 1033 P II 形ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1034 U S 形ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1035 下水道推進工法用ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1036 下水道推進工法用G S 形ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1037 呼び径50ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1038 うず巻式ダクタイトイル鑄鉄フランジ付きT字管(消火栓用)					
JDPA G 1039 ボール式ダクタイトイル鑄鉄可とう管ユニット					
JDPA G 1040 ダクタイトイル鑄鉄管用ステンレス鋼製ボルト・ナット					
JDPA G 1041 ダクタイトイル鑄鉄製貯水槽(耐震用・緊急用)					
JDPA G 1042 N S 形ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1042-2 N S 形ダクタイトイル鑄鉄管(E 種管)					
JDPA G 1042-2-1 N S 形ダクタイトイル鑄鉄管(E 種管)					
JDPA G 1042-3 N S 形ダクタイトイル鑄鉄管(G タイプ)					
JDPA G 1043 ダクタイトイル鑄鉄製水管橋					
JDPA G 1044 浅層埋設形ダクタイトイル鑄鉄フランジ付きT字管(空気弁用・消火栓用)					
JDPA G 1045 農業用水用(低圧用)K L 形ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1046 P N 形ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1047 N S 形防食ゴム付き切管用挿しロリング					
JDPA G 1048 U S 形ダクタイトイル鑄鉄管 (L S 方式)					
JDPA G 1049 G X 形ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1049-2 G X 形ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1050 U S 形切管用挿しロリング					
JDPA G 1051 P N 形ダクタイトイル鑄鉄管 (J P 方式及びC P 方式)					
JDPA G 1052 S 50 形ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1053 A L W 形ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 1053-2 A L W 形ダクタイトイル鑄鉄管					
JDPA G 3002-2 U S 形ダクタイトイル鑄鉄管 (R 方式)					

備考 1. ●は制定、◆は改正、●は廃止を示す。 2. 規格名称は、最新のものを記載した。

60年 35年)	1970年 (S45年)	1980年 (S55年)	1990年 (H2年)	2000年 (H12年)	2010年 (H22年)	2020年 (R2年)	2025年 (R7年)	2030年
-------------	-----------------	-----------------	----------------	-----------------	-----------------	----------------	----------------	-------



(T = 大正 S = 昭和 H = 平成 R = 令和)

塗覆装、表示などの規格年表 (1 / 2)

年 号	1920 年 (T 9 年)	1930 年 (S 5 年)	1940 年 (S 15 年)	1950 年 (S 25 年)	19 (S
-----	-------------------	-------------------	--------------------	--------------------	----------

日本産業規格

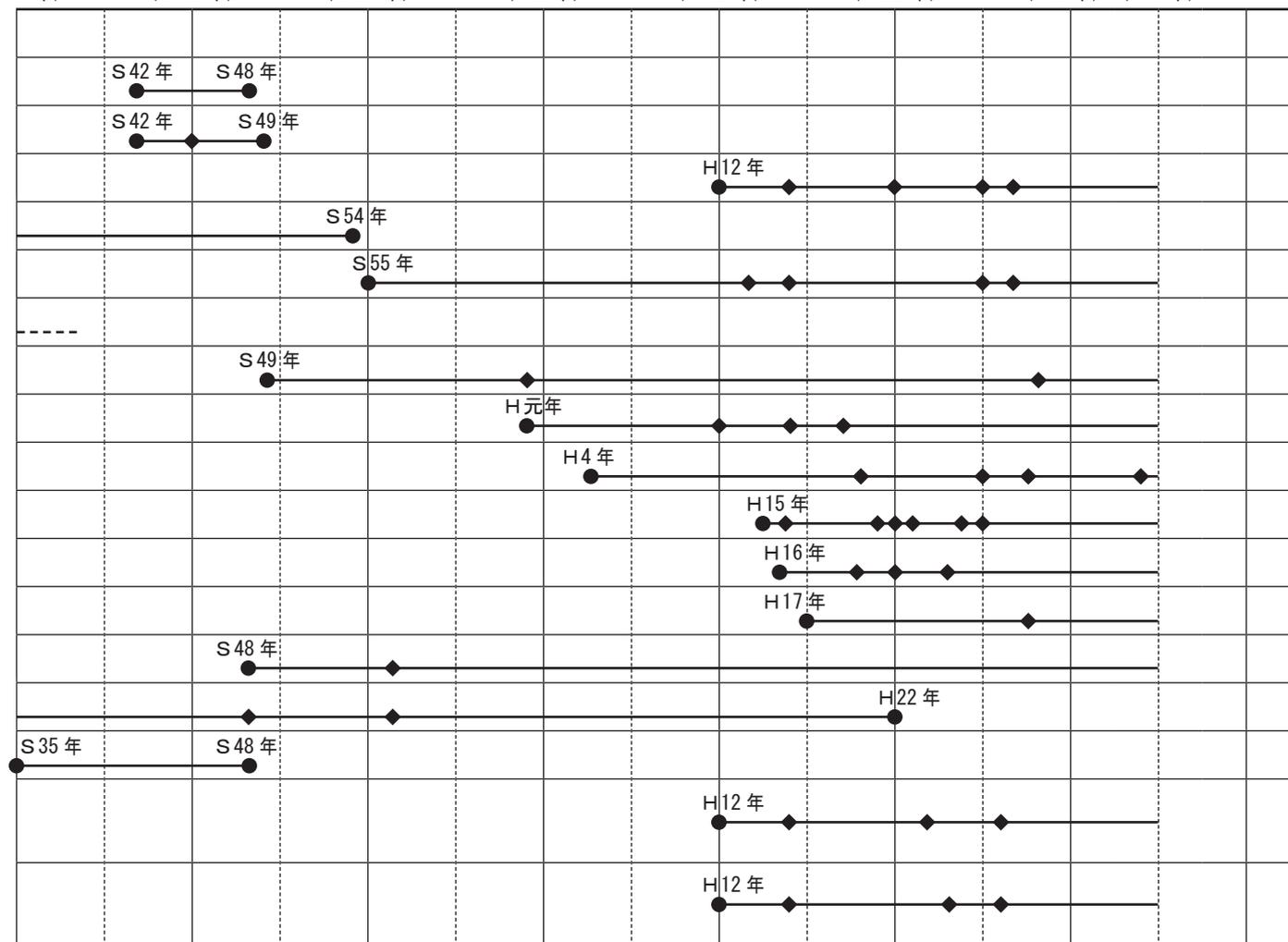
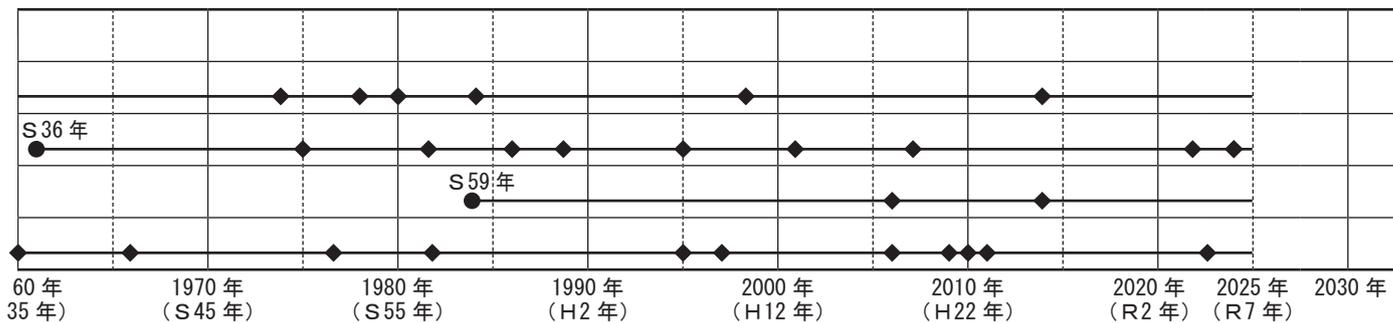
臨JES 第499号類別K 水道用ゴムパッキン				S 18 年	
JIS A 5314 ダクタイル鋳鉄管モルタルライニング					S 33 年
JIS G 5502 球状黒鉛鋳鉄品					
JIS G 5528 ダクタイル鋳鉄管内面エポキシ樹脂粉体塗装					
JIS K 6353 水配管接合部用ゴム(旧規格名称：水道用ゴム)				S 28 年	

(公社)日本水道協会規格

	1920 年 (T 9 年)	1930 年 (S 5 年)	1940 年 (S 15 年)	1950 年 (S 25 年)	19 (S
水道用鋳鉄管及び弁鑄出記号標準			S 17 年	S 26 年	
直管表示マーク統一表					
JWWA A 107 水道用遠心力ダクタイル鋳鉄管モルタルライニング				S 31 年 S 33 年	
JWWA A 113 水道用ダクタイル鋳鉄管モルタルライニング					
JWSA G 104 水道用鋳鉄管塗装方法				S 30 年	
JWWA G 112 水道用ダクタイル鋳鉄管内面エポキシ樹脂粉体塗装					
JWSA K 102 水道用ゴム		S 12 年			
JWWA K 115 水道用タールエポキシ樹脂塗料塗装方法					
JWWA K 135 水道用液状エポキシ樹脂塗料塗装方法					
JWWA K 139 水道用ダクタイル鋳鉄管合成樹脂塗料					
JWWA K 156 水道施設用ゴム材料					
JWWA K 157 水道用無溶剤形エポキシ樹脂塗料塗装方法					
JWWA K 158 水道用ダクタイル鋳鉄管用ポリエチレンスリーブ					
JWWA Z 100 水道用品表示記号					
JWSA Z 101 水道用鋳鉄管類の表示方法				S 26 年	
JWSA Z 107 水道用メカニカルジョイント鋳鉄管記号配列					
JWWA Z 108 水道用資機材の浸出試験方法 (旧規格名称：水道用資機材－浸出試験方法)					
JWWA Z 110 水道用資機材の浸出試験及び水道用薬品の評価試験に係る分析方法 (旧規格名称：水道用資機材－浸出液の分析方法)					

備考 1. ●は制定、◆は改正、●は廃止を示す。 2. 規格名称は、最新のものを記載した。

60年 35年)	1970年 (S45年)	1980年 (S55年)	1990年 (H2年)	2000年 (H12年)	2010年 (H22年)	2020年 (R2年)	2025年 (R7年)	2030年
-------------	-----------------	-----------------	----------------	-----------------	-----------------	----------------	----------------	-------



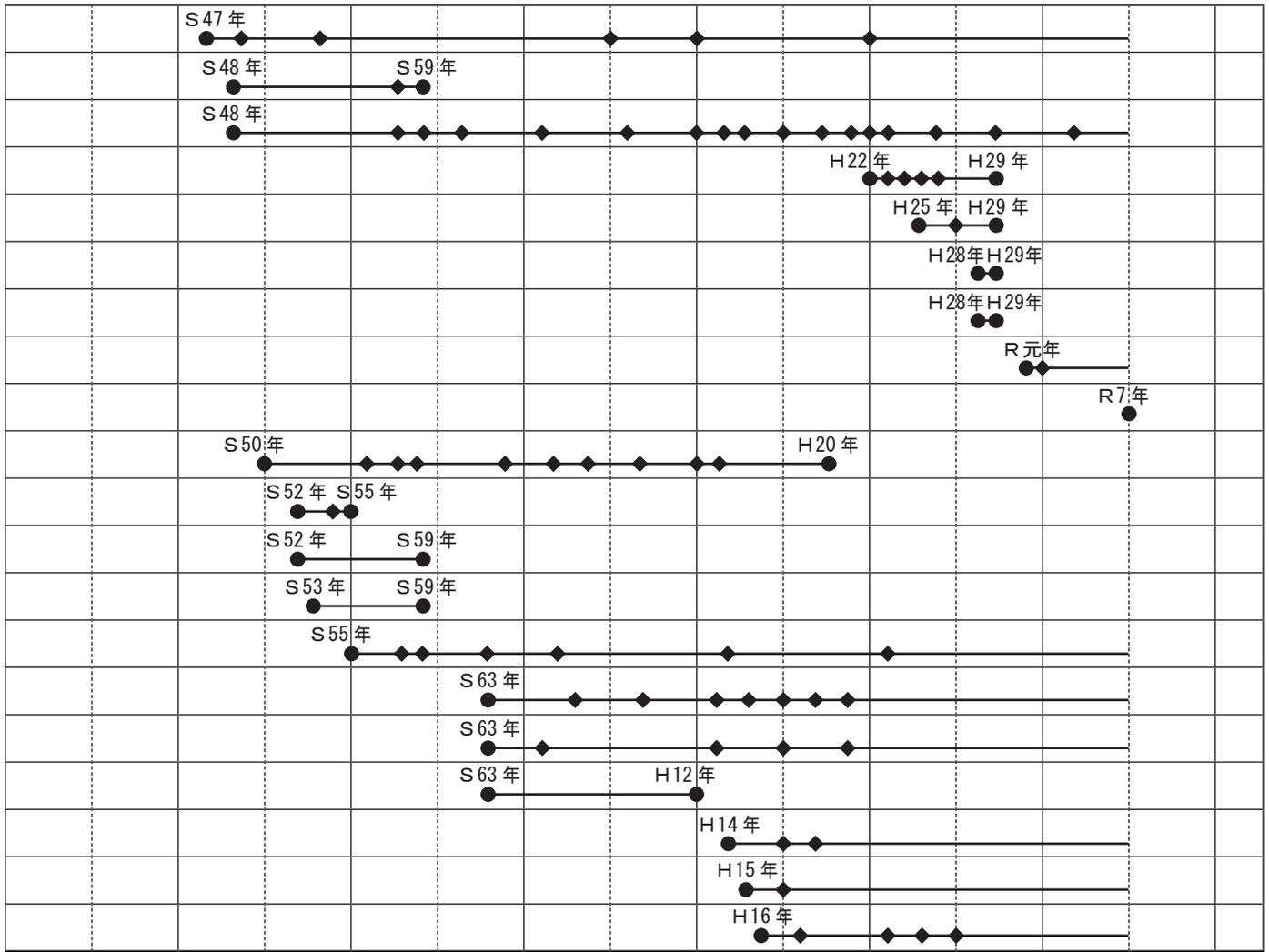
(T = 大正 S = 昭和 H = 平成 R = 令和)

塗覆装、表示などの規格年表 (2 / 2)

年 号	1920年 (T9年)	1930年 (S5年)	1940年 (S15年)	1950年 (S25年)	19 (S)
(一社)日本ダクティル鉄管協会規格					
JDPA Z 2002 ダクティル管継手用滑剤					
JCPA Z 2003 ダクティル鋳鉄管類の表示記号					
JDPA Z 2004 ダクティル鋳鉄管類の表示					
JDPA Z 2004-2 G X形ダクティル鋳鉄管の表示					
JDPA Z 2004-3 S 50形ダクティル鋳鉄管の表示					
JDPA Z 2004-4 N S形ダクティル鋳鉄管(E種管)の表示					
JDPA Z 2004-4-1 N S形ダクティル鋳鉄管(E種管)の表示					
JDPA Z 2004-5 U S形ダクティル鋳鉄管(R方式)の表示					
JDPA Z 2004-6 G X形ダクティル鋳鉄管の表示(呼び径500～1000)					
JDPA Z 2005 ダクティル鋳鉄管防食用ポリエチレンスリーブ					
JDPA Z 2006 ダクティル鋳鉄管内面エポキシ樹脂粉体塗装					
JDPA Z 2007 ダクティル鋳鉄管継手用クロロブレンゴム輪					
JDPA Z 2008 ダクティル鋳鉄管継手用ニトリルゴム輪					
JDPA Z 2009 ダクティル鋳鉄管外面特殊塗装					
JDPA Z 2010 ダクティル鋳鉄管合成樹脂塗装					
JDPA Z 2011 ダクティル鋳鉄異形管内面液状エポキシ樹脂塗装					
JDPA Z 2013 ダクティル鋳鉄異形管モルタルライニング					
JDPA Z 2015 水道用ダクティル鋳鉄管モルタルライニングシーラコート					
JDPA Z 2016 ダクティル鋳鉄管内面エポキシ樹脂粉体塗装					
JDPA Z 2017 ダクティル鋳鉄管用切管端面防食材料					

備考 1. ●—は制定、◆—は改正、—●は廃止を示す。 2. 規格名称は、最新のものを記載した。

60年 35年)	1970年 (S45年)	1980年 (S55年)	1990年 (H2年)	2000年 (H12年)	2010年 (H22年)	2020年 (R2年)	2025年 (R7年)	2030年
-------------	-----------------	-----------------	----------------	-----------------	-----------------	----------------	----------------	-------



(T = 大正 S = 昭和 H = 平成 R = 令和)

規格の変遷

年次	規格	関連事項													
1874年 (明治7年)	—————	政府の雇技師オランダ人ファーン・ドール氏より東京の水道創設についての意見書が政府に提出された。													
1876年 (明治9年)	—————	東京水道改良委員会が設立された。													
1885年 (明治18年)	輸入鑄鉄管 (イギリス製)	横浜市において近代水道建設工事が着手された(イギリス人シリーズペンサー・パーマ氏設計による)。(明治20年10月17日給水開始、わが国最初の近代水道が完成した。)													
1904年 (明治37年)	—————	上水協議会((公社)日本水道協会の前身)が設立された(上水水質試験統一のため、12市町村が集まり協議会が設立された)。													
1914年 (大正3年)	(上水協議会規格) 「水道用鑄鉄管仕様書標準」 制定	わが国最初の水道用鑄鉄管規格(普通鑄鉄管)が制定された。 (主な内容)													
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径 in</th> <th>区 分</th> <th>製造方法</th> <th>接合形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">3~42</td> <td>直 管</td> <td rowspan="2">置注鑄造</td> <td rowspan="2">ソケット形、 フランジ形</td> </tr> <tr> <td>異形管</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径 in	区 分	製造方法	接合形式	3~42	直 管	置注鑄造	ソケット形、 フランジ形	異形管				
		呼び径 in	区 分	製造方法	接合形式										
		3~42	直 管	置注鑄造	ソケット形、 フランジ形										
異形管															
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">抗 張 力 lb/in²</th> <th colspan="3">抗 折 力</th> </tr> <tr> <th>中心荷重 lb</th> <th>たわみ in</th> <th>試 験 片 幅×厚さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18,000以上</td> <td>1,800以上</td> <td>0.27以上</td> <td>2"×1" (支点間距離24")</td> </tr> </tbody> </table>	抗 張 力 lb/in ²	抗 折 力			中心荷重 lb	たわみ in	試 験 片 幅×厚さ	18,000以上	1,800以上	0.27以上	2"×1" (支点間距離24")				
抗 張 力 lb/in ²		抗 折 力													
	中心荷重 lb	たわみ in	試 験 片 幅×厚さ												
18,000以上	1,800以上	0.27以上	2"×1" (支点間距離24")												
1921年 (大正10年)	—————	日本標準規格(JES)が発足した(工業品規格統一調査会)。													
	—————	度量衡法が改正され公布された。													
1924年 (大正13年)	—————	大正13年7月メートル法が施行された。													
1925年 (大正14年)	(上水協議会規格) 「水道用鑄鉄管規格」制定	大正10年の度量衡法の改正に伴い、メートル法による水道用鑄鉄管規格(普通鑄鉄管)が制定された。 なお、この規格以降はミリ管である。 (主な内容)													
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>呼 び 径</th> <th>区 分</th> <th>製造方法</th> <th>接合形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">75~1500</td> <td>直 管</td> <td rowspan="2">置注鑄造</td> <td rowspan="2">ソケット形、 フランジ形</td> </tr> <tr> <td>異形管</td> </tr> </tbody> </table>	呼 び 径	区 分	製造方法	接合形式	75~1500	直 管	置注鑄造	ソケット形、 フランジ形	異形管				
		呼 び 径	区 分	製造方法	接合形式										
		75~1500	直 管	置注鑄造	ソケット形、 フランジ形										
異形管															
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">抗 張 力</th> <th colspan="3">抗 折 力</th> </tr> <tr> <th>抗張力 kg/mm²</th> <th>試 験 片 直径×長さ mm</th> <th>中心荷重 kg</th> <th>たわみ mm</th> <th>試 験 片 幅×厚さ mm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12.5以上</td> <td>25× 平行部30</td> <td>800以上</td> <td>6.8以上</td> <td>50×25 (支点間距離 600)</td> </tr> </tbody> </table>	抗 張 力		抗 折 力			抗張力 kg/mm ²	試 験 片 直径×長さ mm	中心荷重 kg	たわみ mm	試 験 片 幅×厚さ mm	12.5以上	25× 平行部30	800以上	6.8以上	50×25 (支点間距離 600)
抗 張 力		抗 折 力													
抗張力 kg/mm ²	試 験 片 直径×長さ mm	中心荷重 kg	たわみ mm	試 験 片 幅×厚さ mm											
12.5以上	25× 平行部30	800以上	6.8以上	50×25 (支点間距離 600)											
1928年 (昭和3年)	(日本標準規格) JES 第80号類別 G 21 「水道用鑄鉄管規格」制定	大正14年の上水協議会規格がJES規格として制定された。													
	(上水協議会規格) 「水道用鑄鉄管規格」廃止	大正14年の上水協議会規格がJES規格となり、廃止された。													
1932年 (昭和7年)	—————	上水協議会が(社)水道協会に改名された。													

備考 は、規格の廃止を示す(以下同じ)。

年次	規格	関連事項																								
1933年 (昭和8年)	(水道協会規格) 「水道用高級鑄鉄管規格」制定	高級鑄鉄管が開発、普及するに至り、水道用高級鑄鉄管規格が制定された。 〈主な内容〉 <table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>区分</th> <th>製造方法</th> <th>接合形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">75~1500</td> <td>直管</td> <td rowspan="2">置注鑄造</td> <td rowspan="2">ソケット形、 フランジ形</td> </tr> <tr> <td>異形管</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">抗張力</th> <th colspan="3">抗折力</th> </tr> <tr> <th>抗張力 kg/mm²</th> <th>試験片 直径×長さ mm</th> <th>中心荷重 kg</th> <th>たわみ mm</th> <th>試験片 直径 mm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25以上</td> <td>20× 平行部25</td> <td>1600以上</td> <td>3以上</td> <td>30 (支点間距離 300)</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	区分	製造方法	接合形式	75~1500	直管	置注鑄造	ソケット形、 フランジ形	異形管	抗張力		抗折力			抗張力 kg/mm ²	試験片 直径×長さ mm	中心荷重 kg	たわみ mm	試験片 直径 mm	25以上	20× 平行部25	1600以上	3以上	30 (支点間距離 300)
	呼び径	区分	製造方法	接合形式																						
75~1500	直管	置注鑄造	ソケット形、 フランジ形																							
	異形管																									
抗張力		抗折力																								
抗張力 kg/mm ²	試験片 直径×長さ mm	中心荷重 kg	たわみ mm	試験片 直径 mm																						
25以上	20× 平行部25	1600以上	3以上	30 (支点間距離 300)																						
1934年 (昭和9年)	(日本標準規格) JES 第272号類別 G 36 「水道用高級鑄鉄管規格」制定	昭和8年の水道協会規格がJES規格として制定された。																								
1937年 (昭和12年)	(水道協会規格) 「水道用ゴム」制定	水道用ゴム規格が制定された。 〈主な内容〉 ゴムの材質及び硬さが、使用用途別に第一種、第二種、第三種の3種類に区分された。																								
	(日本標準規格) JES 第80号類別 G 21 「水道用鑄鉄管規格」廃止	高級鑄鉄管が全国的に普及するに至り、昭和3年の規格(普通鑄鉄管)が廃止された。																								
	(上水協議会規格) 「水道用鑄鉄管仕様書標準」 廃止	高級鑄鉄管が全国的に普及するに至り、大正3年の標準(普通鑄鉄管)が廃止された。																								
1938年 (昭和13年)	(水道協会規格) 「水道用高級鑄鉄薄手管規格」 制定	日華事変(昭和12年)の影響により銑鉄を節約する目的で昭和9年のJES規格の直管の管厚を薄くした規格が制定された。 〈主な内容〉 <table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>区分</th> <th>接合形式</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75~300</td> <td>直管</td> <td>ソケット形</td> <td>管厚が1 mm程度 薄くなった</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	区分	接合形式	備考	75~300	直管	ソケット形	管厚が1 mm程度 薄くなった																
	呼び径	区分	接合形式	備考																						
75~300	直管	ソケット形	管厚が1 mm程度 薄くなった																							
		臨時日本標準規格(臨JES)が発足した(工業品規格統一調査会)。																								
1939年 (昭和14年)	(臨時日本標準規格) 臨JES 第11号類別 G 「水道用高級鑄鉄薄手管規格」 制定	昭和13年の水道協会規格が臨JES規格として制定された。																								
	(水道協会規格) 「水道用高級鑄鉄薄手管規格」 廃止	昭和13年の水道協会規格が臨JES規格となり、廃止された。																								

年次	規格	関連事項																		
1940年 (昭和15年)	(水道協会規格) 「水道用高級鑄鉄管臨時規格」制定	昭和9年のJES規格を一部変更し、水道協会の臨時規格として制定された。 〈主な内容〉																		
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">呼び径</th> <th rowspan="2">抗張力 kg/mm²</th> <th colspan="2">抗折力</th> </tr> <tr> <th>中心荷重 kg</th> <th>たわみ mm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75～350</td> <td>20以上</td> <td>1350以上</td> <td>2.5以上</td> </tr> <tr> <td>400～900</td> <td>23以上</td> <td>1500以上</td> <td>3.0以上</td> </tr> <tr> <td>1000～1500</td> <td>25以上</td> <td>1600以上</td> <td>3.0以上</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	抗張力 kg/mm ²	抗折力		中心荷重 kg	たわみ mm	75～350	20以上	1350以上	2.5以上	400～900	23以上	1500以上	3.0以上	1000～1500	25以上	1600以上	3.0以上
		呼び径			抗張力 kg/mm ²	抗折力														
			中心荷重 kg	たわみ mm																
75～350	20以上	1350以上	2.5以上																	
400～900	23以上	1500以上	3.0以上																	
1000～1500	25以上	1600以上	3.0以上																	
(臨時日本標準規格) 臨JES 第328号類別G 「水道用遠心力砂型鑄鉄管臨時規格」制定	水道協会規格の「水道用砂型遠心力鑄鉄管臨時規格」が臨JES規格として制定された。																			
1942年 (昭和17年)	(水道協会規格) 「水道用砂型遠心力鑄鉄管臨時規格」制定	鑄鉄管を砂型遠心力鑄造する技術が開発されるに至り、規格が制定された。 〈主な内容〉																		
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>区分</th> <th>製造方法</th> <th>接合形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>300～900</td> <td>直管</td> <td>砂型遠心力鑄造</td> <td>ソケット形</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	区分	製造方法	接合形式	300～900	直管	砂型遠心力鑄造	ソケット形										
		呼び径	区分	製造方法	接合形式															
		300～900	直管	砂型遠心力鑄造	ソケット形															
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">抗張力</th> <th colspan="2">抗折力</th> </tr> <tr> <th>抗張力 kg/mm²</th> <th>試験片 直径×長さ mm</th> <th>中心荷重 kg</th> <th>たわみ mm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20以上</td> <td>20× 平行部25</td> <td>1350以上</td> <td>2.5以上</td> </tr> </tbody> </table>	抗張力		抗折力		抗張力 kg/mm ²	試験片 直径×長さ mm	中心荷重 kg	たわみ mm	20以上	20× 平行部25	1350以上	2.5以上								
抗張力		抗折力																		
抗張力 kg/mm ²	試験片 直径×長さ mm	中心荷重 kg	たわみ mm																	
20以上	20× 平行部25	1350以上	2.5以上																	
「水道用鑄鉄管及び弁鑄出記号標準」制定	水道用鑄鉄管類の表示記号が標準として制定された。 〈主な内容〉 水、製造年、製造所の記号及びテ（低圧の意）、フ（普通圧の意）などが規定された。 なお、製造年は、皇紀で鑄出し（アラビア数字4桁）とされた。																			
	「水道用砂型遠心力鑄鉄管臨時規格」廃止	本規格が臨JES規格となり、廃止された。																		
1943年 (昭和18年)	(内務省通牒) 「土木工事戦時規格」	昭和18年3月5日付の通牒により呼び径900以下は、普通圧管に代えて低圧管が使用され、低圧の所は、他の代用管（ヒューム管又は木管など）が使用された。																		
	(臨時日本標準規格) 臨JES 第499号類別K 「水道用ゴムパッキン」制定	昭和12年の水道協会規格が臨JES規格として制定された。																		
1947年 (昭和22年)	—————	鑄鉄管倶楽部を設立した。																		
1948年 (昭和23年)	—————	鑄鉄管倶楽部を鑄鉄管協会に改名した。																		

年次	規格	関連事項								
1949年 (昭和24年)	(日本標準規格) JES 第272号類別 G36 「水道用高級鑄鉄管規格」改正	昭和9年のJES規格が整理され、改正された。 〈主な内容〉 呼び径 … 125が削除された。 管厚 … 呼び径1000～1500の管厚が改正され、 1.5～3.0 mm程度厚くなった。 異形管 … 管種が整理され少なくなった。 片フランジ管は、JES規格のみに規定された。								
	(水道協会規格) 「水道用高級鑄鉄管規格」改正									
	—————									
1950年 (昭和25年)	(水道協会規格) 「水道用遠心力金型鑄鉄管」 制定	昭和24年7月 工業標準化法が施行され、日本工業規格(JIS)が発足した(日本工業標準調査会)。								
		〈主な内容〉								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>区分</th> <th>製造方法</th> <th>接合形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100～300</td> <td>直管</td> <td>金型遠心力鑄造</td> <td>ソケット形</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	区分	製造方法	接合形式	100～300	直管	金型遠心力鑄造	ソケット形
		呼び径	区分	製造方法	接合形式					
100～300	直管	金型遠心力鑄造	ソケット形							
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">圧壊試験</th> <th rowspan="2">硬さ</th> </tr> <tr> <th>換算引張強さ kg/mm²</th> <th>試験片 mm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20以上</td> <td>長さ25 (管状試験片)</td> <td>210 HB以下、95 HRB以下 30 HS以下</td> </tr> </tbody> </table>	圧壊試験		硬さ	換算引張強さ kg/mm ²	試験片 mm	20以上	長さ25 (管状試験片)	210 HB以下、95 HRB以下 30 HS以下		
圧壊試験		硬さ								
換算引張強さ kg/mm ²	試験片 mm									
20以上	長さ25 (管状試験片)	210 HB以下、95 HRB以下 30 HS以下								
1951年 (昭和26年)	(水道協会規格) JWSA Z 101 「鑄鉄管記号配列」制定	昭和17年の水道用鑄鉄管及び弁鑄出記号標準が、JWSA規格として制定された。 〈主な内容〉 水、口径、角度、製造年、製造者記号、検印座及びテ(低圧の意)、フ(普通圧の意)などが規定された。 なお、製造年は、西暦で鑄出し(アラビア数字4桁又は下2桁)とされた。								
	「水道用鑄鉄管及び弁鑄出記号標準」廃止	昭和17年の標準がJWSA規格となり、廃止された。								
1952年 (昭和27年)	(臨時日本標準規格) 臨JES 第328号類別 G 「水道用遠心力砂型鑄鉄管臨時規格」改正	昭和17年の臨JES規格及び水道協会規格が整理され、改正された。 〈主な内容〉 呼び径 … 75～250が追加された。 圧壊試験 … 換算引張強さ20 kg/mm ² 以上。 試験片 … 長さは、管の平均直径の1/2とし、呼び径400以上は、200 mmとされた。								
	(水道協会規格) 「水道用遠心力砂型鑄鉄管規格」改正									
1953年 (昭和28年)	(日本工業規格) JIS K 6353 「水道用ゴムパッキン」制定	昭和18年の臨JES規格がJIS規格として制定された。								

年次	規格	関連事項												
1954年 (昭和29年)	(日本工業規格) JIS G 5521 「水道用立型鑄鉄管」 制定	昭和24年7月工業標準化法の施行に伴い、鑄鉄管の規格がJIS規格として制定された(昭和24年より水道協会において順次審議されていたものが製造方法別に区分され、JIS規格として制定された)。 〈主な内容〉 JIS G 5521・5524												
	JIS G 5522 「水道用遠心力砂型鑄鉄管」 制定	<table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>抗張強さ kg/mm²</th> <th>製造方法</th> <th>接合形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75～350</td> <td>20以上</td> <td rowspan="3">置注 鑄造</td> <td rowspan="3">ソケット形 フランジ形</td> </tr> <tr> <td>400～900</td> <td>23以上</td> </tr> <tr> <td>1000～1500</td> <td>25以上</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	抗張強さ kg/mm ²	製造方法	接合形式	75～350	20以上	置注 鑄造	ソケット形 フランジ形	400～900	23以上	1000～1500	25以上
	呼び径	抗張強さ kg/mm ²	製造方法	接合形式										
	75～350	20以上	置注 鑄造	ソケット形 フランジ形										
	400～900	23以上												
	1000～1500	25以上												
	JIS G 5523 「水道用遠心力金型鑄鉄管」 制定	JIS G 5522・5523												
	JIS G 5524 「水道用鑄鉄異形管」制定	<table border="1"> <thead> <tr> <th>規格</th> <th>呼び径</th> <th>圧壊強さ kg/mm²</th> <th>製造方法</th> <th>接合形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JIS G 5522</td> <td>75～900</td> <td rowspan="2">20以上</td> <td rowspan="2">遠心力 鑄造</td> <td rowspan="2">ソケット形</td> </tr> <tr> <td>JIS G 5523</td> <td>75～300</td> </tr> </tbody> </table>	規格	呼び径	圧壊強さ kg/mm ²	製造方法	接合形式	JIS G 5522	75～900	20以上	遠心力 鑄造	ソケット形	JIS G 5523	75～300
	規格	呼び径	圧壊強さ kg/mm ²	製造方法	接合形式									
	JIS G 5522	75～900	20以上	遠心力 鑄造	ソケット形									
JIS G 5523	75～300													
(臨時日本標準規格) 臨JES 第11号類別G 「水道用高級鑄鉄薄手管規格」 廃止	昭和14年の規格が工業標準化法の施行に伴い、廃止された。													
(日本標準規格) JES 第272号類別G36 「水道用高級鑄鉄管規格」廃止	昭和24年の規格が工業標準化法の施行に伴い、廃止された。													
(臨時日本標準規格) 臨JES 第328号類別G 「水道用遠心力砂型鑄鉄管 臨時規格」廃止	昭和27年の規格が工業標準化法の施行に伴い、廃止された。													
(水道協会規格) 「水道用高級鑄鉄管規格」廃止	昭和24年の規格が廃止された。													
「水道用遠心力金型鑄鉄管」 廃止	昭和25年の規格が廃止された。													
1955年 (昭和30年)	(水道協会規格) JWSA G 104 「水道用鑄鉄管塗装方法」制定	水道用鑄鉄管の塗装方法の規格が制定された。 〈主な内容〉 塗料は、精製タールでベンゾール不溶分が15%以下のものに乾性油又はボイル油などを2%以上混合したものとされた。 水道協会において「水道施設基準」の初版が発刊された。												
1956年 (昭和31年)	(日本水道協会規格) JWSA A 107 「水道用鑄鉄管モルタルライ ニング方法」制定	モルタルライニングが遠心力で施工可能となるに至り、規格が制定された。 〈主な内容〉 呼び径… 75～900 施工方法… 遠心力法												
		(社)水道協会が(社)日本水道協会に改名された。												

年次	規格	関連事項																					
1957年 (昭和32年)	(鑄鉄管協会標準仕様書)	メカニカルジョイント形鑄鉄管が普及するに至り、仕様書を制定した。																					
	「水道用メカニカルジョイント型鑄鉄直管、鑄鉄異形管及び付属品」制定	<table border="1"> <tr> <td colspan="2">〈主な内容〉</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>呼び径</td> <td>区分</td> <td>製造方法及び品質</td> <td colspan="2">接合形式</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">75~900</td> <td>直管</td> <td>昭和29年の</td> <td colspan="2">メカニカルジョイント形</td> </tr> <tr> <td>異形管</td> <td>JIS G 5521 ~5524と同じ</td> <td colspan="2">メカニカルジョイント形、フランジ形</td> </tr> </table>				〈主な内容〉					呼び径	区分	製造方法及び品質	接合形式		75~900	直管	昭和29年の	メカニカルジョイント形		異形管	JIS G 5521 ~5524と同じ	メカニカルジョイント形、フランジ形
〈主な内容〉																							
呼び径	区分	製造方法及び品質	接合形式																				
75~900	直管	昭和29年の	メカニカルジョイント形																				
	異形管	JIS G 5521 ~5524と同じ	メカニカルジョイント形、フランジ形																				
	—————	水道法が公布された。																					
1958年 (昭和33年)	(日本工業規格)	昭和31年のJWSA規格がJIS規格として制定された。																					
	JIS A 5314 「水道用鑄鉄管モルタルライニング方法」制定																						
	(日本水道協会規格)	昭和31年の規格がJIS規格となり、廃止された。																					
	JWSA A 107 「水道用鑄鉄管モルタルライニング方法」廃止																						
1959年 (昭和34年)	(日本水道協会規格)	昭和32年の鑄鉄管協会標準仕様書がJWSA規格として制定された。																					
	JWSA G 102 「水道用メカニカルジョイント型鑄鉄直管」制定																						
	JWSA G 103 「水道用メカニカルジョイント型鑄鉄異形管」制定																						
	JWSA K 102 「水道用ゴム」改正	昭和12年の水道協会規格が改正された。 〈主な内容〉 継手の種類が増加したため、名称が号及び甲乙など9種類に小分類された。																					

年次	規格	関連事項															
1959年 (昭和34年)	(鑄鉄管協会仕様書) 「メカニカル型 水道用遠心力砂型ダクタイル 鑄鉄直管」制定	ダクタイル鑄鉄管が普及するに至り、仕様書を制定した。 〈主な内容〉															
	----- 「メカニカル型 水道用立型ダクタイル鑄鉄 直管」制定	<table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>区分</th> <th>製造方法</th> <th>接合形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">500~1500</td> <td>直管</td> <td>砂型遠心力鑄造、 立型置注鑄造</td> <td>メカニカル ジョイント形</td> </tr> <tr> <td>異形管</td> <td>置注鑄造</td> <td>メカニカル ジョイント形、 フランジ形</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	区分	製造方法	接合形式	500~1500	直管	砂型遠心力鑄造、 立型置注鑄造	メカニカル ジョイント形	異形管	置注鑄造	メカニカル ジョイント形、 フランジ形				
		呼び径	区分	製造方法	接合形式												
	500~1500	直管	砂型遠心力鑄造、 立型置注鑄造	メカニカル ジョイント形													
		異形管	置注鑄造	メカニカル ジョイント形、 フランジ形													
「メカニカル型 水道用ダクタイル鑄鉄異形管」 制定	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>引張強さ kg/mm²</th> <th>伸び %</th> <th>試験片</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">直管</td> <td>遠心力</td> <td rowspan="2">36以上</td> <td rowspan="2">3以上</td> <td rowspan="2">供試管より長さ 300 mm 20 mm厚の押湯部 より採取</td> </tr> <tr> <td>立型</td> </tr> <tr> <td colspan="2">異形管</td> <td>40以上</td> <td>10以上</td> <td>Yブロックより 採取</td> </tr> </tbody> </table>	区分		引張強さ kg/mm ²	伸び %	試験片	直管	遠心力	36以上	3以上	供試管より長さ 300 mm 20 mm厚の押湯部 より採取	立型	異形管		40以上	10以上	Yブロックより 採取
	区分		引張強さ kg/mm ²	伸び %	試験片												
	直管	遠心力	36以上	3以上	供試管より長さ 300 mm 20 mm厚の押湯部 より採取												
立型																	
異形管		40以上	10以上	Yブロックより 採取													
----- (鑄鉄管協会標準仕様書) 「水道用メカニカルジョイント 型鑄鉄直管、鑄鉄異形管 及び付属品」廃止	昭和32年の本標準仕様書がJWSA規格となり、廃止した。																
1960年 (昭和35年)	(日本工業規格) JIS K 6353 「水道用ゴム」改正	昭和28年の規格が改正された。 〈主な内容〉 継手の種類が増加したため、名称が号及び甲乙など10種類 に小分類された。 また、「水道用ゴムパッキン」から「水道用ゴム」に名称が 変更された。															
	(日本水道協会規格) JWSA Z 107 「水道用メカニカルジョイント 鑄鉄管記号配列」制定	メカニカルジョイント鑄鉄管の表示記号の規格が制定された。 〈主な内容〉 直管及び押輪に適用され、製造所名又は略号、呼び径、製 造年、刻印座、水及びテ(低圧の意)、フ(普通圧の意) などが規定された。 なお、製造年は、西暦で鑄出し(アラビア数字4桁又は下 2桁)とされた。															

年次	規格	関連事項																			
1961年 (昭和36年)	(日本工業規格) JIS G 5502 「球状黒鉛鑄鉄品」制定	球状黒鉛鑄鉄品の材料規格として制定された。 〈主な内容〉 FCD 40、FCD 45、FCD 55、FCD 70の4種類が規定された。																			
	(日本水道協会規格) JWSA G 105 「水道用遠心力ダクタイル鑄鉄管」制定	昭和34年の鑄鉄管協会仕様書がJWSA規格として制定された。 〈主な内容〉 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>区分</th> <th>製造方法</th> <th>接合形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">200～1500</td> <td>直管</td> <td>遠心力鑄造</td> <td>A形、B形、C形</td> </tr> <tr> <td>異形管</td> <td>置注鑄造</td> <td>A形、B形、C形 フランジ形</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	区分	製造方法	接合形式	200～1500	直管	遠心力鑄造	A形、B形、C形	異形管	置注鑄造	A形、B形、C形 フランジ形								
	呼び径	区分	製造方法	接合形式																	
	200～1500	直管	遠心力鑄造	A形、B形、C形																	
異形管		置注鑄造	A形、B形、C形 フランジ形																		
JWSA G 106 「水道用ダクタイル鑄鉄異形管」制定	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>引張強さ kg/mm²</th> <th>伸び %</th> <th>硬さ HB</th> <th>へん平 試験</th> <th>試験片</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>直管</td> <td>38以上</td> <td>3以上</td> <td>230以下</td> <td>規定あり</td> <td>供試管より 長さ300mm</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">異形管</td> <td>40以上</td> <td>12以上</td> <td rowspan="2">230以下</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">Yブロック より採取</td> </tr> <tr> <td>45以上</td> <td>5以上</td> </tr> </tbody> </table>	区分	引張強さ kg/mm ²	伸び %	硬さ HB	へん平 試験	試験片	直管	38以上	3以上	230以下	規定あり	供試管より 長さ300mm	異形管	40以上	12以上	230以下	—	Yブロック より採取	45以上	5以上
区分	引張強さ kg/mm ²	伸び %	硬さ HB	へん平 試験	試験片																
直管	38以上	3以上	230以下	規定あり	供試管より 長さ300mm																
異形管	40以上	12以上	230以下	—	Yブロック より採取																
	45以上	5以上																			
(鑄鉄管協会仕様書) 「メカニカル型 水道用遠心力砂型ダクタイル 鑄鉄直管」廃止 ----- 「メカニカル型 水道用立型ダクタイル鑄鉄 直管」廃止 ----- 「メカニカル型 水道用ダクタイル鑄鉄異形管」 廃止	昭和34年の本仕様書がJWSA規格になり、廃止した。																				
1962年 (昭和37年)	(日本水道協会(選定)) 「水道用鑄鉄異形管 実用管種表」(厚生省監修)	昭和36年7月厚生省より異形管規格の管種を検討整理するようにとの諮問があり、現行規格(JIS G 5524「水道用鑄鉄異形管」、JWSA G 103「水道用メカニカルジョイント形鑄鉄異形管」、JWSA G 106「水道用ダクタイル鑄鉄異形管」)の2271管種の中から783管種が実用管種として選定された。																			
1964年 (昭和39年)	----- -----	日本水道協会の英文略称が4月1日付で「JWSA」から「JWWA」に改正された。 (社)日本下水道協会が設立された。																			

年次	規格	関連事項													
1965年 (昭和40年)	(日本水道協会規格) JWWA G 105 「水道用遠心力ダクタイル 鋳鉄管」改正	昭和36年のJWSA規格に呼び径75～150が追加され、改正された。													
	----- JWWA G 106 「水道用ダクタイル鋳鉄 異形管」改正														
	(日本鋳鉄管協会規格) 「K形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」制定	K形継手が普及するに至り、規格を制定した。 〈主な内容〉													
	----- 「K形ダクタイル鋳鉄異形管」 制定														
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>区 分</th> <th>機械的性質</th> <th>製造方法</th> <th>接合形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1000 ～2200</td> <td>直 管</td> <td rowspan="2">JWWA G 105 ・106と同じ</td> <td>遠心力鋳造</td> <td>K形</td> </tr> <tr> <td>異形管</td> <td>置注鋳造</td> <td>K形、 フランジ形</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	区 分	機械的性質	製造方法	接合形式	1000 ～2200	直 管	JWWA G 105 ・106と同じ	遠心力鋳造	K形	異形管	置注鋳造	K形、 フランジ形
呼び径	区 分	機械的性質	製造方法	接合形式											
1000 ～2200	直 管	JWWA G 105 ・106と同じ	遠心力鋳造	K形											
	異形管		置注鋳造	K形、 フランジ形											
		鋳鉄管協会を日本鋳鉄管協会と改名し、英文略称を「JCPA」とした。													
1966年 (昭和41年)	(日本工業規格) JIS K 6353 「水道用ゴム」改正	昭和35年の規格にゴムの溶解試験を追加し、改正された。													
1967年 (昭和42年)	(日本水道協会規格) JWWA A 107 「水道用遠心力ダクタイル 鋳鉄管モルタルライニング」 制定	昭和33年のJIS規格に呼び径1000～1500を追加して、新たにJWWA規格として制定された。													
	----- JWWA G 105 「水道用遠心力ダクタイル 鋳鉄管」改正	昭和41年7月 工業標準化法が改正(ISO規格メートルねじ)され、昭和40年のJWWA規格が改正された。 〈主な内容〉 試験水圧の改正及びボルト・ナットのねじ形式がウィットねじからメートル並目ねじに変更された。													
	----- JWWA G 106 「水道用ダクタイル鋳鉄 異形管」改正														
	(日本鋳鉄管協会(標準)) 「直管表示マーク統一表」制定	昭和26年及び昭和35年のJWSA規格に規定されていないものについて統一し、直管表示マーク統一表として制定した。													
1968年 (昭和43年)	(日本鋳鉄管協会規格) JCPA G 1001 「K形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」制定	昭和41年7月 工業標準化法の改正により、昭和40年の日本鋳鉄管協会規格のボルト・ナットにISO規格メートルねじを適用して、新たに制定した。 〈主な内容〉 呼び径 … 75～2400 試験水圧 … JWWA G 105・106 に整合させた。 ボルト・ナット … メートル並目ねじに変更した。													
	----- JCPA G 1002 「K形ダクタイル鋳鉄異形管」 制定														
	----- 「K形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」廃止 ----- 「K形ダクタイル鋳鉄異形管」 廃止	昭和41年7月 工業標準化法の改正により、昭和40年の規格を廃止した。													

年次	規格	関連事項																								
1969年 (昭和44年)	(日本水道協会規格) JWWA G 108 「水道用遠心鑄鉄管」制定	製造方法及び接合形式などの技術革新が進み、実情にそぐわなくなったため、JIS G 5521～5524及びJWSA G 102・103が整理結合され、新たにJWWA規格が制定された。 〈主な内容〉 <table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>区分</th> <th>製造方法</th> <th>接合形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75～250</td> <td>直管</td> <td>遠心力鑄造</td> <td>メカニカルジョイント形</td> </tr> <tr> <td>75～500</td> <td>異形管</td> <td>置注鑄造</td> <td>メカニカルジョイント形、フランジ形</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	区分	製造方法	接合形式	75～250	直管	遠心力鑄造	メカニカルジョイント形	75～500	異形管	置注鑄造	メカニカルジョイント形、フランジ形												
	呼び径	区分	製造方法	接合形式																						
	75～250	直管	遠心力鑄造	メカニカルジョイント形																						
	75～500	異形管	置注鑄造	メカニカルジョイント形、フランジ形																						
JWWA G 109 「水道用鑄鉄異形管」制定	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">呼び径</th> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">圧壊試験</th> <th colspan="2">引張強さ</th> </tr> <tr> <th>圧壊強さ kg/mm²</th> <th>試験片</th> <th>引張強さ kg/mm²</th> <th>供試材 mm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75～250</td> <td>直管</td> <td>20以上</td> <td>平均直径の1/2の長さ</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>75～350</td> <td rowspan="2">異形管</td> <td rowspan="2">—</td> <td rowspan="2">—</td> <td>22以上</td> <td>直径20</td> </tr> <tr> <td>400～500</td> <td>25以上</td> <td>直径30</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	区分	圧壊試験		引張強さ		圧壊強さ kg/mm ²	試験片	引張強さ kg/mm ²	供試材 mm	75～250	直管	20以上	平均直径の1/2の長さ	—	—	75～350	異形管	—	—	22以上	直径20	400～500	25以上	直径30
呼び径	区分			圧壊試験		引張強さ																				
		圧壊強さ kg/mm ²	試験片	引張強さ kg/mm ²	供試材 mm																					
75～250	直管	20以上	平均直径の1/2の長さ	—	—																					
75～350	異形管	—	—	22以上	直径20																					
400～500				25以上	直径30																					
JWSA G 102 「水道用メカニカルジョイント形鑄鉄直管」廃止	昭和34年の規格が、実情にそぐわなくなったため、廃止された。																									
JWSA G 103 「水道用メカニカルジョイント形鑄鉄異形管」廃止																										
1970年 (昭和45年)	(日本水道協会規格) JWWA A 107 「水道用遠心力ダクタイル鑄鉄管モルタルライニング」改正	昭和42年の規格が改正された。 〈主な内容〉 混和材が新たに規定された。 モルタルライニングの製造方法が改正され、シールコートの瀝青質系が削除された。																								
	(日本鑄鉄管協会規格) JCPA G 1003 「タイトン形水道用遠心力ダクタイル鑄鉄管」制定	タイトン形継手が普及するに至り、規格を規定した。 〈主な内容〉 <table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>区分</th> <th>製造方法</th> <th>接合形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">75～250</td> <td>直管</td> <td>遠心力鑄造</td> <td>タイトン形</td> </tr> <tr> <td>異形管</td> <td>置注鑄造</td> <td>タイトン形、フランジ形</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	区分	製造方法	接合形式	75～250	直管	遠心力鑄造	タイトン形	異形管	置注鑄造	タイトン形、フランジ形													
	呼び径	区分	製造方法	接合形式																						
75～250	直管	遠心力鑄造	タイトン形																							
	異形管	置注鑄造	タイトン形、フランジ形																							
JCPA G 1004 「タイトン形水道用ダクタイル鑄鉄異形管」制定	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>引張強さ kg/mm²</th> <th>伸び %</th> <th>試験片</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>直管</td> <td>38以上</td> <td>3以上</td> <td>供試管より長さ100 mm以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">異形管</td> <td>40以上</td> <td>12以上</td> <td rowspan="2">Yブロックより採取 (JIS G 5502のA号)</td> </tr> <tr> <td>45以上</td> <td>5以上</td> </tr> </tbody> </table>	区分	引張強さ kg/mm ²	伸び %	試験片	直管	38以上	3以上	供試管より長さ100 mm以上	異形管	40以上	12以上	Yブロックより採取 (JIS G 5502のA号)	45以上	5以上											
区分	引張強さ kg/mm ²	伸び %	試験片																							
直管	38以上	3以上	供試管より長さ100 mm以上																							
異形管	40以上	12以上	Yブロックより採取 (JIS G 5502のA号)																							
	45以上	5以上																								

年次	規格	関連事項								
1971年 (昭和46年)	(日本工業規格) JIS G 5502 「球状黒鉛鉄品」改正	昭和36年の規格が改正された。 〈主な内容〉 FCD 55が削除され、FCD 50、FCD 60が追加された。								
	(日本水道協会規格) JWWA G 105 「水道用遠心力ダクタイル 鉄管」改正	K形継手が普及するに至り、昭和42年の規格にK形を追加し、 改正された。 〈主な内容〉 接合形式 … K形を追加し、B形及びC形は削除された。								
	JWWA G 106 「水道用ダクタイル鉄 異形管」改正	<table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>接合形式</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75～500</td> <td>A形</td> <td>呼び径600～1500は削除された。</td> </tr> <tr> <td>400～1500</td> <td>K形</td> <td>—————</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	接合形式	備 考	75～500	A形	呼び径600～1500は削除された。	400～1500	K形
呼び径	接合形式	備 考								
75～500	A形	呼び径600～1500は削除された。								
400～1500	K形	—————								
1972年 (昭和47年)	(日本鉄管協会規格) JCPA G 1001 「K形遠心力ダクタイル 鉄管」改正	昭和43年の規格を昭和46年のJWWA規格に整合させ、改 正した。 〈主な内容〉								
	JCPA G 1002 「K形ダクタイル鉄 異形管」改正	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>引張強さ kg/mm²</th> <th>伸び %</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">異形管</td> <td>40以上</td> <td>15以上</td> </tr> <tr> <td>45以上</td> <td>10以上</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	引張強さ kg/mm ²	伸び %	異形管	40以上	15以上	45以上	10以上
	区 分	引張強さ kg/mm ²	伸び %							
	異形管	40以上	15以上							
		45以上	10以上							
JCPA G 1007 「U形遠心力ダクタイル 鉄管」制定	管の内面より接合できるU形継手が普及するに至り、規格 を制定した。									
JCPA G 1008 「U形ダクタイル鉄 異形管」制定	〈主な内容〉 呼び径 … 700～2400									
JCPA G 1009 「フランジ形ダクタイル 鉄長管」制定	フランジ形長管が立型鋳造で製造されるに至り、規格を制 定した。 〈主な内容〉									
JCPA Z 2002 「タイロープ仕様書」制定	タイトン形継手専用の滑剤の規格を制定した。 〈主な内容〉 主成分は、動植物性油脂のカリ石けん。									

年次	規格	関連事項														
1973年 (昭和48年)	(日本水道協会規格) JWWA G 110 「水道用T形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」制定	昭和45年のJCPA規格がJWWA規格として制定された。 〈主な内容〉 <table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>区分</th> <th>製造方法</th> <th>接合形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">75~250</td> <td>直管</td> <td>遠心力鋳造</td> <td>T形</td> </tr> <tr> <td>異形管</td> <td>置注鋳造</td> <td>T形、フランジ形</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	区分	製造方法	接合形式	75~250	直管	遠心力鋳造	T形	異形管	置注鋳造	T形、フランジ形			
	呼び径	区分	製造方法	接合形式												
	75~250	直管	遠心力鋳造	T形												
		異形管	置注鋳造	T形、フランジ形												
	JWWA G 111 「水道用T形ダクタイル 鋳鉄異形管」制定	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>引張強さ kg/mm²</th> <th>伸び %</th> <th>試験片</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>直管</td> <td>40以上</td> <td>5以上</td> <td>供試管より長さ100mm以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">異形管</td> <td>40以上</td> <td>15以上</td> <td rowspan="2">Yブロックより採取 (JIS G 5502のA号)</td> </tr> <tr> <td>45以上</td> <td>10以上</td> </tr> </tbody> </table>	区分	引張強さ kg/mm ²	伸び %	試験片	直管	40以上	5以上	供試管より長さ100mm以上	異形管	40以上	15以上	Yブロックより採取 (JIS G 5502のA号)	45以上	10以上
	区分	引張強さ kg/mm ²	伸び %	試験片												
	直管	40以上	5以上	供試管より長さ100mm以上												
	異形管	40以上	15以上	Yブロックより採取 (JIS G 5502のA号)												
		45以上	10以上													
	JWWA Z 100 「水道用品鋳出し記号」制定	管及び弁類など全ての表示記号の大きさを統一し、JWWA規格として制定された。														
JWWA Z 101 「水道用鋳鉄管類の表示方法」 改正	JWWA Z 100制定に伴い、昭和26年及び昭和35年のJWSA規格を整理し、改正された。															
JWSA Z 107 「水道用メカニカルジョイント 鋳鉄管記号配列」廃止	JWWA Z 101改正に伴い、昭和35年の規格が廃止された。															
(日本鋳鉄管協会規格) JCPA Z 2003 「表示記号」制定	JWWA Z 100・101に規定されていない呼び径1600以上 について、JCPA規格として制定した。															
JCPA Z 2004 「鋳鉄管類の表示方法」制定																
JCPA G 1003 「タイトン形水道用遠心力 ダクタイル鋳鉄管」廃止	JWWA G 110・111制定に伴い、昭和45年規格を廃止した。															
JCPA G 1004 「タイトン形水道用ダクタイル 鋳鉄異形管」廃止																
(日本鋳鉄管協会(標準)) 「直管表示マーク統一表」廃止	JCPA Z 2003・2004制定に伴い、昭和42年の日本鋳鉄管協会(標準)を廃止した。															

年次	規格	関連事項																
1974年 (昭和49年)	(日本工業規格) JIS A 5314 「水道用遠心力球状黒鉛鑄鉄管 モルタルライニング」改正	昭和45年のJWWA規格に整合させて、昭和33年の規格が改正された。																
	JIS G 5526 「水道用遠心力球状黒鉛 鑄鉄管」制定	昭和46年のJWWA規格がJIS規格として制定された。 〈主な内容〉																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>区分</th> <th>製造方法</th> <th>接合形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75～500</td> <td rowspan="2">直管</td> <td rowspan="2">遠心力鑄造</td> <td>A形</td> </tr> <tr> <td>400～1500</td> <td>K形</td> </tr> <tr> <td>75～500</td> <td rowspan="2">異形管</td> <td rowspan="2">置注鑄造</td> <td>A形、フランジ形</td> </tr> <tr> <td>400～1500</td> <td>K形、フランジ形</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	区分	製造方法	接合形式	75～500	直管	遠心力鑄造	A形	400～1500	K形	75～500	異形管	置注鑄造	A形、フランジ形	400～1500	K形、フランジ形
	呼び径	区分	製造方法	接合形式														
	75～500	直管	遠心力鑄造	A形														
	400～1500			K形														
	75～500	異形管	置注鑄造	A形、フランジ形														
400～1500	K形、フランジ形																	
JIS G 5527 「水道用球状黒鉛鑄鉄異形管」 制定	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>引張強さ kg/mm²</th> <th>伸び %</th> <th>試験片</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>直管</td> <td>40以上</td> <td>5以上</td> <td>供試管より長さ100 mm以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">異形管</td> <td>40以上</td> <td>15以上</td> <td rowspan="2">Yブロックより採取 (JIS G 5502のA号)</td> </tr> <tr> <td>45以上</td> <td>10以上</td> </tr> </tbody> </table>	区分	引張強さ kg/mm ²	伸び %	試験片	直管	40以上	5以上	供試管より長さ100 mm以上	異形管	40以上	15以上	Yブロックより採取 (JIS G 5502のA号)	45以上	10以上			
区分	引張強さ kg/mm ²	伸び %	試験片															
直管	40以上	5以上	供試管より長さ100 mm以上															
異形管	40以上	15以上	Yブロックより採取 (JIS G 5502のA号)															
	45以上	10以上																
(日本水道協会規格) JWWA K 115 「水道用タールエポキシ 樹脂塗料塗装方法」制定	水道用に使用する管類、弁類及び水槽の内面に塗装する塗料並びに塗装方法がJWWA規格として制定された。 〈主な内容〉 呼び径400～1500の内面に適用された。																	
JWWA A 107 「水道用遠心力ダクタイル 鑄鉄管モルタルライニング」 廃止	昭和45年のJWWA規格に整合させて、 JIS A 5314 が改正されたため、廃止された。																	
JWWA G 105 「水道用遠心力ダクタイル 鑄鉄管」廃止 JWWA G 106 「水道用ダクタイル鑄鉄 異形管」廃止	昭和46年の本規格がJIS規格となり、廃止された。																	
(日本鑄鉄管協会規格) JCPA Z 2002 「T形管用滑剤仕様書」改正	タイトン形継手が昭和48年にJWWA規格として制定されたのに伴い、昭和47年の規格を改正した。 〈主な内容〉 主成分を植物性高分子の水溶液に改正した。 また、規格名称も変更した。																	

年次	規格	関連事項
1975年 (昭和50年)	(日本工業規格) JIS G 5502 「球状黒鉛鑄鉄品」改正	昭和46年の規格がISO規格に整合させ、改正された。
	(日本鑄鉄管協会規格) JCPA G 1001 「K形遠心力ダクタイル鑄鉄管」改正	昭和47年の規格を改正した。 〈主な内容〉 呼び径… K形、U形とも2600を追加した。 機械的性質… JIS G 5526・5527と同じ。
	JCPA G 1002 「K形ダクタイル鑄鉄異形管」改正	
	JCPA G 1007 「U形遠心力ダクタイル鑄鉄管」改正	
	JCPA G 1008 「U形ダクタイル鑄鉄異形管」改正	
	JCPA G 1010 「UF形遠心力ダクタイル鑄鉄管」制定	離脱防止形としてUF形・KF形継手が普及するに至り、規格を制定した。 〈主な内容〉
	JCPA G 1011 「UF形ダクタイル鑄鉄異形管」制定	
	JCPA G 1012 「KF形遠心力ダクタイル鑄鉄管」制定	
	JCPA G 1013 「KF形ダクタイル鑄鉄異形管」制定	
	JCPA G 1014 「U形推進工法用遠心力ダクタイル鑄鉄管」制定	推進工法用としてダクタイル鑄鉄管が普及するに至り、規格を制定した。 〈主な内容〉
	JCPA G 1015 「UF形推進工法用遠心力ダクタイル鑄鉄管」制定	
	JCPA G 1016 「T形推進工法用遠心力ダクタイル鑄鉄管」制定	
	JCPA G 1017 「TC形推進工法用遠心力ダクタイル鑄鉄管」制定	
	JCPA Z 2005 「ダクタイル鑄鉄管防食用ポリエチレンスリーブ」制定	管外面の防食法としてポリエチレンスリーブ工法が普及するに至り、規格を制定した。 〈主な内容〉 呼び径 … 75～2600 厚 さ … 0.2mm

年次	規格	関連事項
1975年 (昭和50年)	(日本鑄鉄管協会規格) JCPA G 1010 「U F形遠心力ダクタイル 鑄鉄管」改正	当年の規格に呼び径2600を追加し改正した。
	JCPA G 1011 「U F形ダクタイル鑄鉄 異形管」改正	
1976年 (昭和51年)	(日本鑄鉄管協会規格) JCPA G 1001 「K形遠心力ダクタイル 鑄鉄管」改正	昭和50年の規格を改正した。 〈主な内容〉 酸化被膜処理したボルト・ナットに改正した。
	JCPA G 1002 「K形ダクタイル鑄鉄 異形管」改正	
	JCPA G 1009 「フランジ形ダクタイル 鑄鉄長管」改正	昭和47年の規格を改正した。 〈主な内容〉 呼び径1100～1500を追加した。
	JCPA G 1012 「K F形遠心力ダクタイル 鑄鉄管」改正	昭和50年の規格を改正した。 〈主な内容〉 酸化被膜処理したボルト・ナットに改正した。
	JCPA G 1013 「K F形ダクタイル鑄鉄 異形管」改正	
JCPA G 1018 「K形ダクタイル鑄鉄管用 F N形継手」制定	K形挿し口にリングを溶接した離脱防止形の継手が普及するに至り、規格を制定した。 〈主な内容〉 呼び径 … 300～900	

年次	規格	関連事項
1977年 (昭和52年)	(日本工業規格) JIS G 5526 「水道用遠心力球状黒鉛 鋳鉄管」改正	国際単位系(S I)導入に伴い、昭和49年のJIS規格が改正された。
	JIS G 5527 「水道用球状黒鉛鋳鉄異形管」 改正	
	JIS K 6353 「水道用ゴム」改正	国際単位系(S I)導入に伴い、昭和41年のJIS規格が改正された。
	(日本ダクタイトイル鉄管協会規格) JDPA Z 2006 「水道用ダクタイトイル鋳鉄 異形管粉体塗装」制定	異形管内面の防食法として粉体塗装の塗料及び塗装方法が開発され、規格を制定した。
	JDPA Z 2007 「ダクタイトイル鋳鉄管継手用 クロロプレンゴム輪」制定	下水道又は耐熱用にクロロプレンゴム輪(CR)が使用されるに至り、規格を制定した。
	_____	水道用ゴム輪の材質をスチレンブタジエンゴム(SBR)に限定した。
_____	日本鋳鉄管協会を日本ダクタイトイル鉄管協会に改名し、英文略称を「JDPA」に改正した。	
1978年 (昭和53年)	(日本工業規格) JIS A 5314 「水道用遠心力球状黒鉛鋳鉄管 モルタルライニング」改正	昭和49年の規格に国際単位系(S I)を導入し、改正された。
	(日本ダクタイトイル鉄管協会規格) JDPA Z 2002 「ダクタイトイル管継手用滑剤」 改正	昭和49年のJCPA規格を改正した。 〈主な内容〉 これまでT形継手専用であったものを全ての継手に適用するよう改正した。 また、規格名称も変更した。
	JDPA Z 2008 「ダクタイトイル鋳鉄管継手用 ニトリルゴム輪」制定	下水道又は耐熱用にアクリロニトリルブタジエン系合成ゴム輪(NBR)が使用されるに至り、規格を制定した。

年次	規格	関連事項
1979年 (昭和54年)	(水道協会規格) JWSA G 104 「水道用鑄鉄管塗装方法」廃止	昭和30年の規格が廃止された。
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1001 「K形遠心力ダクタイル 鑄鉄管」改正	昭和52年のJIS規格に国際単位系(S I)が導入されたの に伴い、整合させて改正した。
	----- JDPA G 1002 「K形ダクタイル鑄鉄 異形管」改正	
	----- JDPA G 1007 「U形遠心力ダクタイル 鑄鉄管」改正	
	----- JDPA G 1008 「U形ダクタイル鑄鉄 異形管」改正	
	----- JDPA G 1009 「フランジ形ダクタイル 鑄鉄長管」改正	
	----- JDPA G 1010 「U F形遠心力ダクタイル 鑄鉄管」改正	
	----- JDPA G 1011 「U F形ダクタイル鑄鉄 異形管」改正	
	----- JDPA G 1012 「K F形遠心力ダクタイル 鑄鉄管」改正	
	----- JDPA G 1013 「K F形ダクタイル鑄鉄 異形管」改正	
	----- JDPA G 1014 「U形推進工法用遠心力 ダクタイル鑄鉄管」改正	
	----- JDPA G 1015 「U F形推進工法用遠心力 ダクタイル鑄鉄管」改正	
	----- JDPA G 1016 「T形推進工法用遠心力 ダクタイル鑄鉄管」改正	
	----- JDPA G 1017 「T C形推進工法用遠心力 ダクタイル鑄鉄管」改正	
		昭和50年のJCPA規格に外装などの仕様を追加し、改正した。

年次	規格	関連事項	
1979年 (昭和54年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDKA G 1018 「K形ダクタイル鋳鉄管用 FN形継手」改正	昭和52年のJIS規格に整合させて改正された。	
	JDKA G 1019 「S形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」制定	耐震用及び耐軟弱地盤用として伸縮・離脱防止形の継手が 普及するに至り、規格を制定した。 〈主な内容〉	
	JDKA G 1020 「S形ダクタイル鋳鉄 異形管」制定		
	JDKA G 1021 「SⅡ形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」制定	呼び径	接合形式
	JDKA G 1022 「SⅡ形ダクタイル鋳鉄 異形管」制定	100～450	SⅡ形
	JDKA G 1024 「T形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」制定	500～2600	S形
	JDKA Z 2006 「ダクタイル鋳鉄管内面 エポキシ樹脂粉体塗装」改正	昭和52年の規格の適用範囲に直管を追加し、改正した。 また、規格名称も変更した。	
1980年 (昭和55年)	(日本工業規格) JIS A 5314 「水道用遠心力球状黒鉛鋳鉄管 モルタルライニング」改正	昭和53年のJIS規格が実情に合わせて改正された。	
	(日本水道協会規格) JWWA G 112 「水道用ダクタイル鋳鉄管 内面エポキシ樹脂粉体塗装」 制定	昭和54年のJDKA規格がJWWA規格として制定された。	
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDKA G 1014 「U形推進工法用遠心力 ダクタイル鋳鉄管」改正	昭和54年の規格を改正した。 〈主な内容〉 外装施工年月日の表示を管内面のラベル表示から外装表面 へのペイント表示に変更した。	
	JDKA G 1015 「UF形推進工法用遠心力 ダクタイル鋳鉄管」改正		
	JDKA G 1016 「T形推進工法用遠心力 ダクタイル鋳鉄管」改正	JDKA Z 2009 「ダクタイル鋳鉄管用 外面特殊塗装」制定	露出又は水中配管などに使用される鋳鉄管の外面塗装の規 格を制定した。
JDKA Z 2006 「ダクタイル鋳鉄管内面 エポキシ樹脂粉体塗装」廃止	昭和54年の本規格がJWWA規格となり、廃止した。		

年次	規格	関連事項																														
1981年 (昭和56年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1027 「ダクタイル鋳鉄直管 及びダクタイル鋳鉄 異形管(農業用水用)」制定	農業用水用を使用するダクタイル鋳鉄管について、管と継手に区分して規格を制定した。 〈主な内容〉																														
	JDPA G 1028 「ダクタイル鋳鉄管継手 (農業用水用)」制定	<table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>管の種類</th> <th>接合形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75~2600</td> <td>1種管から5種管 及び中間管種を 規定した</td> <td>A形、K形、T形、 フランジ形</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	管の種類	接合形式	75~2600	1種管から5種管 及び中間管種を 規定した	A形、K形、T形、 フランジ形																								
	呼び径	管の種類	接合形式																													
75~2600	1種管から5種管 及び中間管種を 規定した	A形、K形、T形、 フランジ形																														
JDPA Z 2005 「ダクタイル鋳鉄管防食用 ポリエチレンスリーブ」 改正	昭和50年のJCPA規格を改正した。 〈主な内容〉 呼び径1000以上のポリエチレンスリーブの長さを変更した。																															
1982年 (昭和57年)	(日本工業規格) JIS G 5502 「球状黒鉛鋳鉄品」改正	昭和50年の規格が改正された。 〈主な内容〉 FCD 37、FCD 80が追加された。																														
	JIS G 5526 「ダクタイル鋳鉄管」改正	昭和52年の規格の名称を変更し、水道用以外の用途にも使用できるよう汎用性のある規格に改正された。 〈主な内容〉																														
	JIS G 5527 「ダクタイル鋳鉄異形管」改正	<table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>管の種類</th> <th>接合形式</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75~2600</td> <td rowspan="7">4種管及び 中間管種 が追加 された</td> <td>K形</td> <td>——</td> </tr> <tr> <td>75~350</td> <td>A形</td> <td>——</td> </tr> <tr> <td>75~2000</td> <td>T形</td> <td>異形管は呼び径 75~250</td> </tr> <tr> <td>700~2600</td> <td>U形、UF形</td> <td>——</td> </tr> <tr> <td>300~900</td> <td>KF形</td> <td>——</td> </tr> <tr> <td>100~450</td> <td>SII形</td> <td>——</td> </tr> <tr> <td>500~2600</td> <td>S形</td> <td>——</td> </tr> <tr> <td>75~2600</td> <td>——</td> <td>フランジ形</td> <td>——</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	管の種類	接合形式	備考	75~2600	4種管及び 中間管種 が追加 された	K形	——	75~350	A形	——	75~2000	T形	異形管は呼び径 75~250	700~2600	U形、UF形	——	300~900	KF形	——	100~450	SII形	——	500~2600	S形	——	75~2600	——	フランジ形	——
		呼び径	管の種類	接合形式	備考																											
		75~2600	4種管及び 中間管種 が追加 された	K形	——																											
75~350		A形		——																												
75~2000		T形		異形管は呼び径 75~250																												
700~2600		U形、UF形		——																												
300~900		KF形		——																												
100~450	SII形	——																														
500~2600	S形	——																														
75~2600	——	フランジ形	——																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>引張強さ kgf/mm²</th> <th>伸び %</th> <th>試験片</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>直管</td> <td>42以上</td> <td>10以上</td> <td>供試管より長さ50mm以上</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">異形管</td> <td>40以上</td> <td>12以上</td> <td rowspan="2">Yブロックより採取 (JIS G 5502のA号)</td> </tr> <tr> <td>45以上</td> <td>10以上</td> </tr> </tbody> </table>	区分	引張強さ kgf/mm ²	伸び %	試験片	直管	42以上	10以上	供試管より長さ50mm以上	異形管	40以上	12以上	Yブロックより採取 (JIS G 5502のA号)	45以上	10以上																		
区分	引張強さ kgf/mm ²	伸び %	試験片																													
直管	42以上	10以上	供試管より長さ50mm以上																													
異形管	40以上	12以上	Yブロックより採取 (JIS G 5502のA号)																													
	45以上	10以上																														
JIS K 6353 「水道用ゴム」改正	昭和52年の規格が改正された。 〈主な内容〉 品質が引張強さを基準として分類され、スプリング硬さにより小分類された。																															

年次	規格	関連事項						
1982年 (昭和57年)	(日本水道協会規格) JWWA G 113 「水道用ダクタイル鋳鉄管」 制定	昭和57年のJIS G 5526・5527の改正に伴い、水道用としてJWWA規格が制定された。						
	JWWA G 114 「水道用ダクタイル鋳鉄 異形管」制定							
	JWWA Z 100 「水道用品表示記号」改正	JWWA G 113・114の制定に伴い、改正された。						
	JWWA Z 101 「水道用ダクタイル鋳鉄管類 の表示方法」改正							
	JWWA G 108 「水道用遠心力鋳鉄管」廃止	昭和44年の規格(高級鋳鉄管)が廃止された。						
	JWWA G 109 「水道用鋳鉄異形管」廃止							
	JWWA G 110 「水道用T形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」廃止	昭和48年の本規格がJIS規格となり、廃止された。						
	JWWA G 111 「水道用T形ダクタイル 鋳鉄異形管」廃止							
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDKA G 1025 「下水道用ダクタイル 鋳鉄直管及びダクタイル 鋳鉄異形管」制定	下水道用を使用するダクタイル鋳鉄管について、管と継手に区分して規格を制定した。 〈主な内容〉						
	JDKA G 1026 「下水道用ダクタイル 鋳鉄管継手」制定	<table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>管の種類</th> <th>接合形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75~2600</td> <td>1種管から5種管 及び中間管種を 規定した</td> <td>A形、K形、U形、T形、 フランジ形(RF形)</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	管の種類	接合形式	75~2600	1種管から5種管 及び中間管種を 規定した	A形、K形、U形、T形、 フランジ形(RF形)
	呼び径	管の種類	接合形式					
	75~2600	1種管から5種管 及び中間管種を 規定した	A形、K形、U形、T形、 フランジ形(RF形)					
JDKA G 1027 「ダクタイル鋳鉄直管及び ダクタイル鋳鉄異形管 (農業用水用)」改正	JIS G 5526・5527の改正に伴い、改正した。							
JDKA G 1028 「ダクタイル鋳鉄管継手 (農業用水用)」改正								

年次	規格	関連事項						
1983年 (昭和58年)	(日本工業規格) JIS G 5521 「水道用立型鑄鉄管」廃止	昭和29年の規格(高級鑄鉄管)が廃止された。						
	JIS G 5522 「水道用遠心力砂型鑄鉄管」 廃止							
	JIS G 5523 「水道用遠心力金型鑄鉄管」 廃止							
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1029 「ダクタイル鑄鉄管 推進工法用外装」制定	昭和57年のJIS G 5526の改正並びにJDPA G 1025～1028の制定及び改正に伴い、新たにJDPA規格として制定した。 〈主な内容〉						
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>接合形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>300～700</td> <td>T形</td> </tr> <tr> <td>700～2600</td> <td>U形、UF形</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	接合形式	300～700	T形	700～2600	U形、UF形
	呼び径	接合形式						
	300～700	T形						
	700～2600	U形、UF形						
	JDPA Z 2003 「ダクタイル鑄鉄管類の 表示記号」改正	昭和48年の規格にS1号マーク～S4号マークを追加し改正した。						
	JDPA Z 2004 「ダクタイル鑄鉄管類の 表示方法」改正	昭和57年のJWWA Z 101の改正に伴い、改正した。 また、規格名称も変更した。						
JDPA Z 2005 「ダクタイル鑄鉄管防食用 ポリエチレンスリーブ」改正	昭和56年の規格にメルトフローレート及び密度を追加、伸びの値をISO規格に整合、内径及び折り径を拡大、施工が容易にできるような表示規定を追加し、改正した。							
JDPA Z 2009 「ダクタイル鑄鉄管用 外面特殊塗装」改正	昭和57年のJIS G 5526・5527の改正に伴い、改正した。							
JDPA G 1014 「U形推進工法用遠心力 ダクタイル鑄鉄管」廃止	昭和55年の本規格を整理統合してJDPA G 1029として制定したため、廃止した。							
JDPA G 1015 「UF形推進工法用遠心力 ダクタイル鑄鉄管」廃止								
JDPA G 1016 「T形推進工法用遠心力 ダクタイル鑄鉄管」廃止								
JDPA G 1017 「TC形推進工法用遠心力 ダクタイル鑄鉄管」廃止	昭和54年の規格を廃止した。							

年次	規格	関連事項						
1984年 (昭和59年)	(日本工業規格) JIS A 5314 「ダクタイル鋳鉄管 モルタルライニング」改正	昭和57年のJIS G 5526・5527の改正に伴い、改正された。 〈主な内容〉 呼び径1600～2600が追加された。 また、水道用以外の用途にも使用できるよう汎用性のある規格とし、規格名称も変更された。						
	JIS G 5528 「ダクタイル鋳鉄管内面 エポキシ樹脂粉体塗装」制定	昭和55年のJWWA G 112がJIS規格として制定された。						
	(日本下水道協会規格) JSWAS G-1 「下水道用ダクタイル鋳鉄管」 制定	ダクタイル鋳鉄管が日本下水道協会規格として制定された。 〈主な内容〉 <table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>管の種類</th> <th>接合形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75～2600</td> <td>1種管から5種管 及び中間管種が 規定された</td> <td>K形、A形、T形、U形 フランジ形(RF形)</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	管の種類	接合形式	75～2600	1種管から5種管 及び中間管種が 規定された	K形、A形、T形、U形 フランジ形(RF形)
	呼び径	管の種類	接合形式					
	75～2600	1種管から5種管 及び中間管種が 規定された	K形、A形、T形、U形 フランジ形(RF形)					
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1025 「下水道用ダクタイル鋳鉄管」 改定	JSWAS G-1 制定に伴い、整合させて改正した。 また、規格名称も変更した。						
	JDPA G 1026 「下水道用ダクタイル 鋳鉄管継手」改正							
	JDPA G 1027 「農業用水用ダクタイル 鋳鉄管」改正	JIS A 5314 及び JIS G 5528 の改正に伴い、整合させて改正した。 また、規格名称も変更した。						
	JDPA G 1028 「農業用水用ダクタイル 鋳鉄管継手」改正							
	JDPA G 1030 「ダクタイル鋳鉄管」制定	昭和57年の JIS G 5526・5527 及び JWWA G 113・114 以外のダクタイル鋳鉄管について、 JDPA 規格として制定した。						
JDPA G 1031 「ダクタイル鋳鉄異形管」制定								
JDPA G 1032 「フランジ形ダクタイル 鋳鉄直管」制定	一体フランジ及び溶接フランジ形直管の規格として制定した。 〈主な内容〉 呼び径 … 75～1200 形 式 … 7.5 kgf/cm ² (RF形)							
JDPA G 1033 「P I 形・P II 形ダクタイル 鋳鉄管」制定	パイプ・イン・パイプ工法用のダクタイル鋳鉄管が開発され、規格を制定した。 〈主な内容〉 呼び径 … 300～1350							
JDPA G 1034 「U S 形ダクタイル鋳鉄管」 制定	耐震用、耐軟弱地盤用で内面から接合できる継手が開発され、規格を制定した。 〈主な内容〉 呼び径 … 700～2600							

年次	規格	関連事項
1984年 (昭和59年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の表示」 改正	昭和57年のJIS G 5526・5527の改正及びJWWA G 113・114の制定に伴い、昭和58年の規格を改正した。 また、規格名称も変更した。
	JDPA Z 2005 「ダクタイル鋳鉄管用 ポリエチレンスリーブ」改正	昭和58年の規格の製造方法及び検査方法などを改正した。 また、スリーブ固定用のゴムバンド及び締め具を追加し、 規格名称も変更した。
	JDPA Z 2009 「ダクタイル鋳鉄管 外面特殊塗装」改正	JSWAS G-1の制定に伴い、整合させて改正した。 また、規格名称も変更した。
	JDPA G 1001 「K形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」廃止	昭和54年の規格がJIS規格となり、廃止した。
	JDPA G 1002 「K形ダクタイル鋳鉄 異形管」廃止	
	JDPA G 1007 「U形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」廃止	
	JDPA G 1008 「U形ダクタイル鋳鉄 異形管」廃止	
	JDPA G 1009 「フランジダクタイル 鋳鉄長管」廃止	
	JDPA G 1010 「UF形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」廃止	昭和54年の規格がJIS規格となり、廃止した。
	JDPA G 1011 「UF形ダクタイル鋳鉄 異形管」廃止	
	JDPA G 1012 「KF形遠心力ダクタイル 鋳鉄管」廃止	
	JDPA G 1013 「KF形ダクタイル鋳鉄 異形管」廃止	昭和54年の規格を廃止した。
	JDPA G 1018 「K形ダクタイル鋳鉄管用 FN形継手」廃止	

年次	規格	関連事項						
1984年 (昭和59年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDP A G 1019 「S形遠心カダクタイル 鋳鉄管」廃止	昭和54年の規格がJIS規格となり、廃止した。						
	JDP A G 1020 「S形ダクタイル鋳鉄 異形管」廃止							
	JDP A G 1021 「SⅡ形遠心カダクタイル 鋳鉄管」廃止							
	JDP A G 1022 「SⅡ形ダクタイル鋳鉄 異形管」廃止							
	JDP A G 1024 「T形遠心カダクタイル 鋳鉄管」廃止							
	JDP A Z 2003 「表示記号」廃止							
	JDP A Z 2007 「ダクタイル鋳鉄管継手用 クロブレンゴム輪」廃止							
1985年 (昭和60年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDP A G 1035 「下水道推進工法用 ダクタイル鋳鉄管」制定	下水道用を使用する推進工法用ダクタイル鋳鉄管として規格を制定した。 〈主な内容〉 <table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>接合形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>300～700</td> <td>T形</td> </tr> <tr> <td>700～2600</td> <td>U形、UF形</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	接合形式	300～700	T形	700～2600	U形、UF形
	呼び径	接合形式						
300～700	T形							
700～2600	U形、UF形							
(日本工業規格) JIS G 5502 「球状黒鉛鋳鉄品」改正	昭和57年の規格が改正された。 〈主な内容〉 黒鉛球状化率70%以上が規定された。							
1986年 (昭和61年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDP A G 1029 「推進工法用ダクタイル 鋳鉄品」改正	昭和58年の規格に呼び径250T形を追加するとともに、管と外装の規格を統合し、規格名称も変更した。						
	JDP A G 1033 「PⅠ形・PⅡ形ダクタイル 鋳鉄管」改正	昭和59年の規格の付図について、直管及び異形管の区分の明確化、異形管の管種の追加・削除などを行い、改正した。						
	JDP A G 1035 「下水道推進工法用 ダクタイル鋳鉄管」改正	昭和60年の規格に呼び径250T形及び呼び径250～200S T形を追加し、改正した。						
	JDP A G 1037 「呼び径50mmダクタイル 鋳鉄管」制定	呼び径50T形ダクタイル鋳鉄管を遠心力鋳造する技術が開発され、規格を制定した。						
	JDP A Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の表示」 改正	昭和59年の規格にS T形を追加し、改正した。						

年次	規格	関連事項															
1988年 (昭和63年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDKA G 1037 「呼び径50mmダクタイル 鋳鉄管」改正	昭和61年の規格の管長を4mから3mに変更し、改正した。															
	JDKA Z 2009 「ダクタイル鋳鉄管 外面特殊塗装」改正	昭和59年の規格に現地塗装用の塗装系(塩化ゴム及びポリ ウレタン)を追加し、改正した。 なお、プライマとして亜鉛系塗装を準備とした。															
	JDKA Z 2010 「水道用ダクタイル鋳鉄管 外面塗装」制定	ダクタイル鋳鉄管用の外面塗装の規格を制定した。															
	JDKA Z 2011 「ダクタイル鋳鉄異形管内面 エポキシ樹脂塗装」制定	異形管用のエポキシ系内面塗装の規格を制定した。															
	JDKA Z 2013 「ダクタイル鋳鉄異形管 モルタルライニング」制定	呼び径700~2600異形管に適用するモルタルライニングの 規格を制定した。															
1989年 (昭和64年) (平成元年)	(日本工業規格) JIS G 5502 「球状黒鉛鋳鉄品」改正	昭和61年の規格が改正された。 〈主な内容〉 FCD 370、FCD 400、FCD 450、FCD 500、 FCD 600、FCD 700、FCD 800															
	JIS G 5526 「ダクタイル鋳鉄管」改正	昭和57年の規格の直管及び異形管の機械的性質を同一にし、 直管のへん平試験が削除され、改正された。 また、S I 単位(第3段階)への移行及びU S 形、P I 形、 P II 形が追加された。 〈主な内容〉															
	JIS G 5527 「ダクタイル鋳鉄異形管」 改正	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>引張強さ N/mm²</th> <th>伸 び %</th> <th>硬 さ H B</th> <th>へん平試験</th> <th>試 験 片</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>直 管</td> <td rowspan="2">420以上</td> <td rowspan="2">10以上</td> <td rowspan="2">230以下</td> <td>削除された</td> <td>供試管より 必要な長さ</td> </tr> <tr> <td>異形管</td> <td>—</td> <td>Yブロックより採取 (JIS G 5502 のB号)</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	引張強さ N/mm ²	伸 び %	硬 さ H B	へん平試験	試 験 片	直 管	420以上	10以上	230以下	削除された	供試管より 必要な長さ	異形管	—	Yブロックより採取 (JIS G 5502 のB号)
	区 分	引張強さ N/mm ²	伸 び %	硬 さ H B	へん平試験	試 験 片											
直 管	420以上	10以上	230以下	削除された	供試管より 必要な長さ												
異形管				—	Yブロックより採取 (JIS G 5502 のB号)												
JIS G 5524 「水道用鋳鉄異形管」廃止	昭和29年の規格(高級鋳鉄管)が廃止された。																
	(日本水道協会規格) JWWA K 115 「水道用タールエポキシ樹脂 塗料塗装方法」改正	塗料の衛生性より管の内面の水に接する面を本規格の適用 外として改正された。															
	JWWA K 135 「水道用液状エポキシ樹脂 塗料塗装方法」制定	タール系塗料に代わる塗料として、管内面に適用するエポ キシ系塗料及び塗装方法として制定された。															

年次	規格	関連事項											
1989年 (昭和64年) (平成元年)	(日本ダクタイトイル鉄管協会規格) JDKA G 1027 「農業用水用ダクタイトイル 鋳鉄管」改正	昭和63年3月農林水産省の土地改良事業計画設計基準「設計水路工(その2)パイプライン」の改定に伴い、JIS G 5526・5527以外のもので農業用に使用する管を追加し、改正した。											
	JDKA Z 2005 「ダクタイトイル鋳鉄管用 ポリエチレンスリーブ」改正	昭和59年の規格の材料及び製造方法、物理的性質、寸法、検査の抜き取り数などを変更し、改正した。											
	JDKA G 1028 「農業用水用ダクタイトイル 鋳鉄管継手」廃止	昭和59年の規格をJDKA G 1027に包含し、廃止した。											
1990年 (平成2年)	(日本水道協会規格) JWWA G 113 「水道用ダクタイトイル鋳鉄管」 改正	平成元年のJIS G 5526・5527の改正に伴い、改正された。 〈主な内容〉 呼び径100及び150のSⅡ形ロックリングの形状を、改良タイプに変更し改正された。											
	JWWA G 114 「水道用ダクタイトイル鋳鉄 異形管」改正												
	(日本下水道協会規格) JSWAS G-2 「下水道推進工法用ダクタイトイル 鋳鉄管」制定	昭和61年のJDKA G 1035がJSWAS規格として制定された。 〈主な内容〉 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">呼び径</th> <th style="width: 50%;">接合形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>250～700</td> <td>T形</td> </tr> <tr> <td>700～2600</td> <td>U形、UF形</td> </tr> <tr> <td>250～2000</td> <td>ST形</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	接合形式	250～700	T形	700～2600	U形、UF形	250～2000	ST形			
呼び径	接合形式												
250～700	T形												
700～2600	U形、UF形												
250～2000	ST形												
1991年 (平成3年)	(日本ダクタイトイル鉄管協会規格) JDKA G 1036 「下水道推進工法用 GS形ダクタイトイル鋳鉄管」 制定	自然流下系管路用に適用する推進工法用ダクタイトイル鋳鉄管として制定した。 〈主な内容〉 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">呼び径</th> <th style="width: 10%;">種類</th> <th style="width: 20%;">接合形式</th> <th style="width: 50%;">用途</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">300～1000</td> <td>I類</td> <td>GS形</td> <td>一般管路用</td> </tr> <tr> <td>II類</td> <td>GS形</td> <td>耐震・耐軟弱地盤管路用</td> </tr> </tbody> </table> 機械的性質 … 平成元年のJIS G 5502の4種相当品	呼び径	種類	接合形式	用途	300～1000	I類	GS形	一般管路用	II類	GS形	耐震・耐軟弱地盤管路用
	呼び径	種類	接合形式	用途									
	300～1000	I類	GS形	一般管路用									
II類		GS形	耐震・耐軟弱地盤管路用										
JDKA Z 2004 「ダクタイトイル鋳鉄管類の表示」 改正	昭和61年の規格に異形管工業会の記号を全ての異形管に鋳出し表示するよう改正した。												
JDKA Z 2011 「ダクタイトイル鋳鉄異形管内面 液状エポキシ樹脂塗装」改正	平成元年のJWWA K 135の制定に伴い、改正した。 また、規格名称も変更した。												

年次	規格	関連事項
1992年 (平成4年)	(日本水道協会規格) JWWA G 113 「水道用ダクタイル鋳鉄管」 改正	平成2年の規格が改正された。 〈主な内容〉 JWWA K 139 の制定に伴い、塗装規定が変更された。 呼び径75 S II形の追加及び呼び径75及び100 S II形切管用挿し口リングの形状が改正された。 また、異形管の試験の供試材に JIS G 5502 のノックオフ形が追加された。
	JWWA G 114 「水道用ダクタイル鋳鉄異形管」改正	
	JWWA K 139 「水道用ダクタイル鋳鉄管合成樹脂塗料」制定	タール系塗料の衛生性の問題から、水道用ダクタイル鋳鉄管用の塗料として、合成樹脂塗料が制定された。
	(日本下水道協会規格) JSWAS G-1 「下水道用ダクタイル鋳鉄管」 改正	平成元年の JIS G 5526・5527 規格改正に伴い、改正された。 〈主な内容〉 管の種類が1種管から5種管となり、中間管種が削除され、A形継手も削除された。 また、管内面塗装として液状エポキシ樹脂塗装が追加された。
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1037 「呼び径50mmダクタイル鋳鉄管」改正	昭和63年の規格に離脱防止機能付き両受異形管 15種類を追加し、改正した。
	JDPA G 1038 「うず巻式ダクタイル鋳鉄フランジ付きT字管(消火栓用)」制定	管内を効果的に洗浄できるよう枝管をうず巻状にしたフランジ付きT字管の規格を制定した。 〈主な内容〉
	JDPA Z 2005 「ダクタイル鋳鉄管用ポリエチレンスリーブ」改正	平成元年の規格に「日本ダクタイル鉄管協会認定品」の表示を追加し、改正した。 また、熱融着部の伸びの値(250%以上)を規定した。
JDPA Z 2009 「ダクタイル鋳鉄管外面特殊塗装」改正	昭和63年の規格からタールエポキシ樹脂塗料を削除し、改正した。	

年次	規格	関連事項																
1993年 (平成5年)	(日本水道協会規格) JWWA G 114-2 「水道用うず巻式ダクタイト 鋳鉄フランジ付きT字管 (消火栓用)」制定	平成4年のJDPA規格がJWWA規格として制定された。 〈主な内容〉 <table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>接合形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75～350</td> <td>K形、A形</td> </tr> <tr> <td>75～250</td> <td>T形</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	接合形式	75～350	K形、A形	75～250	T形										
	呼び径	接合形式																
	75～350	K形、A形																
	75～250	T形																
	(日本下水道協会規格) JSWAS G-2 「下水道推進工法用 ダクタイト鋳鉄管」改正	平成4年のJSWAS G-1改正に伴い、整合性を図り、ST形及び中間管種を削除、GS形及びGSS形が追加され、改正された。 〈主な内容〉 <table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>区分</th> <th>接合形式</th> <th>用途</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>250～700</td> <td rowspan="2">I類 (圧送用)</td> <td>T形</td> <td rowspan="2">—</td> </tr> <tr> <td>700～2600</td> <td>U形、UF形</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">300～1000</td> <td rowspan="2">II類 (自然流下用)</td> <td>GS形</td> <td>一般管路用</td> </tr> <tr> <td>GSS形</td> <td>耐震・耐軟弱地盤管路用</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	区分	接合形式	用途	250～700	I類 (圧送用)	T形	—	700～2600	U形、UF形	300～1000	II類 (自然流下用)	GS形	一般管路用	GSS形	耐震・耐軟弱地盤管路用
	呼び径	区分	接合形式	用途														
	250～700	I類 (圧送用)	T形	—														
700～2600	U形、UF形																	
300～1000	II類 (自然流下用)	GS形	一般管路用															
		GSS形	耐震・耐軟弱地盤管路用															
(日本ダクタイト鉄管協会規格) JDPA G 1029 「推進工法用ダクタイト 鋳鉄管」改正	昭和61年の規格にUS形及び内面エポキシ樹脂粉体塗装の追加並びに呼び径1500以下の中間管種を削除し、改正した。																	
JDPA G 1039 「ボール式ダクタイト鋳鉄 可とう管ユニット」 制定	構造物付近などで急激な地盤変動に対応できる可とう管ユニットが実用化されたため、規格を制定した。 〈主な内容〉 <table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>最大偏位量 mm</th> <th>接合形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75～450</td> <td>300</td> <td>SII形、フランジ形</td> </tr> <tr> <td>500～1200</td> <td>500、1000</td> <td>BJ形</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	最大偏位量 mm	接合形式	75～450	300	SII形、フランジ形	500～1200	500、1000	BJ形								
呼び径	最大偏位量 mm	接合形式																
75～450	300	SII形、フランジ形																
500～1200	500、1000	BJ形																
JDPA G 1040 「ダクタイト鋳鉄管用 ステンレス鋼(SUS 304)製 ボルト・ナット」制定	耐食合金として一般的に普及しているステンレス鋼(SUS 304)製のボルト・ナットが、ダクタイト鋳鉄管の接合用として普及するに至り、規格を制定した。 〈主な内容〉 適用接合形式…K形、A形、KF形、SII形、S形、 フランジ形																	
JDPA G 1041 「ダクタイト鋳鉄製貯水槽 (耐震用・緊急用)」制定	地震時又は緊急時の用水確保のためのダクタイト鋳鉄製貯水槽が普及するに至り、規格を制定した。 〈主な内容〉 <table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>貯水容量 m³</th> <th>形式</th> <th>接合形式</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1500</td> <td>50</td> <td rowspan="3">分散型、 集中型</td> <td rowspan="3">UF形、 LUF形</td> </tr> <tr> <td>2000</td> <td>50、60、100</td> </tr> <tr> <td>2600</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	貯水容量 m ³	形式	接合形式	1500	50	分散型、 集中型	UF形、 LUF形	2000	50、60、100	2600	100					
呼び径	貯水容量 m ³	形式	接合形式															
1500	50	分散型、 集中型	UF形、 LUF形															
2000	50、60、100																	
2600	100																	
JDPA Z 2010 「ダクタイト鋳鉄管合成 樹脂塗装」改正	平成4年のJWWA K 139制定に伴い、整合性を図り、塗装方法、塗装範囲及び検査範囲を規定し、改正した。 また、規格名称も変更した。																	

年次	規格	関連事項														
1994年 (平成6年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDKA G 1040 「ダクタイル鋳鉄管用 ステンレス鋼 (SUS 304、SUS 403)製 ボルト・ナット」改正	平成5年の規格にステンレス鋼(SUS 403)製ボルト・ナットを追加し、改正した。														
	JDKA Z 2005 「ダクタイル鋳鉄管用 ポリエチレンスリーブ」改正	平成4年の規格に呼び径100のポリエチレンスリーブ長さ6000mmを追加、「粉体塗装管」の表示追加、締め具の衝撃強さの単位の変更、ゴムバンドの物理的性質の検査の一組の質量を変更し、改正した。														
1995年 (平成7年)	(日本工業規格) JIS G 5502 「球状黒鉛鋳鉄品」改正	平成元年の規格がISO 1083との整合を図り改正された。 〈主な内容〉 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>種類の記号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">別鋳込み 供試材に よる場合</td> <td>FCD 350-22、FCD 350-22L</td> </tr> <tr> <td>FCD 400-18、FCD 400-18L</td> </tr> <tr> <td>FCD 400-15、FCD 450-10</td> </tr> <tr> <td>FCD 500-7、FCD 600-3</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">本体付き 供試材に よる場合</td> <td>FCD 700-2、FCD 800-2</td> </tr> <tr> <td>FCD 400-18A、FCD 400-18AL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>FCD 400-15A、FCD 500-7A</td> </tr> <tr> <td></td> <td>FCD 600-3A</td> </tr> </tbody> </table> 黒鉛球状化率がISO (ISO 1083)法の80%以上に変更された。	区分	種類の記号	別鋳込み 供試材に よる場合	FCD 350-22、FCD 350-22L	FCD 400-18、FCD 400-18L	FCD 400-15、FCD 450-10	FCD 500-7、FCD 600-3	本体付き 供試材に よる場合	FCD 700-2、FCD 800-2	FCD 400-18A、FCD 400-18AL		FCD 400-15A、FCD 500-7A		FCD 600-3A
	区分	種類の記号														
	別鋳込み 供試材に よる場合	FCD 350-22、FCD 350-22L														
		FCD 400-18、FCD 400-18L														
		FCD 400-15、FCD 450-10														
FCD 500-7、FCD 600-3																
本体付き 供試材に よる場合	FCD 700-2、FCD 800-2															
	FCD 400-18A、FCD 400-18AL															
	FCD 400-15A、FCD 500-7A															
	FCD 600-3A															
JIS K 6353 「水道用ゴム」改正	昭和57年の規格に国際単位系(SI)を導入し、改正された。															
(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDKA G 1027 「農業用水用ダクタイル 鋳鉄管」改正	平成元年の規格に国際単位系(SI)を導入、機械的性質をJIS G 5526・5527に整合、塗料にJWWA K 139を適用し、改正した。															
JDKA G 1029 「推進工法用ダクタイル 鋳鉄管」改正	平成5年の規格に植込みボルトレスタイプを追加、U形、UF形、US形の呼び径700を削除し、改正した。 〈主な内容〉 <table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>接合形式</th> <th>推進管のタイプ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">250～700</td> <td>T形</td> <td rowspan="2">植込みボルト付きタイプ、 植込みボルトレスタイプ</td> </tr> <tr> <td>U形、US形</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">800～2600</td> <td>UF形</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	接合形式	推進管のタイプ	250～700	T形	植込みボルト付きタイプ、 植込みボルトレスタイプ	U形、US形	800～2600	UF形						
呼び径	接合形式	推進管のタイプ														
250～700	T形	植込みボルト付きタイプ、 植込みボルトレスタイプ														
	U形、US形															
800～2600	UF形															
	JDKA G 1030・1031 「ダクタイル鋳鉄管・ ダクタイル鋳鉄異形管」改正	昭和59年の規格にJIS、JWWA、JSWAS規格に規定されていない異形管及び接合部品を追加し、改正した。 〈主な内容〉 乙字管、空気抜き用ボルトが使用できるT形栓、16K・20K高圧バルブ用仕切弁副管B1号、呼び径100・150SII形二受T字管(枝管の呼び径75)、呼び径150～450改良型のSII形切管用挿し口リングを規定した。														
JDKA G 1037 「呼び径50mmダクタイル 鋳鉄管」改正	平成4年の規格を水道以外の用途にも使用できるよう汎用性のある規格に改正した。 また、栓の形状を空気抜き用ボルトが使用できるように変更した。															

年次	規格	関連事項								
1995年 (平成7年)	(日本ダクタイトイル鉄管協会規格) JDPA G 1038 「うず巻式ダクタイトイル鋳鉄フランジ付きT字管(消火栓用)」改正	平成4年の規格にSⅡ形、呼び径75、枝管の呼び径100を追加し、改正した。 〈主な内容〉 <table border="1"> <thead> <tr> <th>呼び径</th> <th>接合形式</th> <th>枝管の呼び径</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75～350</td> <td>K形、A形、SⅡ形</td> <td rowspan="2">75、100</td> </tr> <tr> <td>75～250</td> <td>T形</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	接合形式	枝管の呼び径	75～350	K形、A形、SⅡ形	75、100	75～250	T形
	呼び径	接合形式	枝管の呼び径							
	75～350	K形、A形、SⅡ形	75、100							
75～250	T形									
JDPA G 1042 「NS形ダクタイトイル鋳鉄管」制定	SⅡ形管と同等の性能〔伸縮量：管長の±1%、離脱阻止力：0.3D(呼び径mm) tonf、許容屈曲角度：4°〕を有し、プッシュオンタイプで継手の接合を容易にした耐地盤変動用の継手が普及するに至り、規格を制定した。 〈主な内容〉 呼び径…75～250 直管の挿し口突部の形成方法…ろう付け又は溶接									
JDPA Z 2002 「ダクタイトイル管継手用滑剤」改正	昭和53年の規格に種類及び溶出性を追加し、改正した。 〈主な内容〉 滑剤の種類…ポリカルボン酸塩系、脂肪酸石鹸系									
1996年 (平成8年)	(日本ダクタイトイル鉄管協会規格) JDPA G 1030・1031 「ダクタイトイル鋳鉄管・ダクタイトイル鋳鉄異形管」改正	平成7年の規格にJIS、JWWA、JSWAS規格に規定されていない異形管及び接合部品を追加し、改正した。 〈主な内容〉 呼び径75～450 SⅡ形5 $\frac{5}{8}$ °曲管、呼び径500～1600 S形切管用挿し口リングを追加した。								
	JDPA G 1042 「NS形ダクタイトイル鋳鉄管」改正	平成7年の規格に直管の挿し口突部の形成方法として管に溝加工を行わない溶接及び異形管に5 $\frac{5}{8}$ °曲管を追加、ライナの塗装をエポキシ樹脂粉体塗装として規定、セットボルトを六角穴付き止めねじに変更し、改正した。								
	JDPA G 1043 「ダクタイトイル鋳鉄製水管橋」制定	T形管の継手部にフランジを設け継手の曲げ剛性を大きくしたF T形とSⅡ形管とを組み合わせることにより長い支間長の水管橋の架設が可能となり、規格を制定した。 〈主な内容〉 呼び径…75～350								
	JDPA Z 2004 「ダクタイトイル鋳鉄管類の表示」改正	JWWA G 114-2、JDPA G 1036・1038・1039・1040・1041・1042規格の制定及びJDPA Z 2011規格の改正に伴い、平成3年の規格を改正とした。 また、P L対策として受口部に接合形式の表示を追加した。								
1997年 (平成9年)	(日本工業規格) JIS K 6353 「水道用ゴム」改正	平成7年の規格のスプリング硬さをデュロメータ硬さに変更、永久伸びを削除、浸出性を水道法施行令第4条の“給水装置の構造及び材質の基準”の明確化・性能基準化に対応して制定された JIS S 3200-7 との整合を図り、改正された。								
	(日本下水道協会規格) JSWAS G-1 「下水道用ダクタイトイル鋳鉄管」改正	社会基盤整備における管路の耐震化の要望に沿って、平成4年の規格に耐震管路に用いられる継手を追加し、改正された。 〈主な内容〉 K F形、U F形、SⅡ形、U S形を追加、管の材料(引張強さ420 N/mm ² 以上)の記号をFCDとして規定、黒鉛球状化率を変更(NIK法の70%以上からISO法の80%以上)した。								
	JSWAS G-2 「下水道推進工法用ダクタイトイル鋳鉄管」改正	平成5年の規格に耐震管路用のU S形を追加、T形、U形の植込みボルトレスタイプを追加、U形、U F形の呼び径700を削除、原管規格の JSWAS G-1 との整合を図り、改正された。								

年次	規格	関連事項																					
1997年 (平成9年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDKA G 1029 「推進工法用ダクタイル鋳鉄管」 改正	U S形の受口部には外装を施さないものとして、平成7年の規格を改正した。																					
	JDKA G 1041 「ダクタイル鋳鉄製貯水槽 (耐震用・緊急用)」改正	平成5年の規格の呼び径2600に公称貯水容量60 m ³ 、型式に緊急遮断弁を直接貯水槽に搭載する集中Ⅱ型及び人孔(枝管)の呼び径700の帽と栓を追加し、改正した。																					
	JDKA G 1042 「NS形ダクタイル鋳鉄管」改正	平成8年の規格の栓の解体が難しいことから帽に変更し、改正した。																					
	JDKA Z 2005 「ダクタイル鋳鉄管用 ポリエチレンスリーブ」改正	平成6年の規格のポリエチレンスリーブの表示例を本文の付図とし、水道用、ガス用以外に用いる呼び径1500の表示の見直し及びゴムバンドの試験方法を変更し、改正した。																					
	JDKA Z 2010 「ダクタイル鋳鉄管 合成樹脂塗装」改正	平成5年の規格の適用範囲にN S形の追加及び異形管の外面に用いる塗装にエポキシ樹脂粉体塗装を追加、継手部に用いる塗料を見直し、改正した。																					
1998年 (平成10年)	(日本工業規格) JIS A 5314 「ダクタイル鋳鉄管 モルタルライニング」改正	ISO 4179との整合を図って、昭和59年の規格が改正された。ただし、ライニングの厚さ、許容ひび割れ幅などは、海外との水質の違いなどから整合されなかった。 〈主な内容〉 厚さ…許容差を削除し、平均最小厚さ及び一点の最小厚さの規定に変更された。 セメントと細骨材の配合比…1:1.5~1:3.5に変更された。 養生…0℃より高い温度とされ、蒸気養生、並びに蒸気及び熱湯浸せき養生が削除された。 浮き及び表示…規定が削除された。																					
	JIS G 5526 「ダクタイル鋳鉄管」改正	ISO 2531との整合を図って、平成元年の規格が改正された。ただし、形状、寸法(外径、管厚など)、継手の種類及び機械的性質の伸びは、普及率、地理的条件(地震国など)などを考慮して整合されなかった。 〈主な内容〉																					
	JIS G 5527 「ダクタイル鋳鉄異形管」改正	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">直管、 異形管</td> <td>接合形式</td> <td>A形削除、呼び径75 SⅡ形追加</td> </tr> <tr> <td>硬さ</td> <td>疑義が生じた場合に測定</td> </tr> <tr> <td>黒鉛球状化率</td> <td>規定を削除</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">直管</td> <td>形状、寸法及びその許容差</td> <td>有効長及び呼び径75~250 K形管の外径(D₂寸法)許容差を変更、質量の許容差を削除、呼び径75~250 T形管の受口部P寸法を変更</td> </tr> <tr> <td>外観</td> <td>真直度の規定値及び測定方法を追加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">異形管</td> <td>試験</td> <td>引張試験にバッチ試験及び工程管理試験を規定し、一組の本数及び試験片の直径を変更、水圧試験に保持時間を追加</td> </tr> <tr> <td>試験</td> <td>質量の許容差を削除、呼び径75~250 K形管の外径(D₂寸法)許容差を変更、T形用継ぎ輪をK形継ぎ輪に変更、うず巻式フランジ付きT字管(消火栓用)を追加</td> </tr> <tr> <td>試験</td> <td>引張試験にバッチ試験及び工程管理試験を規定し、供試材は本体付き又は別鑄込み供試材、最大バッチ及び試験片の直径を変更、水圧試験に保持時間を追加</td> </tr> </tbody> </table>	区分	項目	内容	直管、 異形管	接合形式	A形削除、呼び径75 SⅡ形追加	硬さ	疑義が生じた場合に測定	黒鉛球状化率	規定を削除	直管	形状、寸法及びその許容差	有効長及び呼び径75~250 K形管の外径(D ₂ 寸法)許容差を変更、質量の許容差を削除、呼び径75~250 T形管の受口部P寸法を変更	外観	真直度の規定値及び測定方法を追加	異形管	試験	引張試験にバッチ試験及び工程管理試験を規定し、一組の本数及び試験片の直径を変更、水圧試験に保持時間を追加	試験	質量の許容差を削除、呼び径75~250 K形管の外径(D ₂ 寸法)許容差を変更、T形用継ぎ輪をK形継ぎ輪に変更、うず巻式フランジ付きT字管(消火栓用)を追加	試験
区分	項目	内容																					
直管、 異形管	接合形式	A形削除、呼び径75 SⅡ形追加																					
	硬さ	疑義が生じた場合に測定																					
	黒鉛球状化率	規定を削除																					
直管	形状、寸法及びその許容差	有効長及び呼び径75~250 K形管の外径(D ₂ 寸法)許容差を変更、質量の許容差を削除、呼び径75~250 T形管の受口部P寸法を変更																					
	外観	真直度の規定値及び測定方法を追加																					
異形管	試験	引張試験にバッチ試験及び工程管理試験を規定し、一組の本数及び試験片の直径を変更、水圧試験に保持時間を追加																					
	試験	質量の許容差を削除、呼び径75~250 K形管の外径(D ₂ 寸法)許容差を変更、T形用継ぎ輪をK形継ぎ輪に変更、うず巻式フランジ付きT字管(消火栓用)を追加																					
試験	引張試験にバッチ試験及び工程管理試験を規定し、供試材は本体付き又は別鑄込み供試材、最大バッチ及び試験片の直径を変更、水圧試験に保持時間を追加																						

年次	規格	関連事項																						
1998年 (平成10年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1038 「うず巻式ダクタイル鋳鉄 フランジ付きT字管 (消火栓用)」改正	平成7年の規格にNS形を追加し、改正した。																						
1999年 (平成11年)	(日本水道協会規格) JWWA G 113 「水道用ダクタイル鋳鉄管」 改正	平成10年のJIS G 5526・5527の改正に伴い、ISO 2531との整合を図り、平成4年の規格が改正された。ただし、形状、寸法(外径、管厚など)、継手の種類及び機械的性質の伸びは、普及率、地理的条件(地震国など)などを考慮して整合されなかった。また、黒鉛球状化率及び質量の許容差は、管理項目として重要なことから整合されなかった。 〈主な内容〉																						
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">直管、 異形管</td> <td>接合形式</td> <td>A形削除、呼び径75～250NS形追加</td> </tr> <tr> <td>硬さ</td> <td>疑義が生じた場合に測定</td> </tr> <tr> <td>黒鉛球状化率</td> <td>JIS G 5502の改正に伴い、ISO (ISO 1083)法の80%以上に変更</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">直管</td> <td>形状、寸法及びその許容差</td> <td>有効長及び呼び径75～250K形管の外径(D₂寸法)許容差を変更、呼び径75～250T形管の受口部P寸法を変更</td> </tr> <tr> <td>外観</td> <td>真直度の規定値及び測定方法を追加</td> </tr> <tr> <td>試験</td> <td>引張試験の一组の本数及び試験片の直径を変更、水圧試験に保持時間を追加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">異形管</td> <td>形状、寸法及びその許容差</td> <td>呼び径75～250K形管の外径(D₂寸法)許容差を変更、T形用継ぎ輪をK形継ぎ輪に変更、うず巻式フランジ付きT字管(消火栓用)を追加</td> </tr> <tr> <td>試験</td> <td>引張試験の最大バッチ及び試験片の直径を変更、水圧試験に保持時間を追加</td> </tr> </tbody> </table>	区分	項目	内容	直管、 異形管	接合形式	A形削除、呼び径75～250NS形追加	硬さ	疑義が生じた場合に測定	黒鉛球状化率	JIS G 5502の改正に伴い、ISO (ISO 1083)法の80%以上に変更	直管	形状、寸法及びその許容差	有効長及び呼び径75～250K形管の外径(D ₂ 寸法)許容差を変更、呼び径75～250T形管の受口部P寸法を変更	外観	真直度の規定値及び測定方法を追加	試験	引張試験の一组の本数及び試験片の直径を変更、水圧試験に保持時間を追加	異形管	形状、寸法及びその許容差	呼び径75～250K形管の外径(D ₂ 寸法)許容差を変更、T形用継ぎ輪をK形継ぎ輪に変更、うず巻式フランジ付きT字管(消火栓用)を追加	試験	引張試験の最大バッチ及び試験片の直径を変更、水圧試験に保持時間を追加
	区分	項目	内容																					
	直管、 異形管	接合形式	A形削除、呼び径75～250NS形追加																					
		硬さ	疑義が生じた場合に測定																					
黒鉛球状化率		JIS G 5502の改正に伴い、ISO (ISO 1083)法の80%以上に変更																						
直管	形状、寸法及びその許容差	有効長及び呼び径75～250K形管の外径(D ₂ 寸法)許容差を変更、呼び径75～250T形管の受口部P寸法を変更																						
	外観	真直度の規定値及び測定方法を追加																						
	試験	引張試験の一组の本数及び試験片の直径を変更、水圧試験に保持時間を追加																						
異形管	形状、寸法及びその許容差	呼び径75～250K形管の外径(D ₂ 寸法)許容差を変更、T形用継ぎ輪をK形継ぎ輪に変更、うず巻式フランジ付きT字管(消火栓用)を追加																						
	試験	引張試験の最大バッチ及び試験片の直径を変更、水圧試験に保持時間を追加																						
	JWWA G 114 「水道用ダクタイル鋳鉄異形管」 改正																							
	JWWA G 114-2 「水道用うず巻式ダクタイル 鋳鉄フランジ付きT字管 (消火栓用)」廃止	平成5年の規格が JWWA G 114 に包含され、廃止された。																						
	(日本下水道協会規格) JSWAS G-1 「下水道用ダクタイル鋳鉄管」 改正	平成10年のJIS G 5526・5527及びJIS A 5314の改正に伴い、整合を図って平成9年の規格が改正された。また、NS形が追加された。																						
	JSWAS G-2 「下水道用推進工法用 ダクタイル鋳鉄管」改正	JSWAS G-1 の改正に伴い、整合を図って呼び径250T形管の受口部P寸法及び挿し口部Z'寸法を変更して、平成9年の規格が改正された。																						
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1027 「農業用水用ダクタイル 鋳鉄管」改正	平成10年のJIS G 5526・5527の改正に伴い、整合を図って平成7年の規格を改正した。																						
	JDPA G 1029 「推進工法用ダクタイル 鋳鉄管」改正	平成10年のJIS G 5526並びに JWWA G 113 の改正に伴い、整合を図って呼び径250T形管の受口部P寸法及び挿し口部Z'寸法を変更して、平成7年の規格を改正した。																						

年次	規格	関連事項																
1999年 (平成11年)	JDPA G 1033 「P I形・P II形ダクタイル 鋳鉄管」改正	平成10年のJIS G 5526・5527並びにJWWA G 113・114 の改正に伴い、整合を図って昭和61年の規格を改正した。																
	JDPA G 1037 「呼び径50mmダクタイル 鋳鉄管」改正	平成10年のJIS G 5526・5527並びにJWWA G 113・114 及びJSWAS G-1の改正に伴い、整合を図って平成7年の 規格を改正した。																
	JDPA G 1038 「うず巻式ダクタイル鋳鉄 フランジ付きT字管 (消火栓用)」改正	平成10年のJIS G 5527並びにJWWA G 114の改正に伴 い、整合を図って平成7年の規格を改正した。																
	JDPA G 1041 「ダクタイル鋳鉄製貯水槽 (耐震用・緊急用)」改正	平成10年のJIS G 5526・5527並びにJWWA G 113・114 の改正に伴い、整合を図って平成9年の規格を改正した。 また、帽及び栓の人孔(枝管)の呼び径600を削除した。																
	JDPA G 1042 「N S形ダクタイル鋳鉄管」 改正	平成10年のJIS G 5526・5527並びにJWWA G 113・114 の改正に伴い、整合を図って平成8年の規格を改正した。 また、うず巻式フランジ付きT字管(消火栓用)を追加した。																
	JDPA G 1043 「ダクタイル鋳鉄製水管橋」改正	平成10年のJIS G 5526・5527並びにJWWA G 113・114 の改正に伴い、整合を図って平成8年の規格を改正した。																
JDPA G 1044 「浅層埋設形ダクタイル鋳鉄 フランジ付きT字管 (空気弁用・消火栓用)」 制定	建設省の通達によって、呼び径300以下の管の埋設深さが 60 cmまで浅くできるようになったことから、枝管の高さを できるだけ短くしたフランジ付きT字管の規格を制定した。 (主な内容)																	
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">呼 び 径</th> <th rowspan="2">接合形式</th> <th colspan="2">枝 管</th> </tr> <tr> <th>呼び径</th> <th>フランジ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75～300</td> <td>K形</td> <td rowspan="2">75</td> <td rowspan="2">7.5K</td> </tr> <tr> <td>75～250</td> <td>T形、N S形</td> </tr> </tbody> </table>	呼 び 径	接合形式	枝 管		呼び径	フランジ	75～300	K形	75	7.5K	75～250	T形、N S形				
呼 び 径	接合形式	枝 管																
		呼び径	フランジ															
75～300	K形	75	7.5K															
75～250	T形、N S形																	
2000年 (平成12年)	(日本水道協会規格) JWWA A 113 「水道用ダクタイル鋳鉄管 モルタルライニング」制定	水道法に基づく水道施設の技術的基準を定める省令の公布 に伴い、JIS A 5314の規定内容に衛生性の規定を追加し、 制定された。 (主な内容) シールコートの浸出性及び管内水のpH値の増加量が規定さ れた。																
	JWWA G 113 「水道用ダクタイル鋳鉄管」 改正	水道法に基づく水道施設の技術的基準を定める省令の公布 に伴い、平成11年の規格が改正された。 (主な内容) 直管、異形管及び接合部品の浸出性の追加、N S形・S II形・ S形・U S形直管の挿し口突部の性能規定への変更、呼び 径500～1200 S形受口部・挿し口部の寸法許容差の変更並 びに浅層埋設形ダクタイル鋳鉄フランジ付きT字管(空気弁 用・消火栓用)が追加された。																
	JWWA G 114 「水道用ダクタイル鋳鉄異形管」 改正	浅層埋設形ダクタイル鋳鉄フランジ付きT字管(空気弁用・消火栓用)																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">呼び径</th> <th rowspan="2">接合形式</th> <th colspan="2">枝 管</th> </tr> <tr> <th>呼び径</th> <th>フランジ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75～300</td> <td>K形</td> <td>75、100</td> <td rowspan="3">7.5K</td> </tr> <tr> <td>75～250</td> <td>T形</td> <td>75</td> </tr> <tr> <td>75～250</td> <td>N S形</td> <td>75、100</td> </tr> </tbody> </table>	呼び径	接合形式	枝 管		呼び径	フランジ	75～300	K形	75、100	7.5K	75～250	T形	75	75～250	N S形	75、100
呼び径	接合形式	枝 管																
		呼び径	フランジ															
75～300	K形	75、100	7.5K															
75～250	T形	75																
75～250	N S形	75、100																

年次	規格	関連事項
2000年 (平成12年)	(日本水道協会規格) JWWA K 135 「水道用液状エポキシ樹脂塗料 塗装方法」改正	水道法に基づく水道施設の技術的基準を定める省令の公布に伴い、平成元年の規格が改正された。
	JWWA Z 108 「水道用資機材－浸出試験方法」 制定	水道法に基づく水道施設の技術的基準を定める省令の公布に伴い、省令の適用を受ける水道用資機材の統一的な浸出試験方法及び浸出液の分析方法規格として制定された。
	JWWA Z 110 「水道用資機材－ 浸出液の分析方法」制定	
	(日本下水道協会規格) JSWAS G-1 「下水道用ダクタイト管」 一部改正	呼び径500～1200 S形受口部・挿し口部の寸法許容差を変更し、平成11年の規格が一部改正された。
	(日本ダクタイト管協会規格) JDPA G 1030・1031 「ダクタイト管・ダクタイト 管異形管」改正	JWWA A 113、JWWA G 113及びJSWAS G-1の制定・改正に伴い、整合を図って平成8年の規格を改正した。
	JDPA Z 2002 「ダクタイト管継手用滑剤」 改正	水道法に基づく水道施設の技術的基準を定める省令の公布に伴い、整合を図って平成7年の規格を改正した。
	JDPA Z 2004 「ダクタイト管類の表示」 改正	JIS、JWWA、JSWAS、JDPA規格の制定・改正に伴い、管類の見直しを行って平成8年の規格を改正した。 また、呼び径75～250 T形直管の受口P寸法の変更に伴い、挿し口白線表示位置を変更した。
	JDPA Z 2005 「ダクタイト管 ポリエチレンスリーブ」改正	引用JISの廃止に伴い、対応するJISに変更し、平成9年の規格を改正した。
	JDPA G 1025 「下水道用ダクタイト管」 廃止	昭和59年の規格を廃止した。
	JDPA G 1026 「下水道用ダクタイト 管継手」廃止	
	JDPA G 1034 「U形ダクタイト管」 廃止	
	JDPA G 1035 「下水道推進工法用 ダクタイト管」廃止	
	JDPA G 1036 「下水道推進工法用 G形ダクタイト管」 廃止	平成3年の規格を廃止した。
	JDPA G 1038 「うず巻式ダクタイト管 フランジ付きT字管 (消火栓用)」廃止	平成11年の規格がJWWA G 114となり、廃止した。

年次	規格	関連事項
2000年 (平成12年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDKPA G 1044 「浅層埋設形ダクタイル鋳鉄 フランジ付きT字管 (空気弁用・消火栓用)」廃止	平成11年の規格がJWWA G 114となり、廃止した。
	JDKPA Z 2013 「ダクタイル鋳鉄異形管 モルタルライニング」廃止	内面エポキシ樹脂粉体塗装及び液状エポキシ樹脂塗装の普及に伴い、昭和63年の規格を廃止した。
2001年 (平成13年)	(日本工業規格) JIS G 5502 「球状黒鉛鋳鉄品」改正	平成7年の規格が改正された。 〈主な内容〉 黒鉛球状化率算出の黒鉛及び介在物の大きさが変更された。
	(日本水道協会規格) JWWA G 113 「水道用ダクタイル鋳鉄管」 一部修正	SⅡ形バックアップリングの物性及び試験方法が変更され、平成12年の規格が一部修正された。
	JWWA G 114 「水道用ダクタイル鋳鉄異形管」 一部修正	
	(日本下水道協会規格) JSWAS G-1 「下水道用ダクタイル鋳鉄管」 一部改正	SⅡ形バックアップリングの物性及び試験方法、並びにNS形切管用挿し口リング及びロックリング心出し用ゴムの形状、寸法、質量が変更され、平成11年の規格が一部改正された。
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDKPA G 1033 「PⅠ形・PⅡ形ダクタイル 鋳鉄管」改正	JWWA G 113・114の改正に伴い、整合を図って平成11年の規格を改正した。
	JDKPA G 1037 「呼び径50ダクタイル鋳鉄管」 改正	
	JDKPA G 1041 「ダクタイル鋳鉄製貯水槽 (耐震用・緊急用)」改正	JWWA G 113・114及び二次飲料水兼用耐震性貯水槽の改正に伴い、整合を図って公称貯水容量40 m ³ を追加し、平成11年の規格を改正した。
	JDKPA G 1042 「NS形ダクタイル鋳鉄管」改正	JWWA G 113・114の改正に伴い、整合を図って平成11年の規格を改正した。
	JDKPA G 1043 「ダクタイル鋳鉄製水管橋」改正	
	JDKPA Z 2005 「ダクタイル鋳鉄管用 ポリエチレンスリーブ」改正	ポリエチレンスリーブの強度及び施工性の向上を図って材料を変更及び継手部用固定ネットを追加し、平成12年の規格を改正した。
JDKPA Z 2010 「ダクタイル鋳鉄管 合成樹脂塗装」改正	水道法に基づく水道施設の技術的基準を定める省令との整合及び管の受口内面の塗装仕様を見直し、平成9年の規格を改正した。	
JDKPA Z 2011 「ダクタイル鋳鉄異形管内面 液状エポキシ樹脂塗装」改正	水道法に基づく水道施設の技術的基準を定める省令との整合を図って、平成3年の規格を改正した。	

年次	規格	関連事項
2002年 (平成14年)	(日本水道協会規格) JWWA G 112 「水道用ダクタイル鋳鉄管 内面エポキシ樹脂粉体塗装」 改正	水道法に基づく水道施設の技術的基準を定める省令との整合を図って、昭和55年の規格が改正された。 〈主な内容〉 塗料の試験規格が JIS K 5600 シリーズに変更された。 また、浸出試験は JWWA Z 108 、検水の分析は JWWA Z 110 の附属書及び新たに規定した 附属書1(規定) 、 附属書2(規定) によって行うように変更された。
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の 表示(追補1)」改正	JDPA Z 2005 の改正に伴い、ポリエチレンスリーブの表示方法を見直し、平成12年の規格を改正した。
	JDPA Z 2009 「ダクタイル鋳鉄管 外面特殊塗装」改正	環境面から鉛系塗料及び性能面から塩化ゴム系塗料を削除、現地塗装にアクリルNAD系艶有塗料を追加し、平成4年の規格を改正した。
	JDPA Z 2015 「水道用ダクタイル鋳鉄管 モルタルライニングー シールコート」制定	水道法に基づく水道施設の技術的基準を定める省令に整合させて JWWA A 113 が制定されたこと及びISOによってシールコートの塗膜の品質について規格化が進められていることから、シールコートの品質の規格を制定した。
2003年 (平成15年)	(日本水道協会規格) JWWA G 113 「水道用ダクタイル鋳鉄管」 一部修正	接合部品I類(ライナ以外)にエポキシ樹脂粉体塗装を行う場合が追加され、平成13年の規格が一部修正された。
	JWWA G 114 「水道用ダクタイル鋳鉄異形管」 一部修正	
	JWWA K 156 「水道施設用ゴム材料」制定	JIS K 6353 (水道用ゴム)の浸出性は、給水装置の構造及び材質の基準に関する省令が適用されているため、水道施設用として適合しないおそれがあることから、水道施設の技術的基準を定める省令を適用する規格が制定された。
	(日本下水道協会規格) JSWAS G-1 「下水道用ダクタイル鋳鉄管」 改正	開削工法用に短い管長のG S形管を追加、N S形、S II形、S形、U S形直管の挿し口突部の性能規定への変更、ダクタイル鋳鉄管関連 JIS との整合、ねじ及び塗料関係 JIS の廃止に伴う対応 JIS への置き換えなどで、平成11年の規格が改正された。
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1042 「N S形ダクタイル鋳鉄管 (追補1)」改正	関連 JIS の廃止に伴う対応 JIS への置き換え、 JWWA K 156 の制定及び JWWA G 113・114 の一部改正に伴う整合、切管用挿し口リング[タッピンねじタイプ]を追加し、平成13年の規格を改正した。
	JDPA Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の表示」 改正	(社)日本水道協会の「検査工場の協力工場に関する取り扱い要領」の改正に伴う委託、受託表示の明確化、管内作業軽減への対応に伴う呼び径700 K形、S形管の挿し口部白線表示の追加及び JDPA G 1042 の改正に伴うN S形切管用挿し口リング[タッピンねじタイプ]の追加などで、平成14年の規格を改正した。
JDPA Z 2010 「ダクタイル鋳鉄管 合成樹脂塗装」改正	塗料の組成に環境調和型の材料を追加、塗料関係の JIS の廃止に伴う対応 JIS への置き換え、浸出試験方法を変更し、平成13年の規格を改正した。	
JDPA Z 2016 「ダクタイル鋳鉄管内面 エポキシ樹脂粉体塗装」制定	直管及び異形管の内面に塗装する環境調和型のビスフェノールFから成るエポキシ樹脂に限定したエポキシ樹脂粉体塗装の規格を制定した。	

年次	規格	関連事項
2004年 (平成16年)	(日本水道協会規格) JWWA A 113 「水道用ダクタイル鋳鉄管 モルタルライニング」改正	厚生労働省令の一部改正に伴い、浸出項目、浸出基準及び浸出試験方法を変更し、平成12年の規格が改正された。
	JWWA G 112 「水道用ダクタイル鋳鉄管 内面エポキシ樹脂粉体塗装」 改正	厚生労働省令の一部改正に伴い、浸出項目、浸出基準及び浸出試験方法を変更し、平成14年の規格が改正された。
	JWWA G 113 「水道用ダクタイル鋳鉄管」 改正	厚生労働省令の一部改正、 JWWA G 112 の改正、 JWWA K 156 の制定に伴い、整合を図って平成15年の規格が改正された。 〈主な内容〉 厚生労働省令の一部改正、 JWWA G 112 の改正及び JWWA K 156 の制定との整合、呼び径1600以上の中間管種(1.5種管、2.5種管、3.5種管、4.5種管)の削除、SⅡ形、S形及びU形長尺継ぎ輪の削除、NS形切管用挿し口リング〔リベットタイプ〕の形状、寸法の変更、NS形切管用挿し口リング〔タッピンねじタイプ〕の追加、接合部品の材料の統合〔ダクタイル鋳鉄材料はFCD(420-10)、ステンレス材料は原則SUS304〕、管の内面に使用する軟鋼材料(SS400)のSUS304への変更、ゴム輪の接合形式の表示を使用できる全ての接合形式に変更された。
	JWWA G 114 「水道用ダクタイル鋳鉄異形管」 改正	
	JWWA K 135 「水道用液状エポキシ樹脂塗料 塗装方法」改正	厚生労働省令の一部改正に伴い、浸出項目、浸出基準及び浸出試験方法を変更し、平成12年の規格が改正された。
	JWWA K 156 「水道施設用ゴム材料」改正	厚生労働省令の一部改正に伴い、浸出項目、浸出基準及び浸出試験方法を変更し、平成15年の規格が改正された。
	JWWA K 157 「水道用無溶剤形エポキシ樹脂塗料 塗装方法」制定	JWWA K 135 に比べて溶剤臭がなく、作業環境への影響が少ない無溶剤形エポキシ樹脂塗料が開発され、塗料及び塗装方法の規格として制定された。 〈主な内容〉 溶剤を含まないエポキシ樹脂塗料で、その組成の原料が規定された。
	JWWA Z 108 「水道用資機材－浸出試験方法」 改正	厚生労働省令の一部改正に伴い、浸出試験方法及び浸出液の分析方法を変更し、平成12年の規格が改正された。
	JWWA Z 110 「水道用資機材－ 浸出液の分析方法」改正	
		(日本下水道協会規格) JSWAS G-1 「下水道用ダクタイル鋳鉄管」 一部改正
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1027 「農業用水用ダクタイル鋳鉄管」 改正	管の許容差の見直し、関連JISの改正に伴う規定内容の整合及び管種を追加し、平成11年の規格を改正した。 〈主な内容〉 呼び径700以上の管外径(D ₂ 寸法)許容差及びT形管受口部外径(D ₅ 寸法)許容差の変更並びに呼び径800～2000K形管に農D種管(DD)を追加した。
	JDPA G 1029 「推進工法用ダクタイル鋳鉄管」 改正	植込みボルトタイプ及び中間管種(1.5種管、2.5種管、3.5種管、4.5種管)を削除し、平成11年の規格を改正した。

年次	規格	関連事項
2004年 (平成16年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1042 「NS形ダクタイル鋳鉄管」 改正	呼び径300~450を追加、管の継手性能を規定、軽量T頭ボルト・ナットを追加、JWWA G 113・114の改正に伴う整合などで、平成15年の規格を改正した。
	JDPA G 1043 「ダクタイル鋳鉄製 FT形水管橋」改正	FT形管とNS形管を組合せた水管橋の採用が増加したことから、FT-NS形水管橋を追加するなど、平成13年の規格を改正した。
	JDPA G 1045 「農業用水用(低圧用) KL形ダクタイル鋳鉄管」制定	大口径の需要動向の変化に伴い、管の設計内圧を0.5 MPa以下とした低圧管路用のKL形管の規格を制定した。
	JDPA Z 2017 「ダクタイル鋳鉄管用 切管端面防食材料」制定	防食ゴムによって直管の切管端面を防食する方法が開発されたことから、従来から行っている塗料による防食を含めて現地切管部の防食材料の規格を制定した。
2005年 (平成17年)	(日本水道協会規格) JWWA G 113 「水道用ダクタイル鋳鉄管」 一部改正	施工性を改善するために、NS形ゴム輪の物性の7.0 MPa荷重時の伸びを削除並びにNS形切管用挿し口リング(タッピンねじタイプ)の形状をR面取り形状からテーパ面取り形状に変更し、平成16年の規格が一部改正された。
	JWWA G 114 「水道用ダクタイル 鋳鉄異形管」一部改正	
	JWWA K 158 「水道用ダクタイル鋳鉄管用 ポリエチレンスリーブ」制定	
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1040 「ダクタイル鋳鉄管用ステンレス 鋼製ボルト・ナット(追補1)」 改正	ねじのJISの廃止に伴う移行JISへの置き換え、JWWA G 113・114の附属書1との整合を図って材料・試験方法を変更並びにNS形軽量T頭ボルト・ナット、SⅡ形及びFT形T頭ボルト・もどり止めナット及びフランジ形両ねじボルト・ナットを追加し、平成6年の規格を改正した。
	JDPA G 1041 「ダクタイル鋳鉄製貯水槽 (耐震用・緊急用)(追補1)」 改正	厚生労働省令の一部改正に伴い、浸出項目、浸出基準の変更、ねじのJISの廃止に伴う移行JISへの置き換え、JWWA G 113・114の附属書1との整合を図って材料及び試験方法を変更するなど、平成13年の規格を改正した。
	JDPA G 1042 「NS形ダクタイル鋳鉄管」 改正	呼び径500~1000及び浅層埋設形フランジ付きT字管を追加し、平成16年の規格を改正した。
	JDPA G 1046 「PN形ダクタイル鋳鉄管」 制定	NS形管やS形管と同等の離脱防止力を有するパイプ・イン・パイプ工法用のPN形管が開発されたことから、規格を制定した。 なお、離脱防止力を確保するために、ロックリングは、管の外面から挿入する構造とした。
	JDPA Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の表示 (追補1)」改正	JWWA G 113・114の改正に伴う接合部品の表示の変更、JDPA G 1029・1042、Z 2017の制定、改正に伴う追加及び削除を行い、平成15年の規格を改正した。
	JDPA Z 2010 「ダクタイル鋳鉄管 合成樹脂塗装」改正	厚生労働省令の一部改正に伴い、浸出項目、浸出基準及び浸出試験方法の変更、エポキシ樹脂粉体塗料にJDPA Z 2016の組成を追加し、平成15年の規格を改正した。

年次	規格	関連事項
2005年 (平成17年)	(日本ダクタイル鉄管協会) JDPA Z 2011 「ダクタイル鋳鉄異形管内面 液状エポキシ樹脂塗装」改正	厚生労働省令の一部改正に伴い、浸出項目、浸出基準の変更並びに塗料の物性試験のJIS廃止に伴う移行JISへの置き換え、塗料の組成に環境調和型のビスフェノールFを追加などで、平成13年の規格を改正した。
	JDPA Z 2015 「ダクタイル鋳鉄管 モルタルライニング ーシールコート」改正	厚生労働省令の一部改正に伴い、浸出項目、浸出基準の変更などを行い、平成14年の規格を改正した。
	JDPA Z 2016 「ダクタイル鋳鉄管内面 エポキシ樹脂粉体塗装」改正	厚生労働省令の一部改正に伴い、浸出項目、浸出基準の変更などを行い、平成15年の規格を改正した。
	JDPA G 1032 「フランジ形ダクタイル 鋳鉄直管」廃止	昭和59年の規格を廃止した。
	JDPA G 1037 「呼び径50 T形ダクタイル 鋳鉄管」廃止	平成13年の規格を廃止した。
	JDPA G 1039 「ボール式ダクタイル鋳鉄 可とう管ユニット」廃止	平成5年の規格を廃止した。
2006年 (平成18年)	(日本工業規格) JIS G 5528 「ダクタイル鋳鉄管内面エポキシ 樹脂粉体塗装(追補1)」 改正	溶解試験に用いる石綿付金網を削除し、昭和59年の規格が改正された。
	JIS K 6353 「水道用ゴム(追補1)」改正	関連JISの改正に伴い、整合を図って平成9年の規格が改正された。
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1030 「ダクタイル鋳鉄管」改正	管及び異種継手管の種類追加及び削除、並びに利用者の便を図って JDPA G 1031 との分冊を行い、平成12年の規格を改正した。
	JDPA G 1031 「ダクタイル鋳鉄異形管」改正	管の種類の見直し並びに利用者の便を図って JDPA G 1030 との分冊を行い、平成12年の規格を改正した。
	JDPA G 1042 「N S形ダクタイル鋳鉄管」 改正	継手部の寸法を主要寸法に限定すると共に継手性能の規定を強化、呼び径500～1000の施工性の向上を図って接合部品を変更、 JWWA G 113・114 の一部改正との整合を行い、平成17年の規格を改正した。 〈主な内容〉 継手部の寸法を JIS G 5526・5527 に準じて主要寸法に限定、継手性能の規定を強化、呼び径75～250×45°・22½°両受曲管を追加、呼び径500～1000ライナ固定用部品を心出し用ゴムから樹脂ボルトに変更、バックアップリングの材質、形状、寸法を変更、一部改正された JWWA G 113・114 との整合を図った。
	JDPA G 1047 「N S形防食ゴム付き 切管用挿し口リング」制定 JDPA Z 2017 「ダクタイル鋳鉄管用 切管端面防食材料」改正	内面エポキシ樹脂粉体塗装のN S形管の切管部に挿し口突部を形成すると共に露出した鉄部を防食するための防食ゴム付き切管用挿し口リングが開発されたことから、規格を制定した。 呼び径75～250 N S形防食ゴム〔タッピンねじタイプ(粉体管用)〕は、 JDPA G 1047 として新たに制定したことから削除し、平成16年の規格を改正した。

年次	規格	関連事項
2007年 (平成19年)	(日本工業規格) JIS G 5502 「球状黒鉛鋳鉄品(追補1)」改正	衝撃試験の試験片をVノッチ試験片に置き換えなどで、平成13年の規格が改正された。
	(日本水道協会規格) JWWA K 135 「水道用液状エポキシ樹脂塗料塗装方法」一部改正	適用範囲、物性試験方法の変更、JWWA K 157との整合などで、平成16年の規格が改正された。 〈主な内容〉 適用範囲…水道施設用とし、鋼製又はダクタイル鋳鉄製の震災対策貯水槽を追加、鋼製水槽が削除された。 塗料の組成…使用するすべての原材料が規定された。 浸出項目…ホルムアルデヒド、トルエン及びキシレンが追加された。 塗料の試験方法…JIS K 5400からJIS K 5600規格群に変更された。
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDKA G 1033 「PⅡ形ダクタイル鋳鉄管」改正	継手部の寸法を主要寸法に限定すると共に継手性能の規定を追加、溶接リング、フランジ・リップ付き管を追加、PⅠ形管を削除するなど、平成13年の規格を改正した。
	JDKA G 1046 「PⅢ形ダクタイル鋳鉄管」改正	継手寸法を主要寸法に限定すると共に継手性能の規定を強化するなど、平成17年の規格を改正した。
	JDKA G 1048 「UⅢ形ダクタイル鋳鉄管(LⅢ方式)」制定	UⅢ形管に新たにLⅢ方式が開発、実用化されたことから規格を制定した。
	JDKA Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の表示」改正	JDKA G 1047の制定、JWWA G 114、K 156、JSWAS G-2、JDKA G 1042・1046の改正及びJDKA G 1032・1037・1039の廃止に伴う見直しなどで、平成17年の規格を改正した。
	JDKA Z 2010 「ダクタイル鋳鉄管合成樹脂塗料」改正	塗膜の養生の規定を追加、異形管の外面向への亜鉛系プライマの適用を追加するなど、平成17年の規格を改正した。
2008年 (平成20年)	(日本水道協会規格) JWWA K 139 「水道用ダクタイル鋳鉄管合成樹脂塗料」改正	厚生労働省令との整合、浸出性及び浸出試験方法を規定するなど、平成4年の規格が改正された。 〈主な内容〉 適用範囲…ダクタイル鋳鉄異形管の内面への適用が削除された。 塗料の組成…使用するすべての原材料が規定された。 浸出項目…トルエン及びキシレンが追加された。 塗料の試験方法…JIS K 5400からJIS K 5600規格群に変更された。
	JWWA K 157 「水道用無溶剤形エポキシ樹脂塗料塗装方法」改正	適用範囲を変更するなど、平成16年の規格が改正された。 〈主な内容〉 適用範囲…水道施設用とし、ダクタイル鋳鉄管、鋼製水槽、鋼製又はダクタイル鋳鉄製の震災対策貯水槽が追加された。
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDKA G 1029 「推進工法用ダクタイル鋳鉄管」改正	原管にUⅢ形ダクタイル鋳鉄管(LⅢ方式)、外装コンクリートに不織布を巻いて塗料を含浸してもよいことを追加し、平成16年の規格を改正した。

年次	規格	関連事項
2008年 (平成20年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1041 「ダクタイル鋳鉄製貯水槽(耐震用・緊急用)」改正	U F 形及びL U F 形の継手部の寸法を主要寸法に限定すると共に継手性能の規定を追加、集中 I 型及び集中 II 型貯水槽の槽内流入管・槽内流出管に用いる硬質ポリ塩化ビニル管の材質規格を見直すなどで、平成17年の規格を改正した。
	JDPA G 1042 「N S 形ダクタイル鋳鉄管(追補1)」改正	呼び径75~250の施工性の向上を図って、新たな形状のゴム輪を追加するなど、平成18年の規格を改正した。
	JDPA Z 2005 「ダクタイル鋳鉄管用ポリエチレンスリーブ」廃止	平成13年の規格がJWWA規格となり、廃止した。
2009年 (平成21年)	(日本工業規格) JIS K 6353 「水道用ゴム(追補2)」改正	引用規格の改正に伴い、平成18年の規格が改正された。
	(日本水道協会規格) JWWA K 156 「水道施設用ゴム材料」一部改正	厚生労働省令が一部改正されたことに伴い、平成16年の規格が一部改正された。 〈主な内容〉 1,1-ジクロロエチレンが削除され、シス-1,2-ジクロロエチレン及びトランス-1,2-ジクロロエチレンとして規定された。
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の表示(追補1)」改正	日本水道協会検査への対応、接合部品及び塗装の表示を追加し、平成19年の規格を改正した。 〈主な内容〉 検査証印…日本水道協会の検査前表示を規定した。 接合部品…N S 形ゴム輪(タイプII)、U S 形(L S 方式)のロックリング絞り用ゴムの表示を追加した。 塗装…無溶剤形エポキシ樹脂塗装の表示を追加した。
	JDPA Z 2010 「ダクタイル鋳鉄管合成樹脂塗料」改正	JWWA K 139 との整合を図り、塗料の組成、品質、試験方法を見直すなどで、平成19年の規格を改正した。
	JDPA Z 2011 「ダクタイル鋳鉄異形管内面液状エポキシ樹脂塗装」改正	JWWA K 135 との整合、 JWWA K 157 の無溶剤形エポキシ樹脂塗料を追加するなど、平成17年の規格を改正した。
	JDPA G 1045 「農業用水用(低圧用) K L 形ダクタイル鋳鉄管」廃止	平成16年の規格を廃止した。
2010年 (平成22年)	(日本工業規格) JIS K 6353 「水道用ゴム(追補3)」改正	浸出項目及び基準を変更し、平成21年の規格が改正された。
	(日本水道協会規格) JWWA A 113 「水道用ダクタイル鋳鉄管モルタルライニング」改正	水道用塗料規格との整合を図り、平成16年の規格が改正された。 〈主な内容〉 浸出試験…シーラートを塗装したモルタルライニングの浸出性及び浸出試験が規定された。 浸出項目…トルエン、キシレン、pH増加量が規定された。 混和材料…配合比率が規定された。

年次	規格	関連事項
2010年 (平成22年)	(日本水道協会規格) JWWA G 113 「水道用ダクタイル鋳鉄管」 改正	継手の性能規定化、管種の見直し、水道用塗料規格との整合などで、平成17年の規格が改正された。 〈主な内容〉 性能規定化…継手性能が規定された。 管種…U S形管(L S方式)、呼び径300~450のN S形管、呼び径75~250のN S形ゴム輪(タイプⅡ)が追加、P I形管、呼び径75~250のSⅡ形、呼び径700のU・U F・U S形管及び呼び径700以上のR F形-R F形フランジの異形管が削除された。
	JWWA G 114 「水道用ダクタイル鋳鉄異形管」改正	浸出試験…エポキシ樹脂粉体塗装品と無溶剤形エポキシ樹脂塗装品については、コンディショニングしないことが規定された。 内面塗装…内面塗装からJWWA K 139の合成樹脂塗装が削除された。また、ダクタイル鋳鉄異形管の内面塗装としてJWWA K 157の無溶剤形エポキシ樹脂塗装が追加された。
	JWWA K 156 「水道施設用ゴム材料」一部改正	厚生労働省令が一部改正されたことに伴い、平成21年の規格が一部改正された。 〈主な内容〉 1,1,2-トリクロロエタンが削除され、カドミウム及びその化合物の基準値が変更された。
	JWWA K 157 「水道用無溶剤形エポキシ樹脂塗料塗装方法」改正	適用範囲に水道施設用のバルブ類を追加、現場溶接部の手塗り塗装について規定するなど、平成20年の規格が改正された。
	JWWA Z 101 「水道用ダクタイル鋳鉄管類の表示方法」廃止	管材料として必要な表示内容はJWWA G 113・114に規定されており、表示の詳細は実態としてJCPA Z 2004によって運用されているため、昭和57年の規格が廃止された。
	(日本下水道協会規格) JSWAS G-1 「下水道用ダクタイル鋳鉄管」 改正	JIS改正に伴い、管の硬さの単位の変更、管種の見直しなどで、平成16年の規格が改正された。 〈主な内容〉 管の硬さの単位…H BからH B Wに変更された。 管種…呼び径300~450 N S形管、U S形管(L S方式)が追加、呼び径75~250 SⅡ形管、呼び径700のU形管、U F形管、U S形管(内面継手管)、G S形管が削除された。
	JSWAS G-2 「下水道推進工法用ダクタイル鋳鉄管」 改正	推進機械の進歩や曲線推進の増加に伴い、管種の見直しなどで、平成11年の規格が改正された。 〈主な内容〉 管種…従来のⅠ類の植込みボルトタイプの推進管及びⅡ類のG S形及びG S S形推進管が削除された。 外装コンクリート…不織布巻きが追加された。
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JCPA G 1029 「推進工法用ダクタイル鋳鉄管(追補1)」改正	JSWAS G-2との整合などで、平成20年の規格を改正した。 〈主な内容〉 外装コンクリート…表示の成形年月日を成形年月に変更した。また、外装コンクリートの圧縮強度検査の頻度を1日ごとから一定期間ごとに変更した。
	JCPA G 1041 「ダクタイル鋳鉄製貯水槽(耐震用・緊急用)(追補1)」改正	塗装の見直しなどで、平成20年の規格を改正した。 〈主な内容〉 内面塗装…帽及び栓の内面塗装に無溶剤形エポキシ樹脂塗装及びエポキシ樹脂粉体塗装を追加した。

年次	規格	関連事項
2010年 (平成22年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1049 「G X形ダクタイル鋳鉄管」制定	耐地盤変動用の管として、N S形管と同等の性能を有し、施工性の向上及び長寿命化を図り、さらに経済的な対応ができるG X形ダクタイル鋳鉄管を開発、実用化したことから制定した。 〈主な内容〉 呼び径…75～250 性能…伸縮量：管長の±1%、 離脱防止力：3D kN(Dは呼び径mm)、 許容屈曲角度：4° 外面塗装…外面耐食塗装
	JDPA Z 2002 「ダクタイル管継手用滑剤」改正	一部改正された厚生労働省令との整合、試験方法規格の変更などで、平成12年の規格を改正した。 〈主な内容〉 試験方法規格…JIS K 5400からJIS K 5600規格群に変更した。
	JDPA Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の表示(追補2)」改正	異形管の表示の追加、JDPA G 1029及びJSWAS G-2との整合を図るなどで、平成21年の規格を改正した。 〈主な内容〉 異形管の表示…呼び径75～250×45° N S形両受曲管への片側表示を追加した。 外装コンクリート…成形年月日を成形年月に変更した。
	JDPA Z 2004-2 「G X形ダクタイル鋳鉄管の表示」制定	JDPA G 1049のG X形ダクタイル鋳鉄管に行う表示を規定して制定した。
2011年 (平成23年)	(日本工業規格) JIS K 6353 「水道用ゴム(追補4)」改正	浸出項目及び基準の変更で、平成22年の規格が改正された。
	(日本水道協会規格) JWWA K 156 「水道施設用ゴム材料」一部改正	厚生労働省令が一部改正されたことに伴い、平成22年の規格が一部改正された。 〈主な内容〉 トリクロロエチレンの基準値が変更された。
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1027 「農業用水用ダクタイル鋳鉄管」改正	JWWA G 113・114との整合などで、平成16年の規格を改正した。
	JDPA G 1030 「ダクタイル鋳鉄管」改正	管種の見直しなどで、平成18年の規格を改正した。 〈主な内容〉 管種…呼び径1350・1600～2600のU F形直管及び挿し口がU F形の異種継手管の1種管を追加した。また、S II形異種継手管を削除した。
	JDPA G 1031 「ダクタイル鋳鉄異形管」改正	管種の見直しなどで、平成18年の規格を改正した。 〈主な内容〉 管種…呼び径75～350のN S形異形管を追加した。また、R F形-R F形フランジの呼び径700～1500の異形管を削除した。

年次	規格	関連事項
2011年 (平成23年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1040 「ダクタイル鋳鉄管用ステンレス鋼製ボルト・ナット」改正	ボルト・ナットの追加、削除などで、平成17年の規格を改正した。 〈主な内容〉 追加…SUS316系ボルト・ナットを追加した。 削除… JWWA G 113・114 及び JSWAS G-1 に規定されたSUS304系ボルト・ナットを削除した。また、採用実績がなくなったSUS403のボルト・ナットを削除した。
	JDPA G 1043 「ダクタイル鋳鉄製F T形水管橋」改正	F T-S II形水管橋を削除、F T形T頭ボルト・もどり止めナットに焼き付き防止処理の品質を規定するなど、平成16年の規格を改正した。
	JDPA G 1049 「G X形ダクタイル鋳鉄管(追補1)」改正	ソフトシール仕切弁を追加、ロックリングホルダの物性値を変更し、平成22年の規格を改正した。
	JDPA G 1050 「U S形切管用挿し口リング」制定	施工現場で切管したダクタイル鋳鉄管の挿し口にU S形突部を形成することができる切管用挿し口リングを開発、実用化したことから制定した。 〈主な内容〉 呼び径…呼び径800~1800 離脱防止力…3D kN (Dは呼び径 mm)
	JDPA Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の表示(追補3)」改正	接合部品を追加、接合形式及び材質表記を見直すなどで、平成22年の規格を改正した。 〈主な内容〉 接合部品…U S形切管用挿し口リング及びG X形切管端面防食ゴムを追加した。 接合形式…接合部品I類、接合部品III類、接合部品IV類の接合形式を見直した。 材質表記…ステンレス製品の材質表記を見直した。 表示方法…呼び径400及び450のN S形及びS II形押輪に平面表示を追加した。
	JDPA Z 2004-2 「G X形ダクタイル鋳鉄管の表示(追補1)」改正	ソフトシール仕切弁を追加し、平成22年の規格を改正した。
	JDPA Z 2009 「ダクタイル鋳鉄管外面特殊塗装」改正	G X形管及び呼び径300以上のN S形管を適用範囲に追加、種類C C及び種類D Dの3次塗装にエポキシ樹脂塗料を追加し、平成14年の規格を改正した。
2012年 (平成24年)	JDPA Z 2017 「ダクタイル鋳鉄管用切管端面防食材料」改正	切管端面に用いる防食ゴムの追加、削除などで、平成18年の規格を改正した。 〈主な内容〉 追加…エポキシ樹脂粉体塗装管の切管端面に用いる呼び径75~250のG X形防食ゴムを開発・実用化したことから追加した。 削除…採用実績のないモルタルライニング管の切管端面に用いる呼び径75~250のN S形防食ゴム〔タッピンねじタイプ〕を削除した。
	(日本水道協会規格) JWWA Z 108 「水道用資機材の浸出試験方法」改正	関連省令及び告示の改正に伴い、浸出基準及び試験方法の整合を図って、平成16年の規格が改正された。
	—	(社)日本下水道協会が(公社)日本下水道協会に移行された。

年次	規格	関連事項
2012年 (平成24年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1042 「N S形ダクタイル鋳鉄管 (追補2)」改正	呼び径500~1000の施工性の向上を図ってゴム輪の物性、形状及び寸法を見直し、平成20年の規格を改正した。
	JDPA G 1051 「P N形ダクタイル鋳鉄管 (C P方式)」制定	既設管内に持ち込んで接合する方式〔C P方式(Carrying pipe method)〕の呼び径700~1500のP N形ダクタイル鋳鉄管を開発、実用化したことから制定した。
	JDPA Z 2004-2 「G X形ダクタイル鋳鉄管の表示 (追補2)」改正	G X形異形管及び接合部品の表示を見直し、平成23年の規格を改正した。
	—	日本ダクタイル鉄管協会が(一社)日本ダクタイル鉄管協会として登記した。
2013年 (平成25年)	(日本水道協会規格) JWWA G 120 「水道用G X形ダクタイル鋳鉄管」 制定	平成23年のJDPA G 1049のG X形ダクタイル鋳鉄管が日本水道協会の規格として制定された。 〈主な内容〉 呼び径…75~250 性能…伸縮量：管長の±1%、 離脱防止力：3D kN(Dは呼び径mm)、 許容屈曲角度：4° 外面塗装…耐食亜鉛系塗装
	JWWA G 121 「水道用G X形ダクタイル鋳鉄異 形管」制定	水道用鋼管の長寿命化に応えるための厚塗り塗装、その塗料の試験方法、塗装方法、塗装の検査方法などを規定し、平成22年の規格が改正された。
	JWWA K 157 「水道用無溶剤形エポキシ樹脂塗 料塗装方法」改正	関連省令及び告示の改正に伴い、浸出基準及び試験方法の整合を図って、平成16年の規格が改正された。
	JWWA Z 110 「水道用資機材－ 浸出液の分析方法」改正	—
	—	(社)日本水道協会が(公社)日本水道協会に移行された。
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1040 「ダクタイル鋳鉄管用ステンレス 鋼製ボルト・ナット」改正	材料及びボルト・ナットの追加、関連規格との整合などで、平成23年の規格を改正した。 〈主な内容〉 追加…SUS304系にSUS304N1及びSUS304N2並びにSUS316系にSUS329J3L及びSUS329J4Lを追加した。また、SUS316系にG X形T頭ボルト・ナットを追加した。 整合…JWWA G 120・121及びJDPA G 1049の 附属書A との整合を図った。
	JDPA G 1041 「ダクタイル鋳鉄製貯水槽(耐震 用・緊急用)」改正	配水管及び流入・流出連絡管にG X形管を追加、JWWA G 113・114との整合を図って、平成22年の規格を改正した。
JDPA G 1042 「N S形ダクタイル鋳鉄管」改正	関連規格との整合、異形管の追加、接合部品の削除などで、平成24年の規格を改正した。 〈主な内容〉 整合…JWWA G 113・114・120・121との整合を図った。 追加…呼び径500~1000の異形管を追加した。また、呼び径500~1000のバックアップリングの加工方法に射出成形を追加した。 削除…採用実績のなくなった呼び径75~250のタイプIのゴム輪を削除した。	
JDPA G 1043 「ダクタイル鋳鉄製水管橋」改正	G X形水管橋を追加、「F T形水管橋」の名称を「N S形水管橋」に変更、規格名称を「ダクタイル鋳鉄製水管橋」に変更して、平成23年の規格を改正した。	

年次	規格	関連事項
2013年 (平成25年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDKA G 1049 「GX形ダクタイル鉄管」改正	呼び径300のGX形ダクタイル鉄管及びソフトシール仕切弁を開発、実用化したことから追加、JWWA G 120・121との整合を図って、平成23年の規格を改正した。
	JDKA G 1052 「S50形ダクタイル鉄管」制定	耐地盤変動用の管として、GX形管、NS形管と同等の性能を有し、施工性の向上及び長寿命化を図り、さらに経済的な対応ができるS50形ダクタイル鉄管を開発、実用化したことから制定した。 〈主な内容〉 呼び径…50 性能…伸縮量：管長の±1%、 離脱防止力：3D kN(Dは呼び径mm)、 許容屈曲角度：4° 外面塗装…外面耐食塗装
	JDKA Z 2004-2 「GX形ダクタイル鉄管の表示」改正	呼び径300 GX形直管、異形管、バルブ及び接合部品の表示を追加、並びにポリエチレンの材質の記号を追加して、平成24年の規格を改正した。
	JDKA Z 2004-3 「S50形ダクタイル鉄管の表示」制定	JDKA G 1052のS50形ダクタイル鉄管に行う表示を規定して制定した。
	JDKA Z 2017 「ダクタイル鉄管用切管端面防食材料」改正	施工性及び防食性に優れたGX形防食キャップを開発、実用化したことから追加、防食ゴムの名称を変更し、平成23年の規格を改正した。 〈主な内容〉 防食キャップ…呼び径75～250 GX形防食キャップを追加した。 防食ゴム…K・T・S II形防食ゴムの名称をK・T形防食ゴムに変更した。
2014年 (平成26年)	(日本工業規格) JIS A 5314 「ダクタイル鉄管モルタルライニング」改正	対応国際規格のISO4179との整合並びに試験及び検査の項目が規定され、平成10年の規格が改正された。 〈主な項目〉 厚さ…平均最小厚さが削除された。また、一点最小厚さが下の許容差で表記された。 段差…ライニングの段差の規定が追加された。 細骨材の粒度分布…削除された。 セメントと細骨材との質量配合比…上限のみの規定に見直された。
	JIS G 5526 「ダクタイル鉄管」改正	対応国際規格のISO2531との整合並びに試験及び検査の項目が規定され、平成10年の規格が改正された。 〈主な項目〉 管厚…S種管を追加、中間管種が削除された。 接合形式…NS形、PN形が追加、S II形、KF形、PI形が削除された。また、US形にLS方式が追加された。
	JIS G 5527 「ダクタイル鉄管異形管」改正	呼び径…S形の呼び径が1100以上及び内面継手の呼び径が800以上に変更された。 硬さの単位…HBからHBWに変更された。 直管の有効長…上の許容差が+30mmから+70mmに変更された。 寸法の検査頻度…全数から製造業者の品質マネジメントシステムによる頻度に変更された。

年次	規格	関連事項
2014年 (平成26年)	(日本工業規格) JIS G 5528 「ダクタイル鋳鉄管内面エポキシ樹脂粉体塗装」改正	試験方法規格の廃止・制定に伴って試験方法を見直し、平成18年の規格が改正された。 〈主な内容〉 試験方法…JIS K 5400からJIS K 5600規格群に変更された。 溶解試験…削除された。 管の塗装の付着性…削除された。 塗装及び塗膜の試験範囲…表記方法が変更された。
	(日本水道協会規格) JWWA K 156 「水道施設用ゴム材料」一部改正	厚生労働省令の一部改正されたことに伴い、資機材及び給水装置の浸出基準に亜硝酸体窒素を追加、省令の直接引用に変更するなど、平成23年の規格が一部改正された。
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1042 「N S形ダクタイル鋳鉄管(追補1)」改正	射出成型によって製造する呼び径500～1000のN S形バックアップリングの注入ゲート部に凹部を設ける場合を追加し、平成25年の規格を改正した。
	JDPA G 1043 「ダクタイル鋳鉄製水管橋」改正	G X形水管橋に呼び径300を追加、F G X形両挿しフランジ付きT字管及びテーパリングの寸法を見直し、平成25年の規格を改正した。
	JDPA G 1049 「G X形ダクタイル鋳鉄管」改正	呼び径400のG X形ダクタイル鋳鉄管及びソフトシール仕切弁が開発、実用化されたことから追加、 JWWA G 120・121 及び JWWA B 120 との整合を図って、平成25年の規格を改正した。
	JDPA G 1051 「P N形ダクタイル鋳鉄管(J P方式及びC P方式)」改正	C P方式と同様に継手に抜け出し力が働いた場合にロックリングが管外面に絞られる構造のJ P方式(Jacking pipe method)を開発、実用化したことから、平成24年の規格を改正した。 〈主な内容〉 呼び径…C P方式：呼び径700～1500 J P方式：呼び径300～1500
	JDPA Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の表示」改正	関連規格の制定・改正による適用管種、接合部品I類の接合形式、ゴム輪の捺印表示などを見直し、平成23年の規格を改正した。 〈主な内容〉 管種…P N形(C P方式)、F G X形、G X形水管橋用の管及び接合部品並びにG X形防食キャップの表示を追加した。また、S II形、K F形、P I形、呼び径500～1000 S形、呼び径700の内面継手を削除した。 材質…T頭ボルトの材質表示にSUS304N1及びSUS304N2を追加した。 変更…呼び径500～1000 N S形切管用挿し口リング、U S形ロックリング、U S形及びU形割輪の接合形式の表示を変更した。ゴム輪の委託業者名の略号は捺印も可能とした。
JDPA Z 2004-2 「G X形ダクタイル鋳鉄管の表示」改正	呼び径400のG X形管、バルブ及び接合部品を追加、ロックリング及びライナに識別表示を追加、P-L i n kの挿し口部黄線を白線に変更して、平成25年の規格を改正した。	

年次	規格	関連事項
2015年 (平成27年)	(日本水道協会規格) JWWA A 113 「水道用ダクタイル鋳鉄管 モルタルライニング」改正	平成26年のJIS A 5314との整合を図って、平成22年の規格が改正された。 〈主な内容〉 厚さ…平均最小厚さが削除された。また、一点最小厚さが下の許容差で表記された。 段差…ライニングの段差の規定が追加された。 セメントと細骨材との質量配合比…上限のみの規定に見直された。
	JWWA G 112 「水道用ダクタイル鋳鉄管 内面エポキシ樹脂粉体塗装」 改正	平成26年のJIS G 5528との整合を図るなどで、平成16年の規格が改正された。 〈主な項目〉 塗装及び塗膜の試験範囲…表記方法が変更された。 塗料の組成…酸化鉄及び黄色酸化鉄が追加された。 比重試験…供試体が塗膜から塗料に変更された。 浸出性…独立した箇条にし、その浸出性及び浸出試験方法が附属書に規定された。
	JWWA G 113 「水道用ダクタイル鋳鉄管」 改正	平成26年のJIS G 5526・5527との整合を図るなどで、平成22年の規格が改正された。 〈主な内容〉 管厚…S種管が追加された。 管種…呼び径500～1000のNS形、PN形が追加、SII形、KF形が削除された。また、S形の呼び径が1100以上に変更された。
	JWWA G 114 「水道用ダクタイル 鋳鉄異形管」改正	直管の有効長…上の許容差が+30 mmから+70 mmに変更された。 寸法の検査頻度…全数から製造業者の定める頻度に変更された。
	JWWA K 139 「水道用ダクタイル鋳鉄管合成樹脂塗料」改正	塗料試験方法の見直しなどで、平成20年の規格が改正された。 〈主な内容〉 塗料の組成…JWWA K 135、JWWA K 157に規定され、使用する可能性のある原料が追加された。 塗料の試験方法…耐湿性の試験に回転式が追加された。 塗料の浸出性…省令の直接引用に変更された。
	JWWA K 156 「水道施設用ゴム材料」改正	試験方法の引用JISの変更などで、平成26年の規格が改正された。 〈主な内容〉 促進老化試験…JIS K 6257の改正に伴い、加圧酸素加熱老化試験からAA-2〔強制循環形熱老化試験機(横風式)〕に変更された。 浸出性…省令の直接引用に変更された。
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDKA G 1027 「農業用水用ダクタイル鋳鉄管」 改正	JIS G 5526・5527との整合、直管の内面にJDKA G 1053の塗装を追加し、平成23年の規格を改正した。 〈主な内容〉 製造方法…項目を追加した。 水密性…“耐水圧性”に変更した。 直管の有効長…上の許容差を+30 mmから+70 mmに変更した。 寸法の検査頻度…全数から製造業者の定める頻度に変更した。 直管の内面塗装…JDKA G 1053のエポキシ樹脂粉体塗料に無機材料を混合した塗装を追加した。

年次	規格	関連事項
2015年 (平成27年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1042-2 「NS形ダクタイル鉄管(E種管)」 制定	JIS G 5526、JWWA G 113、JSWAS G-1、JDPA G 1042に規定されているNS形ダクタイル鉄管と同等の性能を有し、経済性と軽量化を実現したE種管が開発、実用化したことから制定した。 〈主な内容〉 呼び径…75、100 管厚…E種管(D E)を規定した。 内面塗装…エポキシ樹脂塗料に無機系材料を混合した塗装とした。
	JDPA G 1052 「S50形ダクタイル鉄管」改正	JDPA G 1049及びJWWA G 120・121との整合を図って耐食亜鉛系塗装を追加、継手性能が同じで、形状、寸法が異なる抜け止め押輪を追加して、平成25年の規格を改正した。
	JDPA G 1053 「ALW形ダクタイル鉄管」 制定	水道以外の低圧管路には、T形ダクタイル鉄管をベースとして、より経済的な対応ができる呼び径300~400 ALW形ダクタイル鉄管を開発、実用化したことから制定した。
	JDPA G 1053-2 「ALW形ダクタイル鉄管」 制定	水道以外の低圧管路には、呼び径300~400 ALW形ダクタイル鉄管が使用されているが、更に大きな呼び径のALW形ダクタイル鉄管を開発、実用化したことから制定した。 〈主な内容〉 呼び径…300~600
	JDPA Z 2004-3 「S50形ダクタイル鉄管の表示」 改正	JDPA G 1052に新たに追加した現行品と同等の継手性能を有する抜け止め押輪の表示を規定して、平成25年の規格を改正した。
	JDPA Z 2017 「ダクタイル鉄管用 切管端面防食材料」改正	呼び径300 GX形防食キャップを追加、エラストマーの物性の見直しなどで、平成25年の規格を改正した。
2016年 (平成28年)	(日本水道協会規格) JWWA Z 108 「水道用資機材の浸出試験方法」 改正	関連厚生労働省令・告示・通知などの内容と整合を図って、平成24年の規格が改正された。
	JWWA Z 110 「水道用資機材の浸出試験及び水道用薬品の評価試験に係る分析方法」改正	関連厚生労働省令・告示・通知などの内容と整合を図って、平成25年の規格が改正された。
	(日本下水道協会規格) JSWAS G-1 「下水道用ダクタイル鉄管」 改正	管種の追加、JIS A 5314、G 5526・5527・5528との整合などで、平成22年の規格が改正された。 〈主な内容〉 管種…呼び径75~300、400 GX形管、呼び径500~1000のNS形管が追加、S II形管、KF形管、呼び径500~1000のS形管が削除された。 直管の有効長…上の許容差が+30 mmから+70 mmに変更された。 モルタルライニング…平成26年のJIS A 5314との整合を図って見直された。 エポキシ樹脂粉体塗装…平成26年のJIS G 5528との整合を図って見直された。

年次	規格	関連事項
2016年 (平成28年)	(日本下水道協会規格) JSWAS G-2 「下水道推進工法用ダクタイル鋳鉄管」 改正	JSWAS G-1との整合などで、平成22年の規格が改正された。 〈主な内容〉 推進管路…U F形推進管路が削除された。 管種…挿し口がK F形の先頭管及び受口がK F形の最後管が削除され、N S形挿し口及び受口先頭管及び最後管に置き換えられた。また、U形及びU S形推進管路の異種継手管が削除された。
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDP A G 1027 「農業用水用ダクタイル鋳鉄管」 改正	平成27年の規格を改正した。 〈主な内容〉 直管の耐水圧性…代替方法として、気密性と耐圧性の組合せを追加した。 直管の内面塗装…エポキシ樹脂塗料に無機系材料を混合した塗装を追加した。 T形直管…呼び径300～600の受口外面の形状に破線の形状を追加した。 曲管…呼び径300～600 K形両受曲管、呼び径600～1500 K形曲管を追加した。
	JDP A G 1029 「推進工法用ダクタイル鋳鉄管」 改正	JSWAS G-2との整合を図って、平成22年の規格を改正した。 〈主な内容〉 推進管路…U F形推進管路を削除した。 管種…挿し口がK F形の先頭管及び受口がK F形の最後管を削除し、N S形挿し口先頭管及びN S形受口最後管に置き換えた。また、U形及びU S形推進管路の異種継手管を削除した。
	JDP A G 1042 「N S形ダクタイル鋳鉄管」改正	JIS G 5526・5527、JWWA G 113・114との整合、直管の耐水圧性の代替方法としての気密性と耐圧性の組合せを追加し、平成26年の規格を改正した。
	JDP A G 1042-2 「N S形ダクタイル鋳鉄管 (E種管)」改正	N S形直管(E種管)と同様に経済性と軽量化を実現した呼び径75、100のN S形異形管(E種管)を開発、実用化したことから追加し、平成27年の規格を改正した。
	JDP A G 1042-2-1 「N S形ダクタイル鋳鉄管 (E種管)」制定	JDP A G 1042-2として呼び径75、100 N S形ダクタイル鋳鉄管(E種管)が使用されているが、さらに大きい呼び径のN S形ダクタイル鋳鉄管(E種管)を開発、実用化したことから制定した。 〈主な内容〉 呼び径…150
	JDP A G 1042-3 「N S形ダクタイル鋳鉄管 (Gタイプ)」制定	JDP A G 1042-2の呼び径75～150のN S形ダクタイル鋳鉄管(E種管)が下水道施設で使用されているが、さらに大きな呼び径のN S形ダクタイル鋳鉄管(Gタイプ)を開発、実用化したことから制定した。 〈主な内容〉 呼び径…200・250
JDP A G 1051 「P N形ダクタイル鋳鉄管 (J P方式及びC P方式)」改正	JIS G 5526・5527、JWWA G 113・114との整合、J P方式の施工性の向上を図るためにロックリングの材質を変更、内面塗装を追加、直管の耐水圧性の代替方法を追加するなど、平成26年の規格を改正した。 〈主な内容〉 ロックリング…呼び径300～600のJ P方式の材質をFCD600-3に変更した。 内面塗装…エポキシ樹脂粉体塗料に無機材料を混合した塗装を追加した。 直管の耐水圧性…代替方法として気密性及び耐圧性の組合せを追加した。	

年次	規格	関連事項
2016年 (平成28年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA G 1053 「ALW形ダクタイル鋳鉄管」 改正	水道以外の低圧管路には、呼び径300～400のJDPA G 1053及び呼び径450～600のJDPA G 1053-2が使用されているが、更に大きな呼び径のALW形ダクタイル鋳鉄管を開発、実用化したことから追加、JDPA G 1053-2を統合し、平成27年の規格を改正した。 〈主な内容〉 呼び径…300～800
	JDPA Z 2004-4 「NS形ダクタイル鋳鉄管(E種管)の表示」制定	JDPA G 1042-2のNS形ダクタイル鋳鉄管(E種管)に行う表示を規定して制定した。
	JDPA Z 2004-4-1 「NS形ダクタイル鋳鉄管(E種管)の表示」制定	JDPA G 1042-2-1のNS形ダクタイル鋳鉄管(E種管)に行う表示を規定して制定した。
	JDPA G 1053-2 「ALW形ダクタイル鋳鉄管」 廃止	JDPA G 1053に統合したことから平成27年の規格を廃止した。
2017年 (平成29年)	(日本水道協会規格) JWWA A 113 「水道用ダクタイル鋳鉄管 モルタルライニング」一部改正	シールコートの組成追加に伴う一部の材料について、浸出試験の妥当性が確認されたため、平成27年の規格が一部改正された。 〈主な内容〉 溶剤の組成…ジプロピレングリコールモノメチルエーテル、2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタンジオールモノイソブチレート、ナフテン系炭化水素(C9～C10)が追加された。
	JWWA G 112 「水道用ダクタイル鋳鉄管 内面エポキシ樹脂粉体塗装」 改正	直管の塗装で生じたピンホール、軽微なきず、くぼみなどの補修について、規格制定時に手直しとして規定されていたりコートを改めて追加し、平成27年の規格が改正された。
	JWWA G 120 「水道用GX形ダクタイル鋳鉄管」 改正	呼び径300及び400を追加、JWWA G 113・114との整合を図って直管の有効長の上の許容差を+30mmから+70mmに変更するなど、平成25年の規格が改正された。
	JWWA G 121 「水道用GX形ダクタイル鋳鉄異形管」改正	
	JWWA K 139 「水道用ダクタイル鋳鉄管合成樹脂塗料」一部改正	塗料の組成追加に伴う一部の材料について、浸出試験の妥当性が確認されたため、平成27年の規格が一部改正された。 〈主な内容〉 溶剤の組成…ジプロピレングリコールモノメチルエーテル、2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタンジオールモノイソブチレート、ナフテン系炭化水素(C9～C10)が追加された。
JWWA K 158 「水道用ダクタイル鋳鉄管用 ポリエチレンスリーブ」改正	スリーブ本体の品質向上を図るなどで、平成17年の規格が改正された。 〈主な内容〉 品質…酸化誘導時間が規定された。 メルトマスフローレイト…引用JISが変更された。 スリーブの検査頻度…規定された。 締め具の試験方法…引用JISが見直された。	

年次	規格	関連事項
2017年 (平成29年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA A 3000 「ダクタイル鋳鉄管、異形管及び 接合部品 ー共通仕様ー」制定	ダクタイル鋳鉄管、ダクタイル鋳鉄異形管及び接合部品の 品質を規定して制定した。
	JDPA G 1041 「ダクタイル鋳鉄製貯水槽(耐震 用・緊急用)」改正	採用実績がなくなった貯水槽の構成部品のU F形直管及び 異形管並びに帽及び栓の内面モルタルライニングを削除な どで、平成25年の規格を改正した。
	JDPA G 1042-2 「N S形ダクタイル鋳鉄管(E種 管)」改正	N S形ダクタイル鋳鉄管(E種管)ロングを実用化したこと から追加、ゴム輪(異形管用)(E種管)の物性の見直し、 JDPA G 1042-2-1を統合し、平成28年の規格を改正した。 〈主な内容〉 呼び径：75～150 ただし、ロングは呼び径100 物性：ゴム輪(異形管用)(E種管)の圧縮永久ひずみをプ ッシュオン継手と同じに見直した。
	JDPA G 1046 「P N形ダクタイル鋳鉄管」改正	JDPA G 1051を統合すると共に継手構造を変更、耐水圧 性の代替方法を追加などで、平成19年の規格を改正した。 〈主な内容〉 直管の耐水圧性の代替方法…気密性及び耐圧性の組合せを 追加した。 継手構造…受口に設けた長穴からのロックリング挿入をな くし、受口溝とロックリングにテーパを設けて、 継手に抜け出し力が働いた場合にロックリング が管外面に絞られる構造に変更した。
	JDPA G 1053 「A L W形ダクタイル鋳鉄管」 改正	水道以外の低圧管路には、呼び径300～800が使用されて いるが、更に大きな呼び径のA L W形ダクタイル鋳鉄管を開 発、実用化したことから追加し、平成28年の規格を改正し た。 〈主な内容〉 呼び径…300～1500 内面塗装…液状エポキシ樹脂塗料に無機系材料を混合した 塗装を追加した。
	JDPA Z 2004 「ダクタイル鋳鉄管類の表示」改 正	JDPA Z 2004-2、JDPA Z 2004-3、JDPA Z 2004-4、 JDPA Z 2004-4-1を統合し、平成26年の規格を改正した。
	JDPA G 1042-2-1 「N S形ダクタイル鋳鉄管 (E種管)」廃止	JDPA G 1042-2に統合したことから平成28年の規格を廃 止した。
	JDPA G 1048 「U S形ダクタイル鋳鉄管(L S 方式)」廃止	JIS G 5527、JWWA G 113・114、JSWAS G-1となり、 JDPA G 1048は平成19年、JDPA G 1050は平成23年の 規格を廃止した。
	JDPA G 1050 「U S形切管用挿し口リング」 廃止	
JDPA G 1051 「P N形ダクタイル鋳鉄管(J P 方式及びC P方式)」廃止	JDPA G 1046に統合したことから平成28年の規格を廃止 した。	

年次	規格	関連事項									
2017年 (平成29年)	JDPA Z 2004-2 「GX形ダクタイル鋳鉄管の表示」 廃止	JDPA Z 2004に統合したことから、JDPA Z 2004-2は平成26年、JDPA Z 2004-3は平成27年、JDPA Z 2004-4及びJDPA Z 2004-4-1は平成28年の規格を廃止した。									
	JDPA Z 2004-3 「S50形ダクタイル鋳鉄管の表示」 廃止										
	JDPA Z 2004-4 「NS形ダクタイル鋳鉄管(E種管)の表示」 廃止										
	JDPA Z 2004-4-1 「NS形ダクタイル鋳鉄管(E種管)の表示」 廃止										
2018年 (平成30年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDPA A 3000 「ダクタイル鋳鉄管、異形管及び 接合部品 ー共通仕様ー」改正	JDPA G 1049との整合を図って、呼び径75～250の直管用及びP-L i n k用GX形ゴム輪を変更し、平成29年の規格を改正した。									
	JDPA G 1027 「農業用水用ダクタイル鋳鉄管」 改正	JDPA G 1053との整合を図って直管内面のエポキシ樹脂塗料に無機系材料を混合した塗装の品質、試験及び検査を変更し、平成28年の規格を改正した。 〈主な内容〉 <table border="1"> <thead> <tr> <th>品質</th> <th>試験</th> <th>検査</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>使用上有害なひび割れがない</td> <td>5%のたわみ試験</td> <td>新たに製造を開始する初回、及び品質変更の都度</td> </tr> <tr> <td>塗装表面に使用上有害な欠陥がない</td> <td>目視による確認</td> <td>全数</td> </tr> </tbody> </table>	品質	試験	検査	使用上有害なひび割れがない	5%のたわみ試験	新たに製造を開始する初回、及び品質変更の都度	塗装表面に使用上有害な欠陥がない	目視による確認	全数
	品質	試験	検査								
使用上有害なひび割れがない	5%のたわみ試験	新たに製造を開始する初回、及び品質変更の都度									
塗装表面に使用上有害な欠陥がない	目視による確認	全数									
JDPA G 1049 「GX形ダクタイル鋳鉄管」 改正	JIS及びJWWA規格との整合、直管の耐水圧性の代替方法を追加、新形状及び寸法のG-L i n kを追加、呼び径75～250の直管用及びP-L i n k用ゴム輪を変更し、平成26年の規格を改正した。 〈主な内容〉 直管の耐水圧性の代替方法…気密性及び耐圧性の組合せを追加した。 G-L i n k…新形状及び寸法のG-L i n kを追加した。 呼び径75～250のゴム輪(直管用、P-L i n k用) …施工性の向上を図って物性、形状及び寸法を変更した。										
JDPA G 3002-2 「US形ダクタイル鋳鉄管(R方式)」 制定	内面継手の耐地盤変動用のUS形ダクタイル鋳鉄管について、ゴム輪を押輪で受口内面の所定の位置に挿入した後、ゴム輪と押輪の位置を保持するためにスペーサを挿入する革新的な方式(Revolutionary method)のUS形ダクタイル鋳鉄管(R方式)を開発、実用化したことから制定した。 〈主な内容〉 呼び径…2400・2600 呼び径の種類…呼び径区分Aと呼び径区分Bの2種類 区分A：JIS、JWWA規格と同じ外径(D ₂)寸法の管 区分B：呼び径と同じ外径(D ₂)寸法の管 直管の種類…直管、角度付き直管(呼び径2400：1°～5°、呼び径2600：1°～3°で1°刻み) 異形管の種類…曲管(11 $\frac{1}{4}$ °、8°、5 $\frac{5}{8}$ °、3°)、継ぎ輪、長尺継ぎ輪、変換継ぎ輪(呼び径A-L S方式)、変換継ぎ輪(呼び径B-L S方式)、変換継ぎ輪(呼び径A-呼び径B)										

年次	規格	関連事項
2019年 (平成31年) (令和元年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDKA A 3000 「ダクタイル鋳鉄管、異形管及び 接合部品 ー共通仕様ー」改正	呼び径350のG X形直管、異形管及び接合部品を追加する などで、平成30年の規格を改正した。
	JDKA G 1046 「PN形ダクタイル鋳鉄管」 改正	呼び径400～600の曲線部の更なる施工性の向上を図り曲管 を追加、下水道への対応の強化などで、平成29年の規格を 改正した。 〈主な内容〉 異形管…曲管(11 $\frac{1}{4}$ °、5 $\frac{5}{8}$ °、3°)を追加した。 塗覆装…適用規格にJSWAS G-1を追加した。 ゴム輪…物性試験の適用規格をJWWA規格から汎用規格の JISに変更した。
	JDKA G 1049 「GX形ダクタイル鋳鉄管」 改正	呼び径350の直管、異形管及びバルブを追加、呼び径75～ 250の直管の挿し口突部の形状を見直し、挿し口側の形状 を規定しないことなどで、平成30年の規格を改正した。
	JDKA G 1053 「ALW形ダクタイル鋳鉄管(追補 1)」改正	JIS Z 2243の改廃、JIS K 6257の改正により規格内容見 直し、管路の通水性能の維持を図るために無機系材料の混 合割合を規定するなど、平成29年の規格を改正した。
	JDKA G 3002-2 「US形ダクタイル鋳鉄管(R方 式)」改正	呼び径1500～2200のUS形ダクタイル鋳鉄管(R方式)を開 発、実用化したことから、平成30年の規格を改正した。 〈主な内容〉 呼び径…1500～2600 呼び径の種類…呼び径区分Aと呼び径区分Bの2種類 直管の種類…直管、角度付き直管(呼び径1500～2400:1° ～5°、呼び径2600:1°～3°で1°刻み) 異形管の種類…平成30年と同じ。
	JDKA Z 2004-5 「US形ダクタイル鋳鉄管(R方 式)の表示」制定	JDKA G 3002-2のUS形ダクタイル鋳鉄管(R方式)に行 う表示を規定して制定した。
—	JISの日本語名称が「日本工業規格」から「日本産業規格」 に変更された。	
2020年 (令和2年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDKA G 1027 「農業用水用ダクタイル鋳鉄管」 改正	農業用水用として広範囲な使用条件に適用できるよう、異 形管を追加、直管内面のシリカエポキシ樹脂塗装に使用す る無機系材料の混合割合を規定するなど、平成30年の規 格を改正した。 〈主な内容〉 異形管…呼び径700～1500K形両受曲管、及び呼び径300～ 1500(本管)K形両受フランジ付きT字管を追加した。
	JDKA G 1042 「NS形ダクタイル鋳鉄管」 改正	呼び径350・450のロックリングについて、GX形ロックリ ングとの兼用化を図り、寸法・形状及び質量をGX形に合 わせ、JIS Z 2243の改廃との整合を図り、平成28年の規 格を改正した。
	JDKA G 1042-2 「NS形ダクタイル鋳鉄管(E種管)」 改正	呼び径100NS形ダクタイル鋳鉄管(E種管)の有効長4000 mm及びその接合部品を削除、有効長5000mmの直管及びそ の接合部品の“ロング”を付けた名称を廃止、直管の内面 塗装に使用する塗料は、無機系材料を含まないエポキシ樹 脂粉体塗料でもよいこととするなどで、平成29年の規格を 改正した。
	JDKA G 1049 「GX形ダクタイル鋳鉄管」改正	呼び径450の管が開発、実用化され、直管、異形管などを 追加した。
	JDKA G 1053 「ALW形ダクタイル鋳鉄管」 改正	内面塗装に、無機系材料を混合しない塗料による塗装を追 加、外面塗装の色に黒色を追加するなど、令和元年の規 格を改正した。

年次	規格	関連事項
2020年 (令和2年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDKA Z 2004-5 「U S 形ダクタイル 鋳鉄管 (R 方式) の表示」改正	U S 形ロックリングサポータ (R 方式) の樹脂ピースの表示方法に浮き出しを追加、U S 形角度付きダクタイル 鋳鉄管 (R 方式) に行う警告表示を見直しなどで、令和元年の規格を改正した。
2021年 (令和3年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDKA G 1052 「S 50形ダクタイル 鋳鉄管」改正	呼び径50ポリエチレンスリーブがJDKA Z 3003に追加されたことにより、ポリエチレンスリーブの規定(附属書D)を削除、JWWA G 120・121との整合を図るなどで、平成27年の規格を改正した。
2022年 (令和4年)	(日本産業規格) JIS G 5502 「球状黒鉛鋳鉄品」改正	ISO 1083:2018との整合、画像解析による黒鉛球状化率の算出方法の導入などで、平成19年の規格が改正された。 〈主な内容〉 試験方法…供試材、試験片、再試験などについて、詳細が規定された。 黒鉛球状化率の測定方法…従来規定されていた方法が、ISO法とJIS法に分けられ、新たに超音波伝播速度による測定方法が追加された。 黒鉛球状化率の算出方法…画像解析装置による算出方法が追加された。
	(日本水道協会規格) JWWA G 113 「水道用ダクタイル 鋳鉄管」改正	前回の規格改正以降の技術開発・市場動向等を考慮し、試験方法の引用規格の改廃を反映、JWWA G 120・121との整合を図るなどで、平成27年の規格が改正された。 〈主な内容〉 接合形式…U S 形のS B 方式、V T 方式、P II 形及びT 形直管呼び径300以上が削除された。
	JWWA G 114 「水道用ダクタイル 鋳鉄異形管」改正	継手構造…P N 形受口の構造が、JDKA G 1046の最新版の内容に変更、呼び径1600~2600のU S 形挿し口突部の形状が変更された。
	JWWA G 120 「水道用G X 形ダクタイル 鋳鉄管」改正	実績が増加した呼び径350を追加、呼び径75~250の直管の挿し口突部の形状を変更、呼び径75~250のゴム輪の物性、形状、寸法を見直し、G-L i n k は図の形状に限定しないこととして新たな寸法を追加、試験方法の引用規格の改廃を反映、JWWA G 113・114との整合を図るなどで、平成29年の規格が改正された。
	JWWA G 121 「水道用G X 形ダクタイル 鋳鉄異形管」改正	
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDKA A 3000 「ダクタイル 鋳鉄管、異形管及び接合部品 - 共通仕様 - 」改正	JWWA G 113・114、JDKA G 1049との整合を図り、呼び径450のG X 形直管、異形管及び接合部品を追加、P N 形の引用をJDKA G 1046の最新版に変更、U S 形のS B 方式、V T 方式、P II 形を削除し、令和元年の規格を改正した。
	JDKA Z 2004 「ダクタイル 鋳鉄管類の表示」改正	JWWA G 113・114、JDKA G 1042-2、JDKA G 1049との整合を図るなどで、平成29年の規格を改正した。
	JDKA G 1033 「P II 形ダクタイル 鋳鉄管」廃止	パイプ・イン・パイプ工法用のP N 形管が普及したことにより、平成19年の規格を廃止した。
2023年 (令和5年)	(日本産業規格) JIS K 6353 「水配管接合部用ゴム」改正 (旧規格名称：水道用ゴム)	水道以外の用途でも広く使われている実情に合わせて規格名称及び適用範囲を変更、浸出性については、「関係法令で定められた基準がある。」と記載、ISO 4633との整合性を図るなどで、平成23年の規格が改正された。
2024年 (令和6年)	(日本産業規格) JIS G 5502 「球状黒鉛鋳鉄品(追補1)」改正	用語の定義や規定の表現を見直し、令和4年の規格が改正された。

年次	規格	関連事項
2024年 (令和6年)	(日本水道協会規格) JWWA K 139 「水道用ダクタイル鋳鉄管合成樹脂塗料」改正	組成の追加と削除、試験方法の見直しなどで、平成29年の規格が変更された。 〈主な内容〉 塗料の組成…現在使用されていないフタロシアニンプールが削除された。使用可能な組成が追加、配合率の規定が必要な場合は上限値が設定された。 塗膜物性…塗膜物性の評価基準が規定され、物性試験片の作成における塗料の希釈方法及び塗膜厚さの測定方法が規定された。 浸出試験…試験片の作成方法が見直され、塗膜厚さの測定方法が規定された。
	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDKA G 1049-2 「GX形ダクタイル鋳鉄管」制定	呼び径500～1000の耐地盤変動用の管として、NS形管と同等の性能を有し、施工性の向上及び経済的な対応ができるGX形ダクタイル鋳鉄管を開発、実用化したことから制定した。 〈主な内容〉 呼び径…500～1000 性能…伸縮量：管長の±1%、 離脱防止力：3D kN(Dは呼び径mm)、 継手形式…押輪と受口フランジ部をメタルタッチ接合するメカニカルタイプ
2025年 (令和7年)	(日本ダクタイル鉄管協会規格) JDKA G 1029 「推進工法用ダクタイル鋳鉄管」改正	JWWA G 113・114及びJDKA A 3002との整合を図り、US形受口はLS方式だけとして、平成28年の規格を改正した。
	JDKA Z 2004-6 「GX形ダクタイル鋳鉄管の表示(呼び径500～1000)」制定	JDKA G 1049-2のGX形ダクタイル鋳鉄管に行う表示を規定して制定した。
	JDKA G 1049-2 「GX形ダクタイル鋳鉄管」改正	栓のボルト穴の規定を表に追加、T頭ボルト・ナットを栓に使用する場合の1セットの数を表に追加などで、令和6年の規格を改正した。

5. 鑄鉄管類の規格目録

鑄鉄管類の規格目録（令和7年8月）を下表に示します。

日本産業規格（JIS）目録

規格番号	規格名称
JIS A 5314 : 2014	ダクタイル鑄鉄管モルタルライニング
JIS G 5502 : 2024	球状黒鉛鑄鉄品
JIS G 5526 : 2014	ダクタイル鑄鉄管
JIS G 5527 : 2014	ダクタイル鑄鉄異形管
JIS G 5528 : 2014	ダクタイル鑄鉄管内面エポキシ樹脂粉体塗装
JIS K 6353 : 2023	水配管接合部用ゴム(旧規格名称：水道用ゴム)

(公社)日本水道協会規格（JWWA）目録

規格番号	規格名称
JWWA A 113 : 2017	水道用ダクタイル鑄鉄管モルタルライニング
JWWA G 112 : 2017	水道用ダクタイル鑄鉄管内面エポキシ樹脂粉体塗装
JWWA G 113 : 2022	水道用ダクタイル鑄鉄管
JWWA G 114 : 2022	水道用ダクタイル鑄鉄異形管
JWWA G 120 : 2022	水道用GX形ダクタイル鑄鉄管
JWWA G 121 : 2022	水道用GX形ダクタイル鑄鉄異形管
JWWA K 135 : 2007	水道用液状エポキシ樹脂塗料塗装方法
JWWA K 139 : 2024	水道用ダクタイル鑄鉄管合成樹脂塗料
JWWA K 156 : 2015	水道施設用ゴム材料
JWWA K 157 : 2013	水道用無溶剤形エポキシ樹脂塗料塗装方法
JWWA K 158 : 2017	水道用ダクタイル鑄鉄管用ポリエチレンスリーブ
JWWA Z 108 : 2016	水道用資機材の浸出試験方法 (旧規格名称：水道用資機材－浸出試験方法)
JWWA Z 110 : 2016	水道用資機材の浸出試験及び水道用薬品の評価試験に係る分析方法 (旧規格名称：水道用資機材－浸出液の分析方法)

(公社)日本下水道協会規格（JSWAS）目録

規格番号	規格名称
JSWAS G-1 : 2016	下水道用ダクタイル鑄鉄管
JSWAS G-2 : 2016	下水道推進工法用ダクタイル鑄鉄管

(一社)日本ダクタイル鉄管協会規格(JDPA)目録

規格番号	規格名称
JDPA A 3000-2022	ダクタイル鋳鉄管、異形管及び接合部品 - 共通仕様 -
JDPA G 1027-2020	農業用水用ダクタイル鋳鉄管
JDPA G 1029-2025	推進工法用ダクタイル鋳鉄管
JDPA G 1030-2011	ダクタイル鋳鉄管
JDPA G 1031-2011	ダクタイル鋳鉄異形管
JDPA G 1040-2013	ダクタイル鋳鉄管用ステンレス鋼製ボルト・ナット
JDPA G 1041-2017	ダクタイル鋳鉄製貯水槽(耐震用・緊急用)
JDPA G 1042-2020	NS形ダクタイル鋳鉄管
JDPA G 1042-2-2020	NS形ダクタイル鋳鉄管(E種管)
JDPA G 1042-3-2016	NS形ダクタイル鋳鉄管(Gタイプ)
JDPA G 1043-2014	ダクタイル鋳鉄製水管橋
JDPA G 1046-2019	PN形ダクタイル鋳鉄管
JDPA G 1047-2006	NS形防食ゴム付き切管用挿し口リング
JDPA G 1049-2020	GX形ダクタイル鋳鉄管
JDPA G 1049-2-2025	GX形ダクタイル鋳鉄管(呼び径500~1000)
JDPA G 1052-2021	S50形ダクタイル鋳鉄管
JDPA G 1053-2020	ALW形ダクタイル鋳鉄管
JDPA G 3002-2-2019	US形ダクタイル鋳鉄管(R方式)
JDPA Z 2002-2010	ダクタイル鋳鉄管継手用滑剤
JDPA Z 2004-2022	ダクタイル鋳鉄管類の表示
JDPA Z 2004-5-2020	US形ダクタイル鋳鉄管(R方式)の表示
JDPA Z 2004-6-2025	GX形ダクタイル鋳鉄管の表示(呼び径500~1000)
JDPA Z 2009-2011	ダクタイル鋳鉄管外面特殊塗装
JDPA Z 2010-2009	ダクタイル鋳鉄管合成樹脂塗装
JDPA Z 2011-2009	ダクタイル鋳鉄異形管内面液状エポキシ樹脂塗装
JDPA Z 2015-2007	水道用ダクタイル鋳鉄管モルタルライニング-シールコート
JDPA Z 2016-2005	ダクタイル鋳鉄管内面エポキシ樹脂粉体塗装
JDPA Z 2017-2015	ダクタイル鋳鉄管用切管端面防食材料

一般社団法人

日本ダクタイル鉄管協会

<https://www.jdpa.gr.jp>

本部・関東支部	東京都千代田区九段南4丁目8番9号（日本水道会館） 電話 03（3264）6655（代） FAX 03（3264）5075
関西支部	大阪府中央区南船場4丁目12番12号（ニッセイ心斎橋ウエスト） 電話 06（6245）0401 FAX 06（6245）0300
北海道支部	札幌市中央区北2条西2丁目41番地（札幌2・2ビル） 電話 011（251）8710 FAX 011（522）5310
東北支部	仙台市青葉区本町2丁目5番1号（NL仙台広瀬通ビル） 電話 022（261）0462 FAX 022（399）6590
中部支部	名古屋市中村区名駅3丁目22番8号（大東海ビル） 電話 052（561）3075 FAX 052（433）8338
中国四国支部	広島市中区立町2番23号（野村不動産広島ビル） 電話 082（545）3596 FAX 082（545）3586
九州支部	福岡市中央区天神2丁目14番2号（福岡証券ビル） 電話 092（771）8928 FAX 092（406）2256